

鶴岡市地域コミュニティ推進計画の評価に係る

アンケート調査報告書

目 次

共通		1
鶴岡地域	単位自治組織	4
〃	広域自治組織	18
藤島地域	単位自治組織	30
〃	広域自治組織	36
羽黒地域	単位自治組織	42
〃	広域自治組織	52
櫛引地域	単位自治組織	62
朝日地域	単位自治組織	72
〃	広域自治組織	82
温海地域	単位自治組織	90
<参考>	アンケート調査票	104
	鶴岡地域広域自治組織の場合	

アンケート調査の実施

第1期鶴岡市地域コミュニティ推進計画の地域課題に基づき、住民主体によるまちづくり活動の現状を評価・検証するとともに、今後のまちづくりの在り方や方向性を探るために、アンケート調査を実施しました。

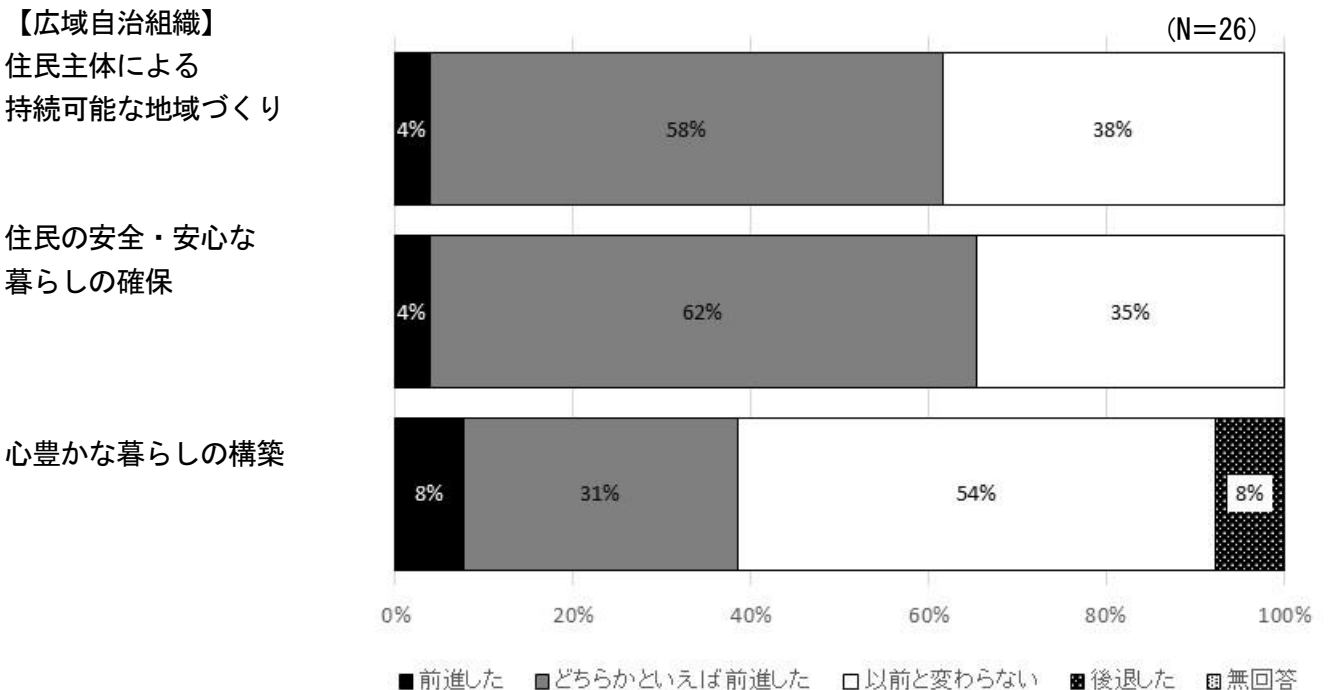
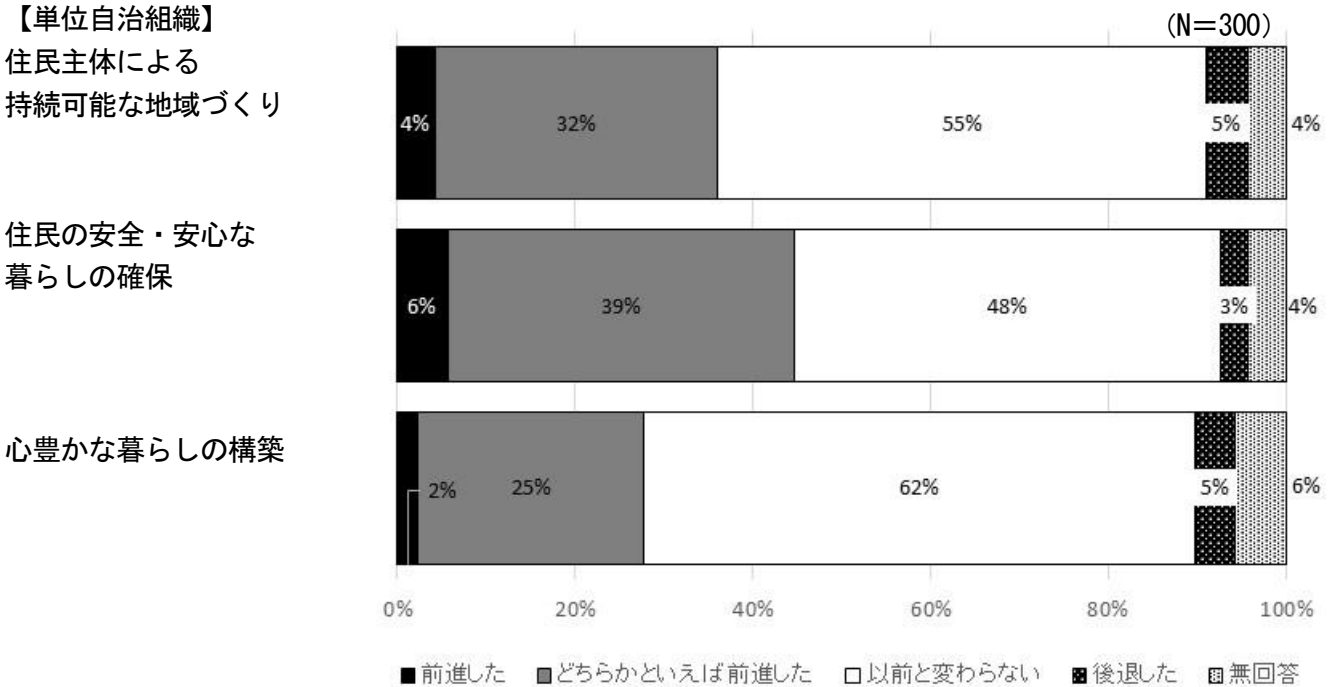
- ① 調査対象 単位自治組織 463 組織、広域自治組織 33 組織の長
なお、追加調査として、次代の担い手となる方を各組織から1人選出いただき実施
- ② 調査時期 令和2年5月～6月
- ③ 調査方法 郵送配付。回収は、市役所またはコミュニティセンターにお持ちいただくほか、ファクスなど
- ④ 回収状況 次のとおり

		調査対象数	回答数	有効回答数	有効割合
鶴岡	単位自治組織	248	180	179	72.2%
	単位自治組織 (追加調査)	248	168	168	67.7%
	広域自治組織	21	19	19	90.5%
	広域自治組織 (追加調査)	21	18	18	85.7%
藤島※	単位自治組織	61	46	46	75.4%
	単位自治組織 (追加調査)	未実施			
	広域自治組織	5	5	5	100.0%
	広域自治組織 (追加調査)	未実施			
羽黒	単位自治組織	69	48	48	69.6%
	単位自治組織 (追加調査)	69	44	44	63.8%
	広域自治組織	4	4	4	100.0%
	広域自治組織 (追加調査)	4	4	4	100.0%
櫛引	単位自治組織	21	20	20	95.2%
	単位自治組織 (追加調査)	21	19	19	90.5%
朝日	単位自治組織	38	30	30	78.9%
	単位自治組織 (追加調査)	38	25	25	65.8%
	広域自治組織	3	3	3	100.0%
	広域自治組織 (追加調査)	3	3	3	100.0%
温海	単位自治組織	27	23	23	85.2%
	単位自治組織 (追加調査)	27	20	20	74.1%
合計	単位自治組織	463	347	346	74.7%
	単位自治組織 (追加調査)	402	276	276	68.7%
	広域自治組織	33	31	31	93.9%
	広域自治組織 (追加調査)	28	25	25	89.3%

※藤島地域は、先行して令和2年4月にアンケート調査を実施（追加調査は未実施）。

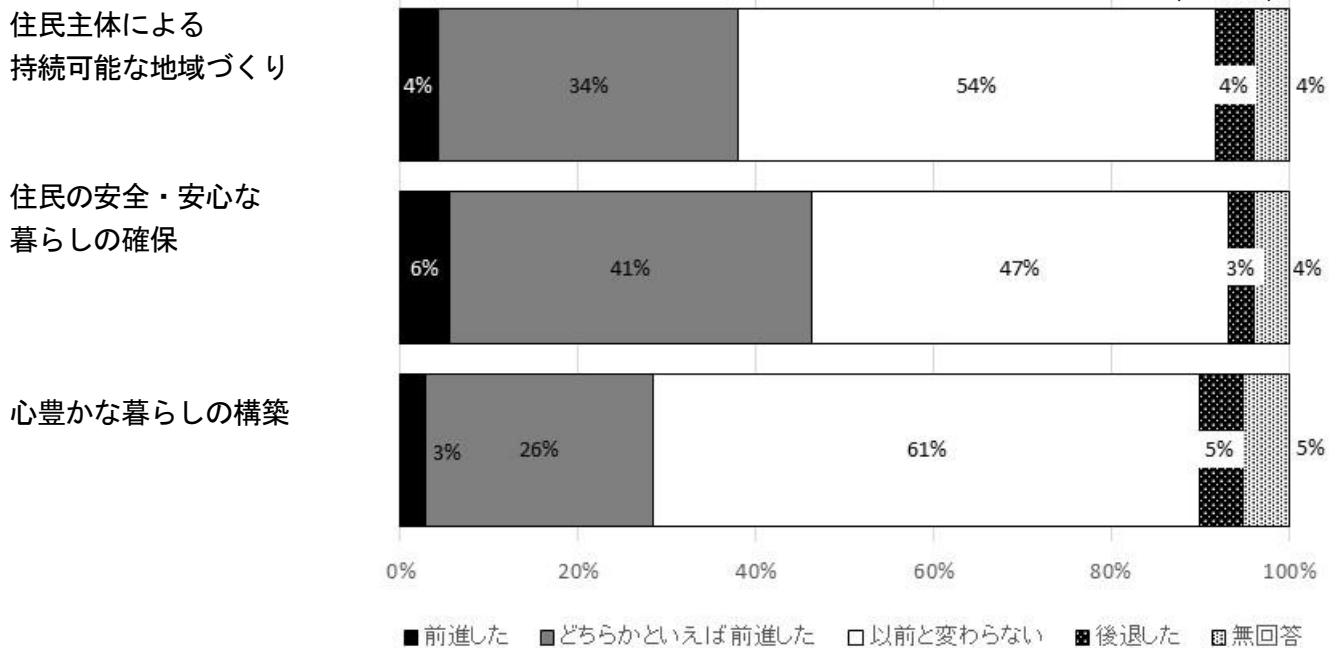
アンケート調査結果から（全体共通設問）

全般1. 地域コミュニティの目指す5年後の方向性について、計画策定時（平成27年度）と比べてどのように変化したと感じているか教えてください



【全体（単位自治組織・広域自治組織の合計）】

(N=326)



全体では、住民主体による持続可能な地域づくりは、「以前と変わらない」が54%と最も多かったが、「前進した」(4%)、「どちらかといえば前進した」(34%)を合わせると約4割となった。

住民の安全・安心な暮らしの確保も、「以前と変わらない」が47%と最も多かったが、「前進した」(7%)、「どちらかといえば前進した」(41%)を合わせると約5割が以前よりも良くなったと感じている。

心豊かな暮らしの構築は、「以前と変わらない」が61%と最も多く、「前進した」(3%)、「どちらかといえば前進した」(26%)を合わせても3割であった。

なお、単位自治組織でも同様な傾向を示した。

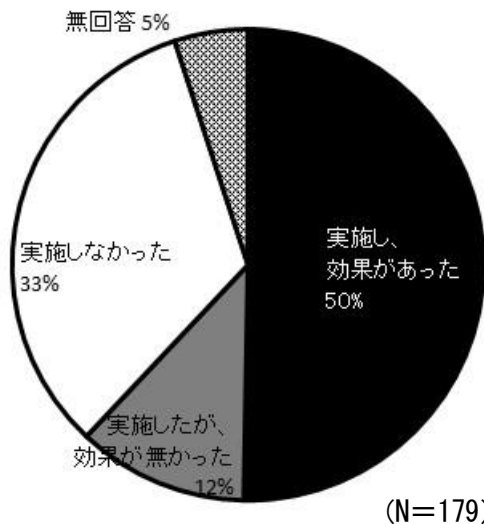
広域自治組織では、「住民主体による持続可能な地域づくり」と「住民の安全・安心な暮らしの確保」で、「どちらかといえば前進した」が最も多く、「前進した」と合わせると6割を超えた。

心豊かな暮らしの構築は、「以前と変わらない」が54%と最も多く、「前進した」(8%)、「どちらかといえば前進した」(31%)を合わせても4割であった。

項目 1. 地域内の環境の変化（地域課題）に気づくための場づくりに取り組みましたか？

★取組の具体的事例

- 笑顔で挨拶を交わす取組を実践する。
- 近隣が気軽に話し合える雰囲気や場づくりを行う。
- 新しく住民になった人も気軽に参加できる事業を開催する。



地域課題に気づくための場づくりの取組状況について、「実施し、効果があった」（50%）、「実施したが、効果が無かった」（12%）と6割を超えて、実施している。

一方、「実施しなかった」が33%あったが、中には、「日頃から挨拶を交わしているので、特に取組まない」「当たり前のことなので、特に取組まない」が15%あった。

≪自由記述から一部抜粋≫

「実施し、効果があった」 ⇒自慢できる取組や効果の有無を判断した理由

- ・ 回覧版や広報配付は必ず一声かけて行うことを徹底（安否と課題の情報収集）。
- ・ 役員選出を選挙から推薦に変更し、次世代の役員を増やした。各事業の担当責任者として活躍してもらった方も出てきた。
- ・ 100歳体操に取組み、敬老会並みの参加を得ている。
- ・ 若手・中堅町民（育成会、中学校役員）と交流会を実施。防災訓練を午前から早朝開催に変更し、時間短縮を図った。
- ・ 毎月発行の町内広報で町内の取組みや行事等をお知らせし、活動に対して関心が高まっている。
- ・ 隣組親睦会に助成金を出して、奨励している（出席割合は8割超）。
- ・ 福祉座談会を実施し、班の再編成やゴミ排出方法の徹底など身近な話題を話し合った。
- ・ 公民館開放日を年2回設けた。自由時間に高齢者が集まり、シャベリ会った!!

「実施したが、効果が無かった」 ⇒自慢できる取組や効果の有無を判断した理由

- ・ 全戸アンケートで町内会への要望、不安な点など回答を求めたが、記載が無かった。
- ・ 隣組役員改選に合わせ、役員の人選・親睦を目的とした隣組会合の開催を要請。開催した隣組へ茶菓代を助成しているが、今一つ効果が無い。
- ・ 草むしりやラジオ体操など誰でも気兼ねなく参加できる行事にも、高齢や転居などの理由で参加者が低迷していった。

「実施しなかった」 ⇒その理由や必要であると考えている取組

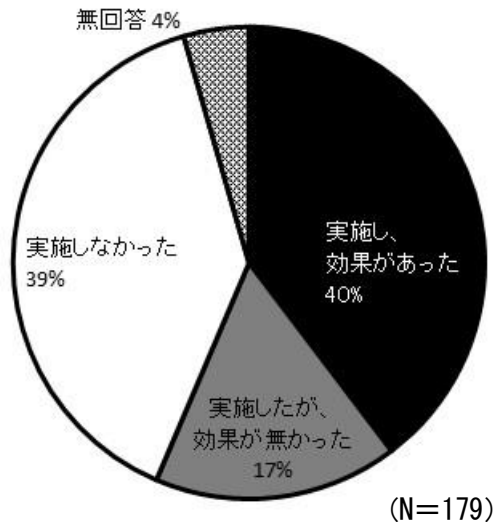
- ・ 当たり前のことなので、特に取組まない。
- ・ 一人暮らしの見守り。

項目2. 住民自治組織への理解促進と会員確保の取組を行いましたか？

★取組の具体的事例

○住民自治組織の存在意義や役割等を理解する機会を設ける。

○未加入者にあきらめず誘い続ける声かけを実践する。



住民自治組織への理解促進と会員確保の取組状況について、「実施し、効果があった」（40%）、「実施したが、効果が無かった」（17%）と6割弱が実施している。

一方、「実施しなかった」が39%あったが、中には、「未加入者がいないため、特に取組を行わなかった」「役員は回り番で、全戸が何らかの形で参加することになっている為、特に取組んでいない」が24%あった。

《自由記述から一部抜粋》

「実施し、効果があった」 ⇒自慢できる取組や効果の有無を判断した理由

- ・住民自治組織の存在意義や役割等を理解する機会を設けた。
- ・不定期ながら、町内会と会員を結ぶ町内広報を発行。活動状況や関係話題などを載せて、町内会活動に少しでも関心を持ってもらうことができたと思う。
- ・小中の父兄を中心に若手の参画が増えてきた。
- ・戸建、小規模アパート等は問題なく入会いただいているが、不動産会社管理の大規模アパートは入居状況を把握するのも大変である。管理者はもっと町内会に協力していただきたいと感じている。

「実施したが、効果が無かった」 ⇒自慢できる取組や効果の有無を判断した理由

- ・場は設けたが、実を取るまでには時間が必要。アパート等も形式が多様化して、対応が難しい。
- ・大家等の協力も得てアパート入居者は全員町内会に加入しているが、昨今、戸建て借家の新規入居者で未加入者が出た。働きかけるも、仮の住まいと言って、聞き入れてもらえない。
- ・町内の過半数が老人のためか、（転居者が町内会加入に）余り興味を示さなかった。

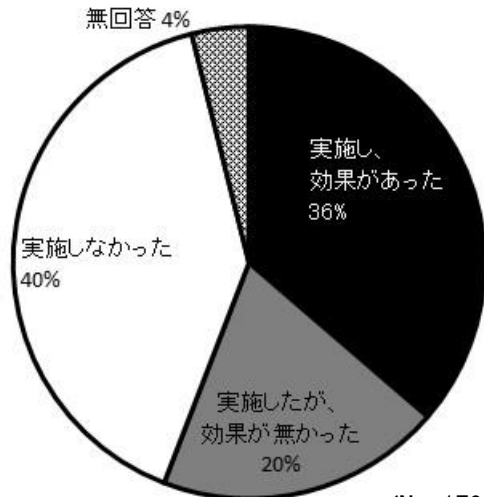
「実施しなかった」 ⇒その理由や必要であると考えている取組

- ・未加入者がいないため、特に取組を行わなかった。
- ・役員は回り番で、全戸が何らかの形で参加することになっている為、特に取組んでいない。
- ・ほとんどの世帯が会員となっている小さな町内会である。マンションにも働きかけているが、まだ参加世帯はない。
- ・単身者用ワンルームマンションは表札もなく、郵便ポストにガムテープを貼っているの、町内会加入の意思がないと判断し、加入の勧誘はしていない。過去の加入例を見ても、回覧板が滞る等町内会活動に支障をきたしたことがあった。

項目3. 将来を見据えた持続可能な組織づくりに積極的に取り組みましたか？

★取組の具体的事例

- 将来を見据えた会費のあり方の検討を行う。
- 既存事業内容の見直しを図る。
- 役員の負担軽減に向けた役割分担等の検討を行う。
- 単位自治組織の再編・統合等をテーマにした意見交換会を開催する。



将来を見据えた持続可能な組織づくりの取組み状況について、「実施し、効果があった」(36%)、「実施したが、効果が無かった」(20%)と5割を超えて、実施している。

一方、40%は「実施しなかった」が、何らかの検討は必要であると考えている人が多くいた。

《自由記述から一部抜粋》

「実施し、効果があった」 ⇒自慢できる取組や効果の有無を判断した理由

- ・隣組数と役員体制の見直しを行い、体制強化を図った。
- ・1年前に町内会費の値上げを行った。
- ・町内会長の任期を定めた。当事者意識が増して、活動に対する理解が深まったように感じる。
- ・既存事業内容の見直しを図った。町内会費のあり方の検討を行った。
- ・役員の負担軽減に向けた役割分担等の検討を行った。
- ・役員業務を補助する部員制度を導入し、40～50代の男女数名に依頼し、引き受けてもらった。

「実施したが、効果が無かった」 ⇒自慢できる取組や効果の有無を判断した理由

- ・名ばかりの役員も多く、再度役員の負担軽減に向けた既存事業内容の見直しを図った。近くの町内会との合同会議は継続している。
- ・役員の負担軽減に努めたが、現実には中々難しい所がある。
- ・役員打診のお願いをしても、共働き・定年延長の時節柄「俺はだめだ」と断られる。

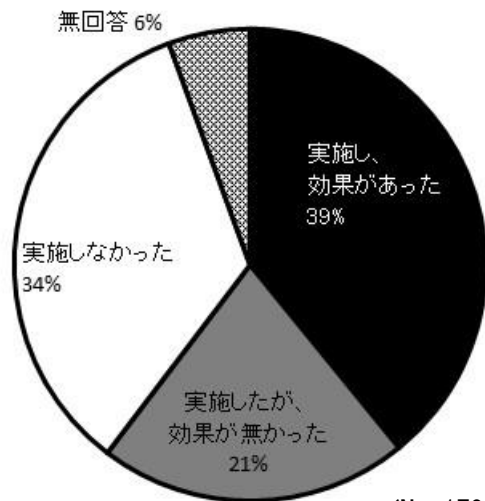
「実施しなかった」 ⇒その理由や必要であると考えている取組

- ・関係団体の会議等が多く多忙なため、その対応に追われ、余裕がない。
- ・高齢化が進み、また労働年齢が65歳となったため、町内会・自治会の活動人員が減少している。将来の活動の担い手を考えると、「町内会の統合」と「横のつながりを密」にして、情報を共有して対応していくことが必要である。

項目 4. 活動の新たな担い手となる人材育成・確保対策を図りましたか？

★取組の具体的事例

- 若い世代等が企画・担当する事業や若い世代等を意識した事業を開催する。
- 多世代参加・交流型事業を開催する。
- 人材育成研修事業へ参加する。
- 女性の力の活用、女性の活躍の場の拡大を図る。
- 事業を通じて自分が必要とされている喜びや達成感・生きがいを感じる仕掛けづくりを行う。
- 退職者が地域活動を始めするためのきっかけづくりを行う。



人材育成・確保対策の取組み状況について、「実施し、効果があった」(39%)、「実施したが、効果がなかった」(21%)と6割の組織が何らかの対策を実施している。一方、「実施しなかった」は34%であった。

≪自由記述から一部抜粋≫

「実施し、効果があった」 ⇒自慢できる取組や効果の有無を判断した理由

- ・退職者1名を役員にお願いした(効果は今後)。今後の課題は、多世代参加と女性の力の活用。
- ・役員は輪番を基本として選出し、支障のない範囲で多くの会員が担うようにした。
- ・子供会と共同で事業を行う(一斉清掃や夏祭等)。特に夏祭は児童の参加で、盛り上がった。
- ・ラインで情報共有している部会もあり、協力的になった。
- ・役員以外の若手をコミセン事業のスタッフに送り出し、育成に努めた。若手への負担はあったが。
- ・若い人に、地域運動会の応援で着用するTシャツのデザインと作成を依頼した。今後も若い人達や女性のセンスや意見を活用していきたい。

「実施したが、効果がなかった」 ⇒自慢できる取組や効果の有無を判断した理由

- ・若い世代の役員勧誘を図ったが、承諾まで至らなかった。
- ・世帯数50弱・住民90人と小さい規模の町内会で、高齢化率35%、担い手不足。役員は10年以上交代できずにいる。
- ・若い世代も興味を持ち、参加しやすい事業を計画・開催しているが、参加が少ない。
- ・若手・中堅に目を向けることにはなったが、現行役員が反応について行けない。

「実施しなかった」 ⇒その理由や必要であると考えている取組

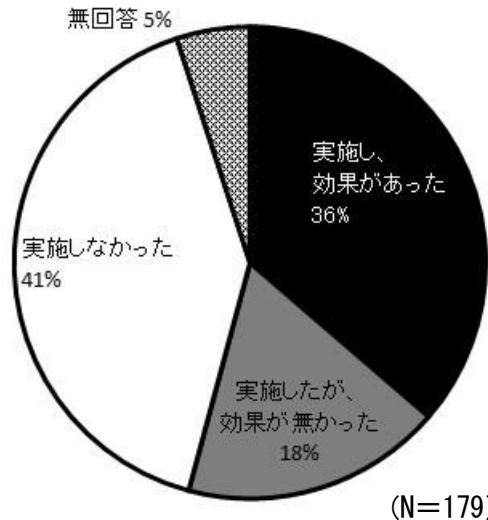
- ・町内会と子供育成会は互いに干渉しないとしてきたが、今後その垣根を外していきたい。
- ・過去に子供会・育成部の役員経験者は、町内の事業等がある程度理解しているので、三役に勧誘しても引き受けてくれるが、職場を退職してからという条件付きが多く、65歳以上になってしまう。
- ・人材はいるが若い世代の集いの場がない。今後、活動の場づくり、組織づくりに取り組んで行きたい。
- ・年功序列で役員を分担し、断る人はいない。全員参加で自治運営をしている。

項目5. 地域課題の把握と共有に努めましたか？

★取組の具体的事例

○地域の現状と課題を共有する機会を設ける。

○課題解決に取り組むための新しい事業の検討と既存事業内容の見直しを図る。



地域課題の把握と共有の取組み状況について、「実施し、効果があった」(36%)、「実施したが、効果がなかった」(18%)と5割を超えて、実施している。なお、「課題は把握できても、改善に向けた実効的な取組が難しい」との回答もあった。

一方、「実施しなかった」は41%であった。

《自由記述から一部抜粋》

「実施し、効果があった」 ⇒自慢できる取組や効果の有無を判断した理由

- ・災害時の避難も高齢化により難しくなっているが、近隣住民が相互扶助できるように、防災訓練への参加呼び掛けや安否確認訓練を行っており、効果は若干あるようだ。
- ・隣組を再編した。防災・福祉事業に取り組む前に、組織を見直し、確立していく必要があるため。
- ・高齢者のみ世帯の安全な暮らしが課題であるため、世帯カードを更新し、避難支援体制を整えた。
- ・古くなったゴミステーションを新しいものに順次入れ替えている。分別状況も良くなっている。
- ・老朽化した公民館建物の在り方について、会員の中から検討委員会を立ち上げ、検討中である。
- ・町内防災訓練等の際にグループワークを取り入れ、現状や課題について共有することができた。

「実施したが、効果がなかった」 ⇒自慢できる取組や効果の有無を判断した理由

- ・町内の課題は把握できても、人的体制が弱いため、改善に向けた実効的な取組が中々できない。
- ・民生委員や福祉協力員が確保できず情報収集にも苦慮する中、約8年ぶりとなる世帯調査を行った。居住者や年齢等の情報提供が無い者や回答そのものを行わない者が複数あった。

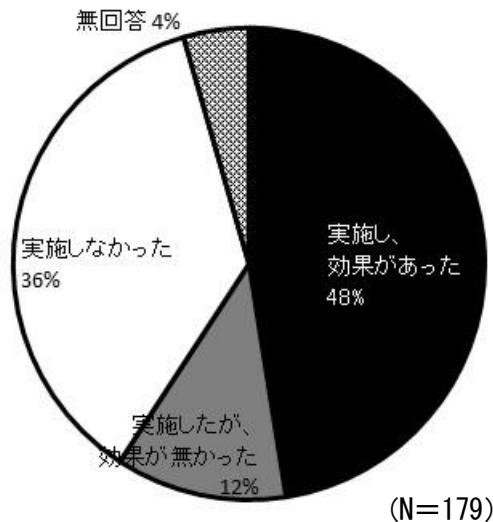
「実施しなかった」 ⇒その理由や必要であると考えている取組

- ・町内の半分がアパートであるため、つながりや災害時の対策が必要である。
- ・急速に高齢化が進んでいる状況で、一人暮らしの老人世帯には会費を軽減したいが、公民館の老朽化もあり、重く感じている。
- ・町内会単独よりもコミセン単位での取り組みが必要な場合もある。

項目6. 緊急時や災害時に備えた会員情報の把握に努めましたか？

★取組の具体的事例

- 住民情報の収集の必要性和活用方法を説明する機会を設ける。
- 市の避難行動要支援者個別支援計画等作成支援事業を活用した名簿を作成する。
- 個人情報の取得や取り扱いにかかる研修会等へ参加する。



緊急時に備えた会員情報の把握の取組み状況について、「実施し、効果があった」(48%)、「実施したが、効果がなかった」(12%)と6割を超えて、実施している。昨年の山形県沖地震の影響もあり、取組みが進んだことが伺えた。一方、「実施しなかった」は36%であった。

《自由記述から一部抜粋》

「実施し、効果があった」 ⇒自慢できる取組や効果の有無を判断した理由

- ・町内単独で防災マップを作成。住民の避難所、一人世帯の支援、安否確認の方法などの防災計画を作っている。
- ・災害時に備えて防災部を立ち上げ、自主防災計画を策定した。今後は、住民名簿の定期的なメンテナンスが必要である。
- ・一人暮らしの高齢者の増加など難しい面もあるが、安否確認カードの活用と充実、訓練を重ねていく。
- ・H30年度に10年ぶりに世帯カードを収集し、それを基に高齢者のみ世帯の避難支援体制を整えた。
- ・災害時に手助けが必要な方の把握は、隣組などの顔がわかる区域で行うのが良いと考えている。要配慮者の把握と避難支援の他、除雪や日常生活の支援を行うルールを作り、実施している隣組もある。

「実施したが、効果がなかった」 ⇒自慢できる取組や効果の有無を判断した理由

- ・世帯カード等は作成したが、いざという場合どこまで手を出せば良いのかという意見が多かった。
- ・情報が欲しい部門と、情報が独り歩きすることへの不安の板挟み。組織が個人頼みのため、個人への負担増でつづれ兼ねない。

「実施しなかった」 ⇒その理由や必要であると考えている取組

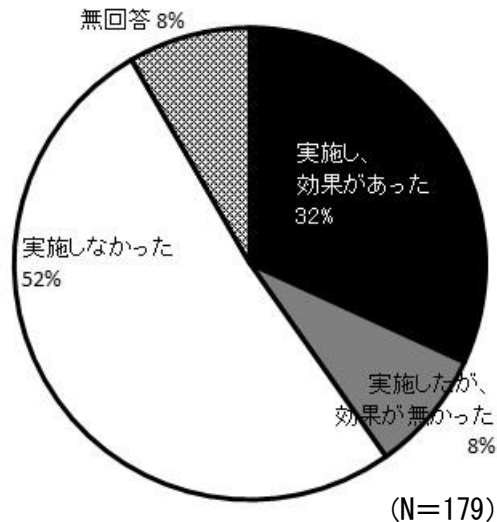
- ・2年毎、防災世帯カード更新を実施。今年度実施予定である為。
- ・緊急時連絡者名簿の作成・協力をお願いしたが、半数以上の世帯は提出なし。
- ・これから実施への動きが始まる。特に避難行動についての防災部と福祉部とのコラボを計画中。
- ・個人情報保護法により活動しにくい。

項目7. 地域の魅力となる伝統芸能等への理解促進に努めましたか？

★取組の具体的事例

○子どもの頃から伝統芸能や伝統行事への理解を促すような機会づくりを行う。

○開催日や運営形態等を工夫し、若い人材の確保や参加しやすい環境づくりを行う。



地域の魅力となる伝統芸能等への理解促進の取組み状況について、「実施し、効果があった」(32%)、「実施したが、効果が無かった」(8%)と4割が実施している。一方、52%は「実施しなかった」と回答している。

《自由記述から一部抜粋》

「実施し、効果があった」 ⇒自慢できる取組や効果の有無を判断した理由

- ・当町内が神社の氏子となっており、4年に1度の頭屋の際、小学生に伝統行事（盃事）を伝承している。
- ・大山犬祭で頭屋としての責務を住民・住民の家族・親戚等一丸となって取組み、成功を収めた。
- ・北前船寄港地になり、加茂泊町の大黒舞の担い手を加茂地区全体から募集したら、10人程入会して頂いた。若い方々の積極的な参加がみられ、少しずつではあるが伝統を理解してもらっている。
- ・町内の一部の人達で、20年以上続く注連縄作り。
- ・毎年5月に町内の公園に約30匹の鯉のぼりをあげ、地域に潤いと活力を与え、風物詩として喜ばれている。

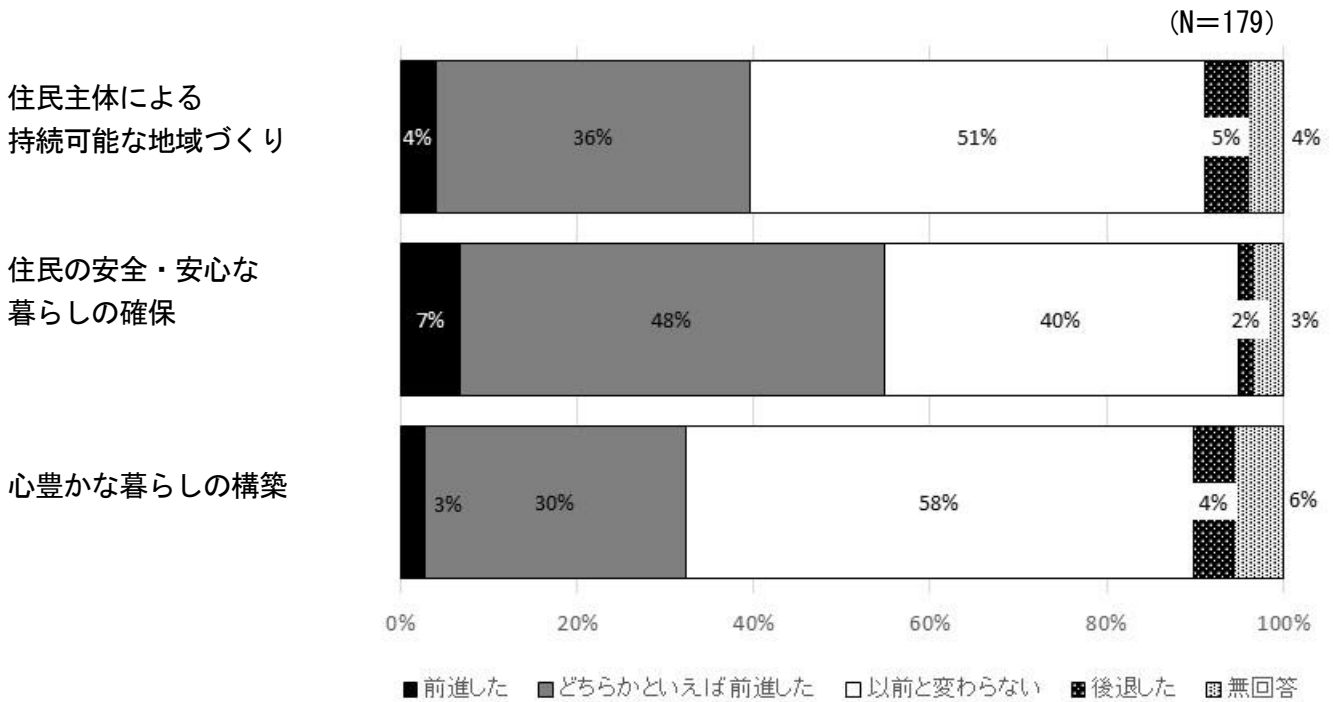
「実施したが、効果が無かった」 ⇒自慢できる取組や効果の有無を判断した理由

- ・高齢化が進んでいる現状で、町内の神社の祭典など保存活動が容易でない。若い世代への引続き強化が求められる。

「実施しなかった」 ⇒その理由や必要であると考えている取組

- ・当町内会に伝統芸能等は見当たらない。
- ・少子高齢化により、伝統行事が継続困難である事は事実で、廃止もいたしかたない。

全般1. 地域コミュニティの目指す5年後の方向性について、計画策定時（平成27年度）と比べてどのように変化しているか教えてください



住民主体による持続可能な地域づくりは、「以前と変わらない」が51%と最も多かったが、「前進した」(4%)、「どちらかといえば前進した」(36%)を合わせると4割になった。

住民の安全・安心な暮らしの確保は、「どちらかといえば前進した」(48%)が最も多く、「前進した」(7%)を合わせると5割以上が以前よりも良くなったと感じている。

心豊かな暮らしの構築は、「以前と変わらない」が58%と最も多く、「前進した」(3%)、「どちらかといえば前進した」(30%)を合わせても33%であった。

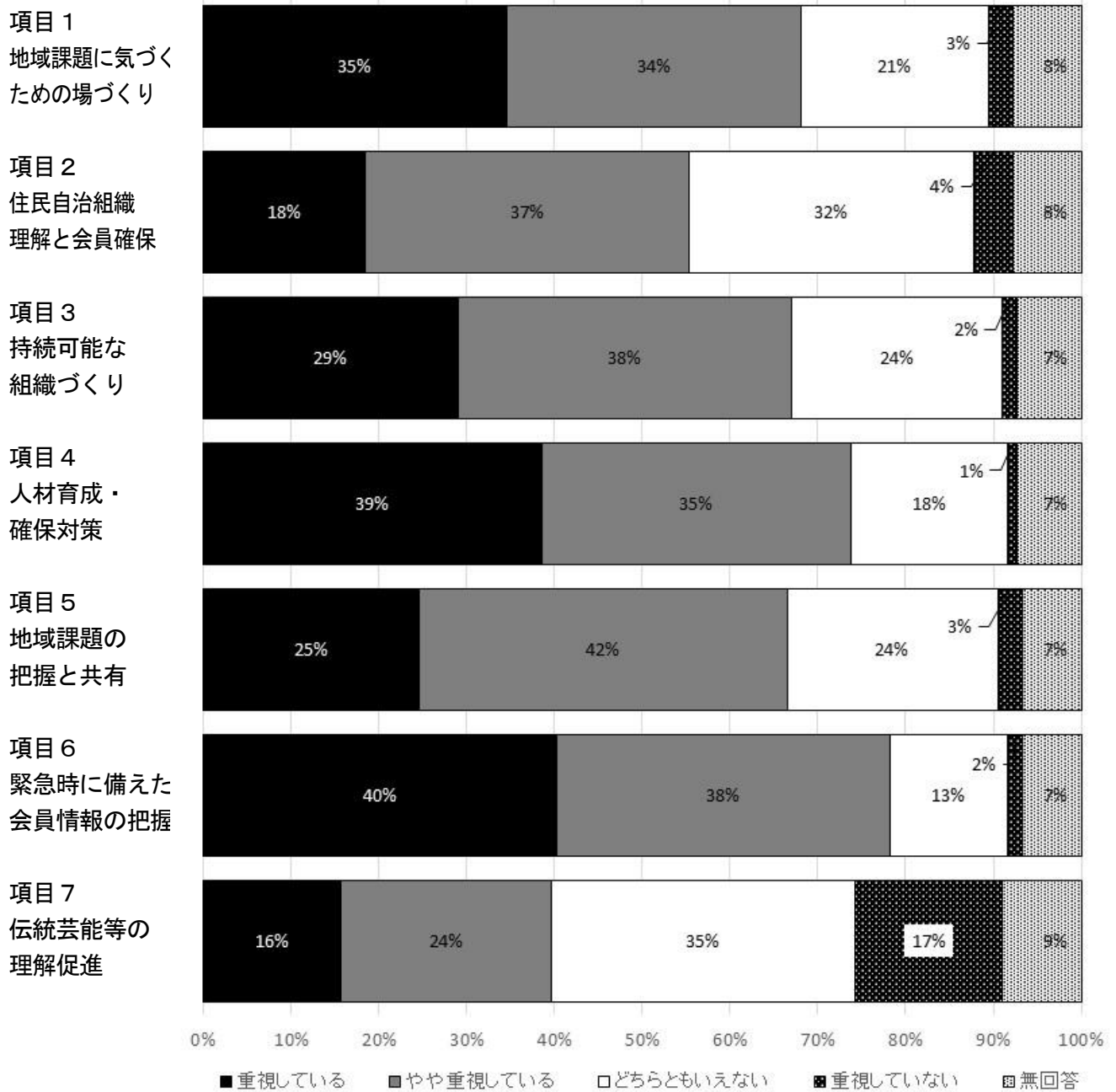
全般2. 項目1～7のうち、貴町内会が特に力を入れて取り組んだ項目を教えてください



特に力を入れて取り組んだ項目について、「項目6（緊急時に備えた会員情報の把握）」(14%)、「項目1（地域課題に気づくための場づくり）」(13%)、「項目4（人材育成・確保対策）」(12%)の順となり、次いで「項目5（地域課題の把握と共有）」(8%)、「項目2（住民自治組織理解と会員確保）」(7%)、「項目3（持続可能な組織づくり）」(5%)、「項目7（伝統芸能等の理解促進）」(5%)となった。

全般3. 現在、項目1～7の取組をどの程度重視しているか教えてください

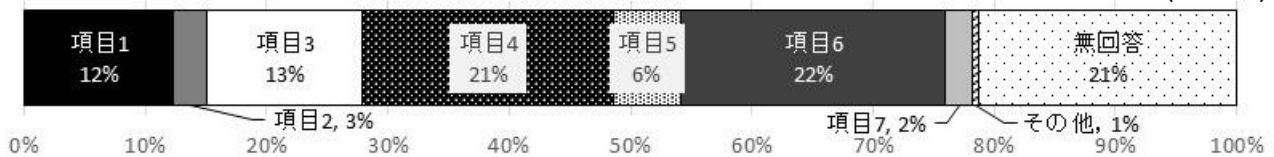
(N=179)



それぞれの取組を「重視している」「やや重視している」を合計したもので比較すると、「項目6（緊急時に備えた会員情報の把握）」（78%）、「項目4（人材育成・確保対策）」（74%）、「項目1（地域課題に気づくための場づくり）」（69%）、「項目3（持続可能な組織づくり）」（67%）、「項目5（地域課題の把握と共有）」（67%）の順となり、次いで「項目2（住民自治組織理解と会員確保）」（55%）、「項目7（伝統芸能等の理解促進）」（39%）となった。

全般4. 項目1～7のうち、今後力を入れていきたい項目を教えてください

(N=179)



今後力を入れたい項目について、「項目6（緊急時に備えた会員情報の把握）」（22%）、「項目4（人材育成・確保対策）」（21%）の順となり、次いで「項目3（持続可能な組織づくり）」（13%）、「項目1（地域課題に気づくための場づくり）」（12%）、「項目5（地域課題の把握と共有）」（6%）、「項目2（住民自治組織理解と会員確保）」（3%）、「項目7（伝統芸能等の理解促進）」（2%）となった。

《「具体的に考えている事業や取り組んでみたい事業」の自由記述から一部抜粋》

項目1（地域課題に気づくための場づくり）

- ・交流事業は防災減災に資するという観点からも、多様性をもって取組みたいテーマである。

項目3（持続可能な組織づくり）

- ・特別に新しいことへの試みは考えていない。現状維持が大事と思っているが、役員不足により、事業の縮小・整理の必要性も感じる。
- ・具体的で目に見える互助活動の実践。お助け券。有料ボラ。

項目4（人材育成・確保対策）

- ・女性の力の活用、女性の活躍の場の拡大を図りながら、若い世代を意識した事業展開を実施したい。
- ・比較的新しい町内のため、子供が小学生の頃は学校行事を通じての交流はあったものの、子供が成長した現在、40代後半の住民は夏祭以外はほとんど交流がない状態である。この年代の組織化を図るとともに、集いの場である公民館づくりを考えて行きたい。

項目6（緊急時に備えた会員情報の把握）

- ・自然災害（風水害、地震等）が多発している近年、安全安心なまちづくりのため要支援者の把握はもちろん、老支援者を支援する体制づくりに積極的に取組みたい。
- ・人との結びつきが弱くなっているため、町内会として緊急時の対応が重要になるのではないかと。防災マップの改訂を考えている。
- ・住民相互が自然な形で声掛け、顔合わせ、心を合わせとなる事業の模索。例えば、町内の子供達がどの家でもごみの分別やステーションに登校前に運ぶ等（早起き、町民との会話、声掛け、励まし、ごみを通し環境に関心を持つ。子供中心に笑顔が広がる）。

全般5. その他、地域コミュニティに関してご意見がございましたらご記入ください

《自由記述から一部抜粋》

- ・少子高齢化に歯止めがかからず、65歳以上の一人暮らし世帯が増加している。町内会役員の担い手が不足することが目前にあり、町内会の持続可能な組織運営に課題がある。
- ・今後予想される地域課題解決は、町内会だけでなく、関係組織と連携し、総合力を発揮し、取組む仕組みづくりが益々不可欠であると考えている。
- ・地域コミュニティを進めていく中で今後最も重要になってくるのは、いかに若者を地元で定着させるかである。自分の町内会をみても、次の世代のいる世帯は非常に少ない。次世代の少ない地域はどうなるか、結果は分かっている。行政は、何事よりも最優先でこのことを考えて欲しい。
- ・地域コミュニティ推進計画があることを今回のアンケート調査で知った。できれば年1回、この計画が推進されている旨を周知させるための文書等を町内会長・住民会長宛に発行いただきたい。

問1. 貴町内会等のコミュニティ活動の良いところ（特徴、魅力など）はどのようなところだと思いますか。

《自由記述から一部抜粋》

- ・地域活動や役割を単に「仕事だから」とか「順番だから」では終わらないところ。関係が長く続いていて、仲が良い。
- ・開発された年代の違う3つの地域から成る町内会のため、昔ながらの行事から子供会（児童部、青体部）が中心になって行う新しい行事まで幅広い行事ができる。
- ・市内の中では比較的新しい町であるが、古くから住み続けている二世帯同居も見られ、親から子へのバトンタッチもあり、コミュニケーションは自然に取れていると思う。
- ・比較的若い世代（40代～50代）の役員が半数位在職し、活動の中心を担っていて、若い世代の人の意見を出来るだけ多く取り入れている。
- ・事業等へ協力的で、各年代のリーダー的な人がいる。もめ事が少なく、穏やかである。
- ・年に二回ほど子供からお年寄まで参加できる祭・イベントがあり、いろんな年代の人と話を楽しむことが出来る。又、道端でおしゃべりをしている場面もよく見かける。新しく会員になった方には、歓迎会やイベント企画等で親睦を深めている。会員は仲がいいと思います。
- ・消防団メンバーを中心とした普段からの横のつながり、地域への積極的な協力体制などがある。またLINEを活用して、迅速な情報発信、意見交換ができる状況は良いと思う。
- ・少子化を受け、H23年度より公民館活動は「子供たちに夢を与える」をテーマに、内容を変更した。それに伴い、大人の参加者も増え、夏まつり等は里帰り家族も参加しやすい環境になった。翌年からは高齢者向けに「心と体の健康」を重点とし、高齢者が目を外に向ける活動を実施している。
- ・昔から続く行事（犬祭、神社関係等）を絶やさないように協力して続けている。

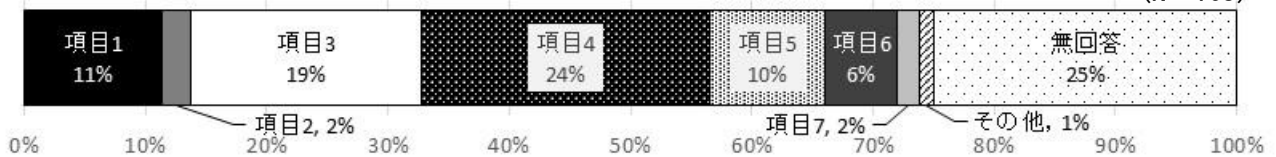
問2. 貴町内会等のコミュニティ活動の足りないところ（課題、問題点など）はどのようなところだと思いますか。

《自由記述から一部抜粋》

- ・居住人口の減少と、高齢化に伴い壮年層を含め次代を担う若年層まで減少していること。
- ・諸行事への参加者の固定化と、スタッフの成り手がなく、取組みがなかなか困難であること。これが新たな企画を生むことが出来ない障害ともなっている。諸団体からの会費等徴収など事務負担が多い。
- ・小中高生および保護者と一般住民との交流活動が夏まつり以外では余りみられない。アパート住民との交流も余りみられない。
- ・発信力！（紙媒体を残しつつ（徐々に廃止）、SNSで若い世代にアプローチする）
- ・少子高齢化の加速に伴い、住民同士の接点が少なくなりつつある。継続してきた事業も規模の減少、廃止をせざるを得ない状況にある。
- ・地域住民の減少と少子高齢化が進み、地域活動の運営が厳しくなって来ている。また、住民会、自治会（広域組織）の役員が重複して、特に自治会の会議等の負担が大きい。
- ・少子化により、若い世代の子供にかかる時間が増えている為か、地域への参加できる時間を作るのが難しくなっているようだ。
- ・役員等の担い手不足。忙しくしている方が多いのか、町内会のことまで考えようとししないのか。三世帯家庭も多いが、町内のことは年配者に任せているところがある。

問3. 項目1～7のうち、今後力を入れていきたい項目を教えてください

(N=168)



今後力を入れたい項目について、「項目4（人材育成・確保対策）」（24%）、「項目3（持続可能な組織づくり）」（19%）の順となり、次いで「項目1（地域課題に気づくための場づくり）」（11%）、「項目5（地域課題の把握と共有）」（10%）、「項目6（緊急時に備えた会員情報の把握）」（6%）、「項目2（住民自治組織理解と会員確保）」（2%）、「項目7（伝統芸能等の理解促進）」（2%）となった。

≪「具体的に考えている事業や取り組んでみたい事業」の自由記述から一部抜粋≫

項目1（地域課題に気づくための場づくり）

- ・今まで通りに大切な事はそのままに、新しい事も何か町ぐるみでチャレンジできればいいと思う。

項目2（住民自治組織理解と会員確保）

- ・町内会の合併。
- ・町内会の組織を見直し、従来の婦人部を「運営チーム」と改称して隣組長と共に順番で参加して頂ける仕組みにした。役割を広く皆で分担し、町内会の事や人を知る機会となるよう役割分担している。
- ・町内会のあり方や存在意識を若い人を交えて話し合い、時代に合った形に変えていくべきである。

項目3（持続可能な組織づくり）

- ・同じ人が何年も役員をやめられない(次の人を見つけるまで)状態を解消するため、町内をブロックに分けて、それぞれから持ち回りで役員を選出する。
- ・単身高齢者世帯も増加傾向にあり、自治会費の引下げも検討する必要性がある。総合的に郊外地は会費が高すぎる。

項目4（人材育成・確保対策）

- ・今まで、敬老会世代と若妻・子供会が直接交流する機会が無く、顔は見た事があるが、どこの家の人か分からない事が多かったことを受け、若妻・子供会が敬老会へ参加するようにし、交流を図った。

項目5（地域課題の把握と共有）

- ・町内会の現状や実情をデーターとしてまとめ、住民から理解してもらう機会を設けていくことが、役員の担い手確保を含め、持続可能な町内会を中長期的に維持するために必要と感じている。隣組長は任期1年間の輪番制であり、隣組長会議開催時に町内会の事情説明会を事業として取組めたら良いと思う。

項目6（緊急時に備えた会員情報の把握）

- ・防災は命にかかることであり、地域が全体で守っていくことが必要。体制作りを行う。

項目7（伝統芸能等の理解促進）

- ・祭事は町民が一番顔を合わせる機会なので、若い世代にどんどん役割を振り、参加と継続を促したい。

無選択

- ・今年から SNS を用いた情報発信をしており、若い世代への働きかけを強めていきたい。
- ・戸数が20軒未満、内60才以上の割合が7割に近い状況下で、体に異変を感じている人も多く、例えば草刈り等の全員参加の事業にも課題が出てきている。

問4. 貴町内会等の住民が安心して、楽しく暮らすために、どのような取組（事業など）が必要だと思いますか。

《自由記述から一部抜粋》

- ・誰が住んでいるか。どういった人が住んでいるのか。顔の見える地域づくり。
- ・コミセンでも多種多様な行事を行っているようだが、年一回で良いので、地域の実態をお話したい。
- ・子供達と町内の皆さんとの接点が増えれば良いと思う。私が幼少の頃かわいがって頂いた近所の方々とは40年以上経た現在も家族同様であり、私達が今の子供達に親しく接することで40年、50年先にも温かい町が続くのではないかと考えている。昔と違い子供達に気安く近づくことは様々な問題がありますが、大切なことである。
- ・町の公園や公民館は集いの場の1つ。制限が多い時代だが、ここを魅力あるものにまず変えること。
- ・令和元年度に長年の懸案事項であった「自立防災計画」を策定した。これからは、毎年の防災予算額で防災備品を整備する事と、災害発生時の避難行動要支援者と避難に協力できる支援協力者を定期的にメンテナンスする取組みが重要だと考えている。
- ・高齢化に伴い、回覧版などの配布物を配る隣組長さんの仕事をできない方が増えてきている。負担なくできる方法はないか思案中である。当然、災害時の避難関係についても組織の見直しを含め検討課題であるが、人材不足の感は否めない。避難訓練などへの住民の積極参加の声がけを図りながら、安否確認の訓練などを継続したい。
- ・町内会単独の取組みは夏祭りなどの交流事業で、災害対応などは町内会単独では難しいと感じる。
- ・役員だけではない定期的な交流や作業(例えばゴミステーションや消火栓の共同除雪等)が必要だと思う。
- ・「巻き込む力」と、お互いがお互いを知っているという「状態作り」が必要(例えば、隣組で飲み会(当町内会では助成金有)、市民総体等で仲間づくり、町単位のサークル活動への助成、世代間対抗での交流(運動会や合唱、演芸。とにかく顔を合わせる！)。

問5. その他、地域コミュニティに関してご意見がございましたらご記入ください。

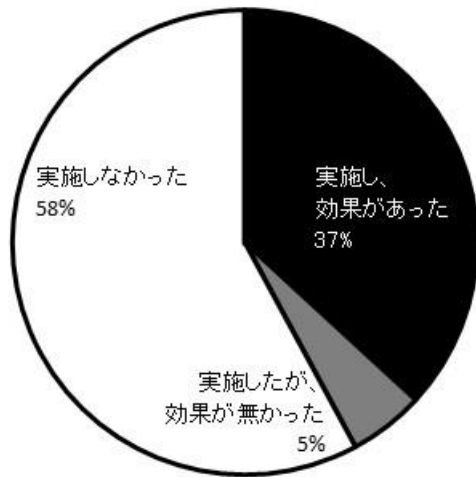
《自由記述から一部抜粋》

- ・多少の面倒があっても、自分自身の中での町内活動に充てる比率を5~10%にできるような声掛け・仕組みが必要。「誰かが」ではなく、「私が」へ思考をチェンジし、「参加したい」に変えたい。
- ・町内会は男性が多く活動し、女性の参加が少ない。女性も参加しやすい仕組みづくりが必要である。
- ・世帯数の減少が進んでいくと思われるので、町内会を合併する方向にまとめられないかと考える(小・中学校の子供会は既に合併して活動している)。
- ・他町内の諸行事状況紹介などにより、マンネリ化打破と参加者拡大を図る。
- ・老人が施設入居し、空き家になったりして、町内の人口が少なくなっている。コミュニティ事業も、町内会単位ではなく、少し広い単位で検討することも良いと考えている。
- ・他地区との交流、意見交換の場。空き家を地域コミュニティの場に活用できれば…。
- ・仕事をしている若い世代は仕事、子育て、介護…と自分のことで精一杯で、「地域コミュニティの一員として生きる」自覚も余裕も無い。そのため、町内会等の役職には就きたくないが、楽しそうなイベントには参加する…ある種、利己主義的でお客様精神の人が多。少なくとも現状の多忙で全く余裕のない働き方ではその考えは変わらず、地域コミュニティの視点だけでは決して解決できる問題ではなく、企業活動や働き方を根本から変えていくような働きが必要である。
- ・仕事を持ちながら、地域の役員になるのは大変である。仕事を休めば、会社に迷惑がかかる。地域の活動を休めば、仕事を休んで参加してくれと言われる。困ったことである。
- ・町内会組織に期待されていることが、どんどん広く深くなっていると感じる。「交付金を出すから、頑張って！」では難しいことが多い。支援とともに指導が適切に行われること、推進計画達成に向けて行政サイドも一緒に汗をかく姿が必要ではないか。

項目 1. 地域課題解決型運営の強化と単位自治組織の機能分担を図りましたか？

★取組の具体的事例

- 地域課題解決の取組に向け、幅広い年齢層や様々な立場の住民が参加するワークショップ等を通じ、広く住民の声を反映した「地域ビジョン」を策定する。
- 単位自治組織が行う諸事業へのサポートを行う。
- 自主防災活動等の単位自治組織と広域コミュニティ組織の機能補完・役割分担を共有する。



(N=19)

地域課題解決型運営の強化と単位自治組織の機能分担を図る取組み状況について、「実施し、効果があった」(37%)、「実施したが、効果が無かった」(5%)と4割が実施している。

一方、「実施しなかった」は58%であった。

≪自由記述から一部抜粋≫

「実施し、効果があった」 ⇒自慢できる取組や効果の有無を判断した理由

- ・H28年度に振興会と学区社協を統一し、福祉事業の一本化と充実に努めた。H30年度に学区防災団を再組織し、発災時の振興会と町内会の役割を明確化した。
- ・山形県沖地震を契機に、各町内会とのメールを活用した連絡体制を整備した。各町内会との連絡がスムーズに行なえるようになった。

「実施したが、効果が無かった」 ⇒自慢できる取組や効果の有無を判断した理由

- ・全てに言える事だが、役員が一期2年でほとんど変わる為、任期が終われば次の人にまかせれば良いとの考え方が根強い。

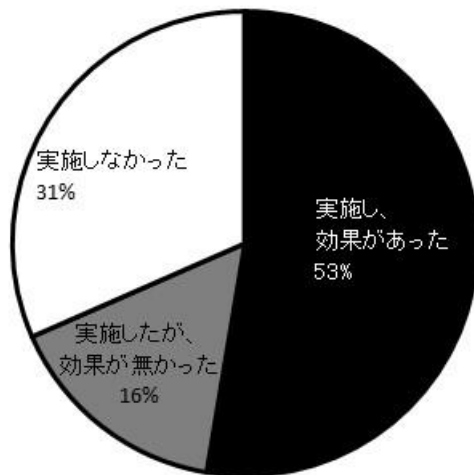
「実施しなかった」 ⇒その理由や必要であると考えている取組

- ・単位自治組織は少子化が顕著になり、生活基盤も多様化してきた為、コミセンとの協調が必要になってきている。
- ・山形県沖地震発生後、地区の避難場所等の見直しを検討したが、改善には至っていない。

項目 2. 将来を見据えた持続可能な組織づくり、魅力的な事業づくりに積極的に取り組みましたか？

★取組の具体的事例

- 各種団体の事務局や機能を広域コミュニティ組織に集約する、あるいは取り込んだ機能を見直す等、地区の現状に応じた組織の再構築を図る。
- 住民の声を反映した活動の優先順位付けや事業内容の見直しを図る。
- 広域コミュニティ組織職員を対象とした各種研修会へ参加する。



持続可能な地域づくり、魅力的な事業づくりの取り組み状況について、「実施し、効果があった」(53%)、「実施したが、効果が無かった」(16%)と7割が実施している。一方、「実施しなかった」は31%であった。

《自由記述から一部抜粋》

「実施し、効果があった」 ⇒自慢できる取組や効果の有無を判断した理由

- ・学区内の3大組織(コミュニティ協議会、社協、町内会連合会)を1つの組織とした。事業が迅速に進んでいる。会議の削減、コスト改善ができた。
- ・鶴岡市住民自治組織ステップアップ事業を活用し、担い手育成につながった。若手住民が地域づくりに関心を持ち高齢者との交流や若者同士の交流も深まった。
- ・生涯学習関連講座を見直し、全コースを統合、総合大学化した。受講延べ人数増加には繋がらないものの、新規受講者が二桁増、また事務作業の効率化も図られている。

「実施したが、効果が無かった」 ⇒自慢できる取組や効果の有無を判断した理由

- ・若者を集めるため(夏のイベントでバンドを行なった)、子供会の地域座談会にPRしに行ったり、チラシにQRコード入れたりしたが、申込みが1件もなかった。

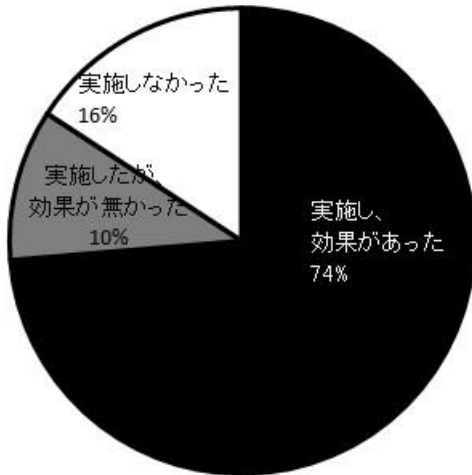
「実施しなかった」 ⇒その理由や必要であると考えている取組

- ・課題は感じているが、どこから手を付けて良いかわからない。

項目3. 地域の課題解決やコミュニティ活動の輪を広げるための取組を行いましたか？

★取組の具体的事例

- 地域の困りごと相談とその課題解決に向けたコーディネートを行う。
- 各種団体組織による組織連携に向けた情報交換会を開催する。
- 住民活動の場を広げるコーディネートを行う。
- コミュニティ広報紙の内容の充実による情報発信力の強化を図る。
- 地域で活躍できる人材育成のための研修へ参加する。



(N=19)

地域課題解決やコミュニティ活動の輪を広げる取組み状況について、「実施し、効果があった」が74%と最も多かった。

一方、「実施したが、効果がなかった」は10%、「実施しなかった」は16%であった。

《自由記述から一部抜粋》

「実施し、効果があった」 ⇒自慢できる取組や効果の有無を判断した理由

- ・H25年度から取り組んだ「誰も孤立させない絆づくりプロジェクト事業」のもと、学区社協、防災団、福祉協力員、民児委員と連携し、福祉座談会、支援マップ、安心カードを整備する等の成果を得た。R元年度は防災福祉ネットワークを設立し、防災と福祉の一体化を開始した。
- ・有償ボランティアを組織し、公共的場所の維持活動や高齢で管理できなくなった土地の維持活動を行っている。
- ・県庄内総合支庁の支援を受け、地域の団体組織がワークショップや話し合いを重ね、地域課題を共有し、次につながる一歩となった。
- ・情報発信からの町おこしとして公式サイトを作り、観光・イベントの集客、地域住民への情報提供を行った。またメールを使った緊急連絡の一斉送信の体制も整いつつある。

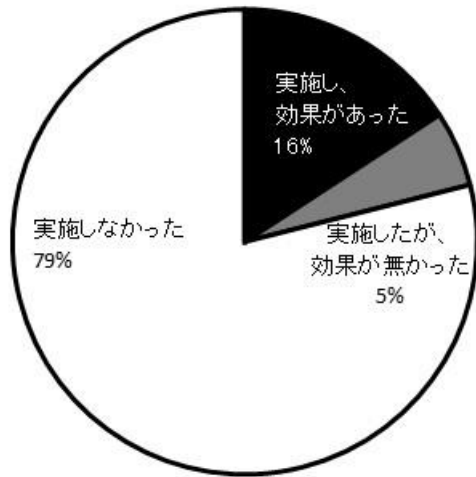
「実施したが、効果がなかった」 ⇒自慢できる取組や効果の有無を判断した理由

- ・地域づくり研修会等、ワークショップを毎年実施したが、実践に至っていない。事業展開する人材がコミュニティにいない。しかし住民の意識は変わった。

項目4. 地域課題解決の手法として地域資源を活かしたコミュニティビジネスの検討を行いましたか？

★取組の具体的事例

○コミュニティビジネスの取組に向けた検討を行う。



(N=19)

コミュニティビジネスの検討の取組み状況について、「実施しなかった」が79%と最も多かった。一方、「実施し、効果があった」は16%、「実施したが、効果がなかった」は5%であった。

《自由記述から一部抜粋》

「実施し、効果があった」 ⇒ 自慢できる取組や効果の有無を判断した理由

- ・釣堀など地域資源を活用し、自治会活性化委員会が運営主体となって事業を行っている。交流人口拡大、高齢者を含む地域雇用拡大につながっている。

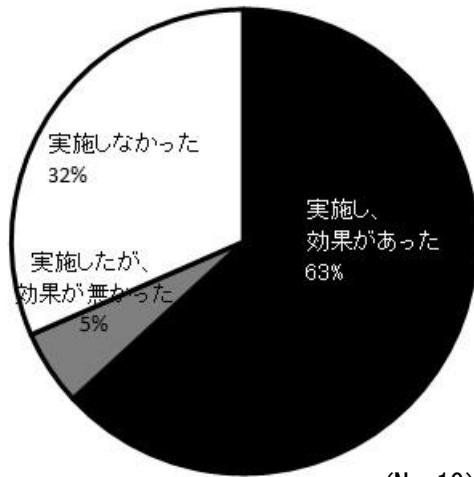
「実施しなかった」 ⇒ その理由や必要であると考えている取組

- ・住民アンケートを基に有料福祉サービス導入を検討したが、課題が多く具体化していない。
- ・ビジネスという観点の動きはない。地域に暮らす住民として奉仕的な立場で現在皆では進めている。

項目5. 地域の魅力を再発見し地域の子どもの郷土愛を育む環境づくりに取組みましたか？

★取組の具体的事例

○放課後子ども教室等を活用し、子ども達の郷土愛を育む地域教育活動を実践する。



(N=19)

子どもの郷土愛を育む環境づくりの取組み状況について、「実施し、効果があった」が63%と最も多かった。一方、「実施したが、効果が無かった」は5%、「実施しなかった」は32%であった。

《自由記述から一部抜粋》

「実施し、効果があった」 ⇒ 自慢できる取組や効果の有無を判断した理由

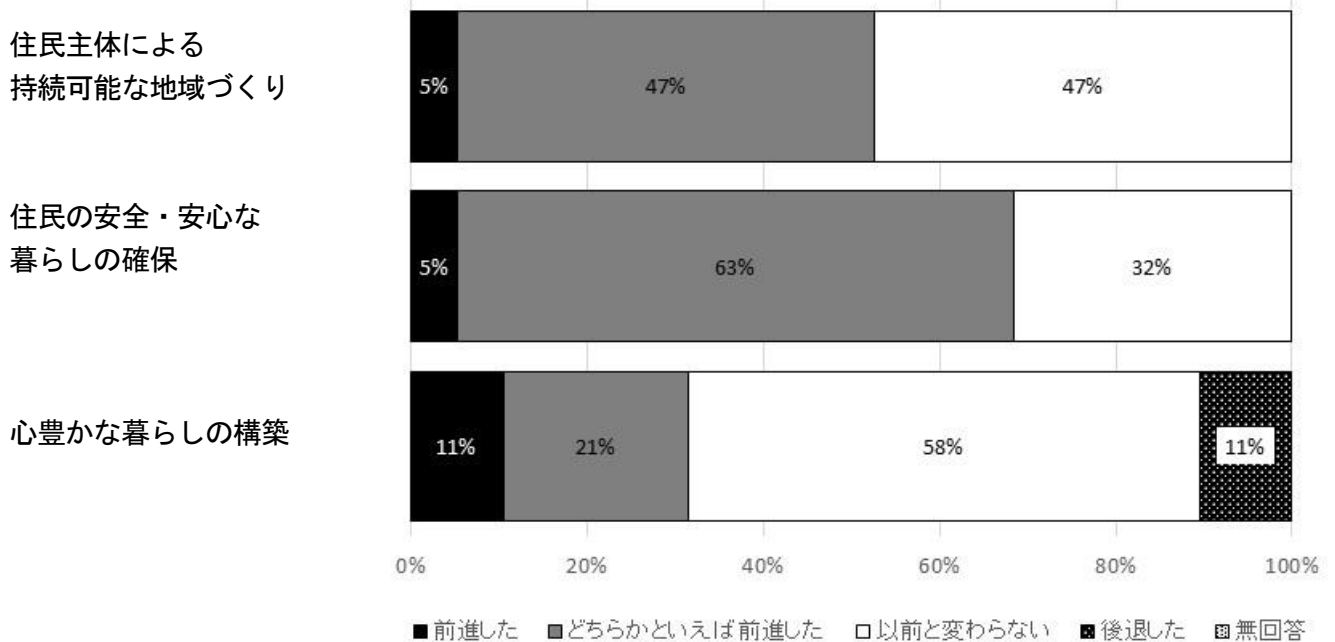
- ・生涯学習事業(土ん土ん体験)やふれあいハート講座を通じて、地域の歴史文化の学習や高齢者との交流、地域事業への参加によって郷土愛の醸成につながった。
- ・コミセンを利用して、放課後子ども教室を開催。地域の歴史、文化、自然、漁港などに関する事柄を児童から募集し、「かるた」を制作した。「かるた」を活用し、世代間交流、文化伝承につながっている。
- ・山形社会貢献基金の助成を得て郷土資料3冊を出版。各100冊ずつ大山小学校と第五中学校に寄贈し、地域学習の基礎資料として活用頂くことになった。

「実施しなかった」 ⇒ その理由や必要であると考えている取組

- ・企画内容にもよるが、子どもが集まりにくい状況がある。「地域まちづくり未来事業」と抱き合わせ、今後、子ども対象とした事業を考えていきたい。

全般1. 地域コミュニティの目指す5年後の方向性について、計画策定時（平成27年度）と比べてどのように変化していると感じているか教えてください

(N=19)



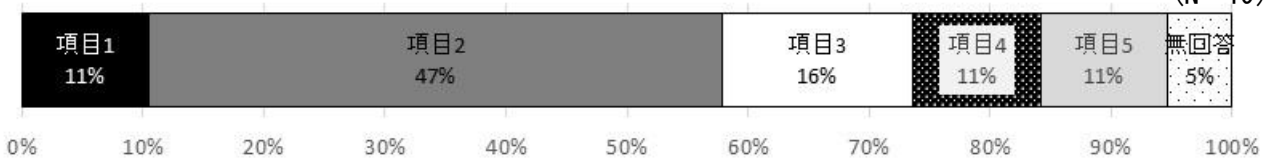
住民主体による持続可能な地域づくりは、「どちらかといえば前進した」「以前と変わらない」が同率で47%であった。

住民の安全・安心な暮らしの確保は、「どちらかといえば前進した」（63%）が最も多く、「前進した」（5%）を合わせると7割が以前よりも良くなったと感じている。

心豊かな暮らしの構築は、「以前と変わらない」が58%と最も多く、「前進した」（11%）、「どちらかといえば前進した」（21%）を合わせても33%であった。

全般2. 項目1～5のうち、貴地区が特に力を入れて取り組んだ項目を教えてください

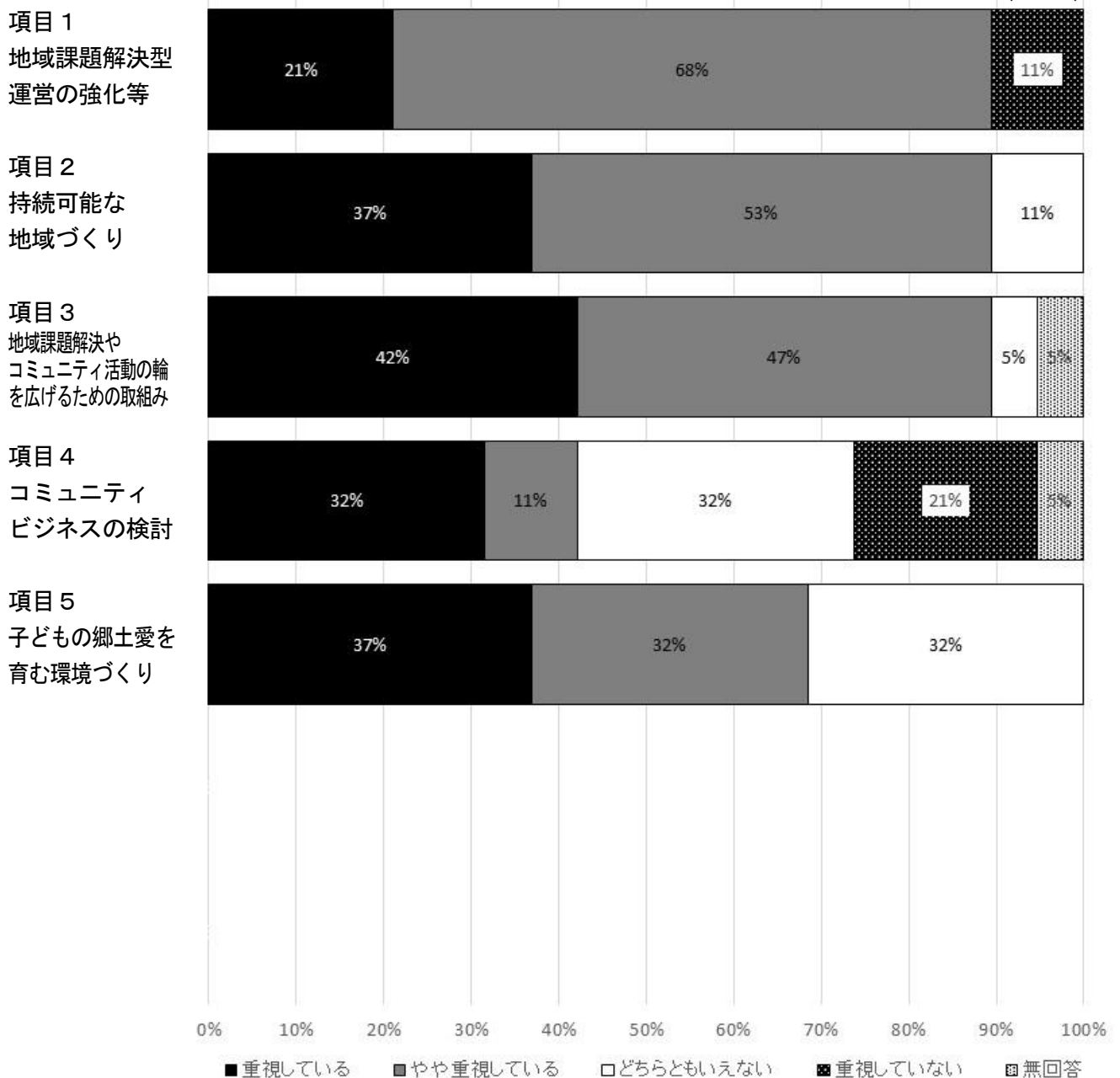
(N=19)



特に力を入れて取り組んだ項目について、「項目2（持続可能な地域づくり）」が47%と最も多く、次いで「項目3（地域課題解決やコミュニティ活動の輪を広げるための取組み）」（16%）、同率で「項目1（地域課題解決型運営の強化等）」、「項目4（コミュニティビジネスの検討）」、「項目5（子どもの郷土愛を育む環境づくり）」（11%）となった。

全般3. 現在、項目1～5の取組をどの程度重視しているか教えてください

(N=19)



それぞれの取組を「重視している」と回答した割合で比較すると、「項目3（地域課題解決やコミュニティ活動の輪を広げるための取組み）」（42%）が最も多く、次いで「項目2（持続可能な地域づくり）」（37%）、「項目5（子どもの郷土愛を育む環境づくり）」（37%）、「項目4（コミュニティビジネスの検討）」（32%）、「項目1（地域課題解決型運営の強化等）」（21%）となった。

また、それぞれの取組を「重視している」「やや重視している」を合計したもので比較すると、「項目1（地域課題解決型運営の強化等）」、「項目2（持続可能な地域づくり）」、「項目3（地域課題解決やコミュニティ活動の輪を広げるための取組み）」が同数となった。

なお、「項目4（コミュニティビジネスの検討）」は、「重視している」「どちらともいえない」が共に32%、「重視していない」が21%と他の項目に比べて、回答内容が割れている。

全般4. 項目1～5のうち、今後力を入れていきたい項目を教えてください

(N=19)



今後力を入れたい項目について、「項目3（地域課題解決やコミュニティ活動の輪を広げるための取り組み）」が42%と最も多く、次いで「項目1（地域課題解決型運営の強化等）」(21%)、「項目2（持続可能な地域づくり）」(16%)、「項目4（コミュニティビジネスの検討）」(11%)となり、「項目5（子どもの郷土愛を育む環境づくり）」の回答はなかった。

≪「具体的に考えている事業や取り組んでみたい事業」の自由記述から一部抜粋≫

項目3（地域課題解決やコミュニティ活動の輪を広げるための取り組み）

- ・R元年度からスタートした防災福祉ネットワークをベースに、新たな事業として「防災福祉のまちづくり事業」を進め、災害や高齢化・人口減少へ学区ぐるみで取り組んでいきたい。
- ・10年後を見据え、若者中心に年代別ワークショップを開催し、地域ビジョンづくりを進める。

全般5. その他、地域コミュニティに関してご意見がございましたらご記入ください

≪自由記述から一部抜粋≫

- ・学区内の町内会では少子高齢化、世帯数や人口の減少が進んでおり、運営に影響が出始めている。また、世帯数減に伴う空き家や空き地も少しずつ増加しており、地域の荒廃にも繋がっているため、空き家調査結果の持ち主の情報開示や利活用についての所有者への要請など、キメ細やかな対策を希望したい。
- ・地域と子どものつながりを深めるには、学校の協力も少し欲しい所だが、働き方改革等もあってか、学校から協力いただくのが難しくなったようだ。
- ・鶴岡市は、昭和、平成と大合併をしたが、それぞれに文化があり、変革(イノベーション)できない。大事にすべきは、市街地コミュニティ、郊外地コミュニティの課題に違いがあることで、人口減少問題が身近にあるところと、5～10年先のところ、その違いが大きいと考える。5年計画は、地域毎の課題で誰がイニシアチブを持って推進するのか分からない。
- ・「持続可能な」を合言葉にする事業・計画自体が、そのじつ非持続・非連続になってはいないか。そうなる原因を取り除かないと、打ち上げ花火の残骸が年々積み重なっていくことになりそうである。

問1. 貴地区のコミュニティ活動の良いところ（特徴、魅力など）はどのようなところだと思いますか。

《自由記述から一部抜粋》

- ・地域の祭を通じて、老若男女がまとまる機会がある。
- ・事業活動について、4部（総務・防災・生涯学習・福祉）の専門部で実行計画を話し合い、実行する。又、令和元年度より学区内の町内会より核人材(コア)を選出して頂き、今後の担い手になってもらっている。
- ・様々な活動に対して、明るく気持ちよく参加する人が多い。若者の参加率も高い方ではないか。汗をかいて行動できる人の割合が高い。
- ・伝統行事の在り方など、必要に応じて変化する事に柔軟な姿勢を持つ高齢者が多い。
- ・他地区に比べて、コミュニティ活動全般において、活発に成されていると思う。当然のことながら、全住民が満足、納得のいく内容ではないと思うが、互いに理解しようと話し合いをするし、真面目に楽しく、取り組んでいるところが当地区の良さだと思う。
- ・若い世代(30代～50代)が地域に興味を持ってきた。海と山があり、地域と自然を活動に取り入れることができる。

問2. 貴地区のコミュニティ活動の足りないところ（課題、問題点など）はどのようなところだと思いますか。

《自由記述から一部抜粋》

- ・住民の多数の方が活動に興味関心がない。近所同士のつながり、互助意識の希薄化。役員のなり手不足。
- ・小学校が統合されたため、子どもと接する機会が減少し、顔が見えにくくなっている。
- ・「何もない所で、生活は不便だ」と言う地域の70～80代と、「すごく良い場所ですね、住みたい」とまで言ってくれる大学生や地域外の30～40代との差。
- ・時代の変化・多様化に対し、「もっとうまく対応できるのではないか」と思うところがある。少子高齢化や人口減少は仕方がないことで、それを理解した上で、かつ持続・継続を前提に、あらゆる面でアレンジすることが求められているのではないかと思う(多くの活動が前年踏襲であることが問題点であると認識)。

問3. 項目1～5のうち、今後力を入れていきたい項目を教えてください



今後力を入れたい項目について、「項目3（地域課題解決やコミュニティ活動の輪を広げるための取り組み）」が22%と最も多く、次いで「項目5（子どもの郷土愛を育む環境づくり）」（17%）、「項目2（持続可能な地域づくり）」（11%）、「項目1（地域課題解決型運営の強化等）」（6%）、「項目4（コミュニティビジネスの検討）」（4%）となった。

≪「具体的に考えている事業や取り組んでみたい事業」の自由記述から一部抜粋≫

項目2（持続可能な地域づくり）

- ・事業のマンネリ化、参加者の固定化にならない様に、参加に魅力を伝える。

項目4（コミュニティビジネスの検討）

- ・少子高齢化が進み、高齢者の支え合いなど広域的に進める事業・狭域的に進める事業等の研修を進めてきたが、実行・実践に至らない。事務的体制をしっかりとすべきである（人材・組織体制・報酬の改革）。

項目5（子どもの郷土愛を育む環境づくり）

- ・ゲーム感覚で楽しめる街歩きイベントを企画している。子供達をはじめ、大人にも、普段歩かない場所をまわってもらい、地域の風景や歴史、危険箇所なども知ってもらえるようにしたい。

その他

- ・項目1～5に対し、それぞれ課題があるが、それらをクリアしていくために、地区内の各種団体、組織の在り方を見直したい。住民世帯数が少なくなり、担い手(なり手)も不足しているのに、負担は増…。重複している取組み・活動もあつたりするので、地区全体のスリム化が必要である。

問4. 貴地区の住民が安心して、楽しく暮らすために、どのような取組（事業など）が必要だと思いますか。

《自由記述から一部抜粋》

- ・人口減少、少子高齢化により、各町内会では困難になった事を振興会（広域自治組織）主導で実施していく。
- ・比較的自然災害が少ない地域であるため、今般、自然災害が多発している状況を憂慮し、より実践的な自主防災活動が必要と思う。
- ・地域創生社会と地域共生社会とが連携して、地域の協働活動を共有しながら、地域資源の掘り起しと、安全・安心を図る活動が必要だと思う。
- ・コミュニティ活動があることによって、何かしら住民に負担が生じるのは避けたいのと、そういう活動はないほうがいい。地区の中で必要とされるもの、実際困っていることの解決につながる活動をする必要があるで、コミュニティ活動をすることを目的にせず、楽しく暮らすための手段でなければならないと思う（一つひとつ事業の見直しが必要）。
- ・5年、10年先を考えると、地域の商店の減少が考えられる。高齢者を中心とした買い物難民の増加が懸念される為、他地区の事例の情報共有と地域ではどうするべきか考えておく必要があると思う。

問5. その他、地域コミュニティに関してご意見がございましたらご記入ください。

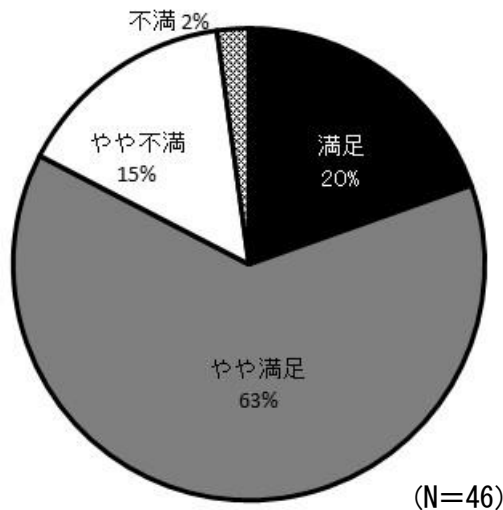
《自由記述から一部抜粋》

- ・これからの地域コミュニティを活性化するには、ボランティア活動では結果がでない。結果を出すには、ビジネス化に取り組むべき（人材・組織体制・コミュニティの改革）。現状のコミュニティの在り方を改革しなければ実行ならない。
- ・地域住民参加型事業（コミセンまつり）の小学校学習発表で、児童の父兄や地域住民が、児童の成長に期待を望み、毎年、会場が溢れるほど住民が参加している。児童たちがふるさとを知り、郷土をほこりに思う地域活動となっている。
- ・各コミュニティセンターに勤務する職員には、施設の貸館対応、維持管理、市との連絡業務以外に、地域住民や地域団体から各種「相談」「調整依頼」「事務委託」など、非常に沢山の役割が期待され、高いコーディネート能力や交渉力、課題解決力も求められているのが実態である。各コミュニティを活性化させるためには、地域住民の主体性はもとより、コミセンに常駐するコーディネーターの役割が大変重要であり、地域内で能力ある若く精力的な人材を地域のために日常的に確保・育成し、積極的にコミュニティ業務にあたって頂くためには、就業・生活に不安が無いような給与額とするべきである。

項目 1. 各世代の住民ニーズにあった活動に再構築について

★取組の具体的事例

- 子ども達の郷土愛を育む地域教育活動の実践
- 各世代が単位自治組織活動に参加しやすい雰囲気や場づくり
- 単位自治組織の存在意義を確認し問題・課題を共有するワーキングや講演会等の開催
- アンケートを活用してのコミュニティ活動に必要な住民情報や住民ニーズの収集・把握



各世代の住民ニーズにあった活動に再構築について、「満足」(20%)「やや満足」(63%)と8割を超えている。各町内会が活発に活動しているからだと考えている。

一方、少子高齢化の人口減少により、町内会の活力が減退したとの意見もあり、事業の推進に苦慮している町内会もあった。

《自由記述から一部抜粋》

「意見」

- ・各世代が参加しやすい雰囲気や場づくりが必要。
- ・少子高齢化に伴い町内会の機能は衰退傾向にあるので活動に参加することが大変である。
- ・色々悩んで考え工夫している点はよいと思う。もっと思い切った変化を起こして変わることが必要では？
- ・社会全体の多様化が進みすぎているので、地域レベルでの取り組みは難しくなっている。基本は生活（金）安定が先立ってのこと。他人との比較感覚での生活スタイルが中心の社会では自治組織で取り組めることは限定されている。

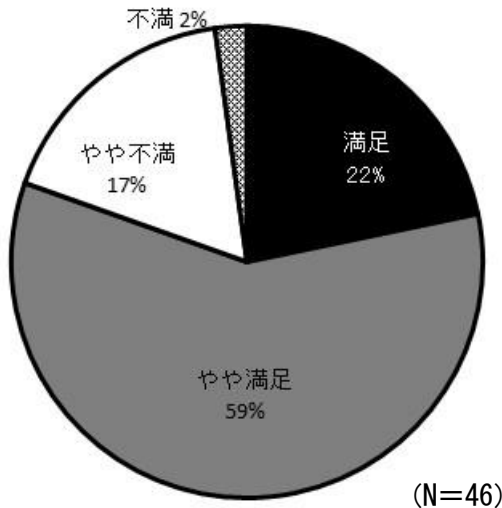
「独自の取組や自慢できる取組、今後取り組みたい課題」

- ・町内会事業として、夏祭りや新年を祝う会などを実施し各世代が参加できる場づくりをしている。
- ・お互いに仲良く助け合う精神を大事に各事業に取り組んでいる。一人暮らし世帯への配食サービス、除雪ボランティア、県道植樹柵の除草・花の植栽などの美化運動に町内会ぐるみで取り組んでいる。課題として若い世代・子供たちと一緒に参加できる内容に見直しする。

項目 2. 財政運営と会費のあり方の検討について

★取組の具体的事例

- 会費収入に見合った事業運営に向けた住民合意に基づく活動の優先順位付けや内容の見直し
- 各種団体・組織の統合・再編の検討



財政運営と会費のあり方の検討について、「満足」(22%)「やや満足」(59%)と8割を超えている。

一方、少子高齢化、人口減少により、将来を心配する意見と、各種団体負担金が多いことに関する意見が多かった。

《自由記述から一部抜粋》

「意見」

- ・当町内会では予算の15%が負担金寄付金となっている。それぞれの必要性は認識しているが、負担金の額について妥当なのか検証してほしい。
- ・各戸の財政運営が難しくなっているのか、会費徴収が負担になることがある。小規模の自治組織では他団体の負担金の割合が多い。

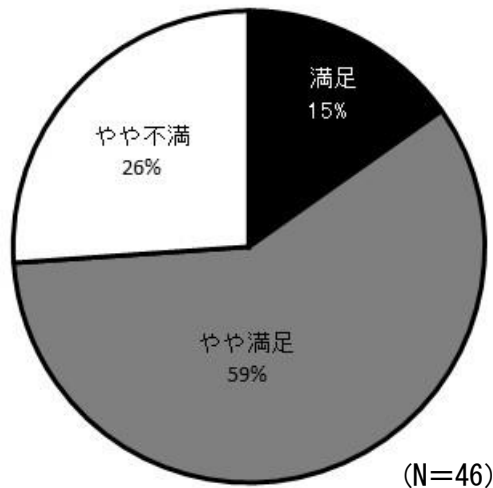
「独自の取組や自慢できる取組、今後取り組みたい課題」

- ・町内会員の高齢化が進んでおり、町内会活動や隣組の運営等に支障があるので隣組の再編が必要と思われるので検討したい。
- ・総会の意見提言を尊重して見直しを図りつついる。課題として今年度班編成の見直し、事業内容の見直しのための検討委員会を設置して年内に取りまとめる。
- ・企業協力金をお願いし、財政補填の一助とした。
- ・町内会費負担の軽減を図るよう事業内容の見直しを常々気に掛け洗い直せる場を設けています。

項目3. 広域コミュニティ組織との連携による事業内容の見直しについて

★取組の具体的事例

- 従来行われてきた事業内容の再点検・見直し
- 広域コミュニティ組織等と連携しての生涯学習事業の実施
- 多様な媒体を活用した事業周知、年齢層やライフステージを意識したPR活動



広域コミュニティ組織との連携による事業内容の見直しについて、「満足」(15%)「やや満足」(59%)と8割近くになっている。H27年から活動している自治振興会が一定の役割を果たしていると考えている。

一方、「やや不満」が26%で、より一層のリーダーシップを期待している町内会があった。

《自由記述から一部抜粋》

「意見」

- ・町内会単独で生涯学習事業を実施することは無理がある。広域コミュニティ組織のリーダーシップに期待したい。
- ・広域コミュニティ組織への理解がされていない。事業実施の財源確保が必要である
- ・無理をしなくてもいいと思う。毎年の行事だけでも大変になっている。年2-3回集落の人が顔を合わせられればいいと思う。

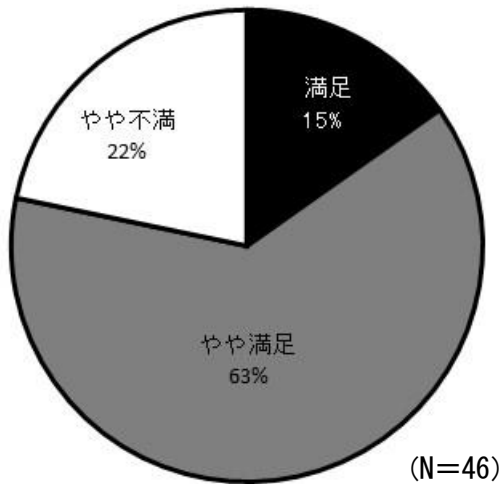
「独自の取組や自慢できる取組、今後取り組みたい課題」

- ・町内会のグループ活動を支援する補助金制度をつくり、新たな事業を掘り起こすとともに事業の見直しを図っている。
- ・各事業に参加する人の固定化が進んで来ている。関心の低い方々に参加してもらえるように工夫が必要。これからの町内会を担う若い世代との交流会などを企画してみたい。

項目 4. 広域コミュニティ組織と一体となった安全・安心な体制づくりについて

★取組の具体的事例

- 自主防災組織の機能点検
- 有事を想定した防災訓練の実施
- 緊急時や災害時に備えた住民情報収集の必要性、取り扱い方法、活用方法及び活用成果についての説明
- 地域住民の防犯意識の啓発活動
- 学校、保護者、単位自治組織、広域コミュニティ組織、地域団体との連携による「見守り隊」活動の実践



広域コミュニティ組織と一体となった安全・安心な体制づくりについて、「満足」(15%)「やや満足」(63%)と 8 割近くとなっている。H27 年から活動している自治振興会が一定の役割を果たしていると考えている。一方、「やや不満」が 22%で、自主防災会がうまく活動できていない町内会もあった。

《自由記述から一部抜粋》

「意見」

- ・各年代での安心安全のあり方が変化しているが、それぞれの年代での課題や対応に、社会の変化についていけない。
- ・文章化することは安易だが、実践するのは難しい。
- ・自主防災組織はあるものの十分な機能を果たすまでには至っていない。
- ・自主防災組織はあるものの横のつながりや連携ができていない。災害時には地区レベルで構築していく必要があると思うし、各所の連携も大事だと思います。

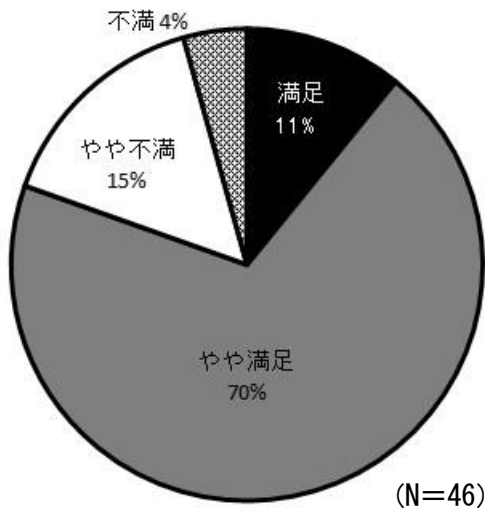
「独自の取組や自慢できる取組、今後取り組みたい課題」

- ・災害時の初動及び救命活動に迅速に対応するための家族カードを整備している。
- ・毎年防災訓練を実施するとともに、町内会専門部員に対し有事の場合の各自の自主防災組織での役割を説明している。

項目5. 高齢者を近隣の輪で支える体制を再構築について

★取組の具体的事例

- 高齢者の生活ニーズ（支援が必要な人と支援ができる人の情報収集、必要とされる支援内容の洗い出し、高齢者支援のボランティア体制の確立）への対応策の検討
- 単位自治組織と広域コミュニティ組織との機能・役割分担会議の開催



高齢者を近隣の輪で支える体制を再構築について、「満足」(11%)「やや満足」(70%)と8割を超えている。町内会のコミュニティがあり、顔の見える付き合いがあることがうかがえる。

一方、「やや不満」が15%で、支援する人の資質向上などの問題があるとする町内会があった。

《自由記述から一部抜粋》

「意見」

- ・高齢者のみならず、近隣で支える体制の構築は広域コミュニティ組織職員の資質向上が必要だと考える。
- ・まだ多世帯家族なので買い物・通院等は何とかなっている。除雪については親戚同士で助け立っている。
- ・個別の事情がさまざまであり、もっと内部に入り込んだ議論が必要。家族の助け合い、親戚同士の助け合いも含めた形にすべき。

「独自の取組や自慢できる取組、今後取り組みたい課題」

- ・除雪ボランティアを実施している。高齢者の活動の場である「サロン」に町内会より補助をし活動を支えている。
- ・まだ必要がないと考えている人が多い。近々支援が必要となることは明確につき地域と連携して対応行かないと、町内会での認識を高めることを働き掛けていきたい。
- ・高齢者の買い物・通院のためデマンドタクシーを早くやってもらいたい。

全般. 項目1～5のうち、もっとも満足している項目を教えてください

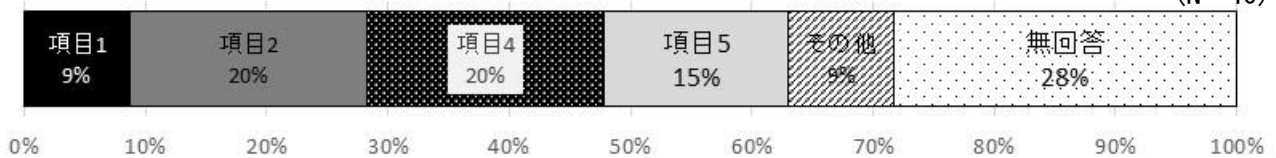
(N=46)



満足している項目について、「項目1（各世代の住民ニーズにあった活動に再構築について）」(30%)、「項目2（財政運営と会費のあり方の検討について）」(11%)、「項目4（広域コミュニティ組織と一体となった安全・安心な体制づくりについて）」(9%)、「項目5（高齢者を近隣の輪で支える体制を再構築について）」(9%)、「なし」(41%)となった。

全般. 項目1～5のうち、今後力を入れていきたい項目を教えてください

(N=46)



今後力を入れていきたい項目について、「項目2（財政運営と会費のあり方の検討について）」(20%)、「項目4（広域コミュニティ組織と一体となった安全・安心な体制づくりについて）」(20%)、「項目5（高齢者を近隣の輪で支える体制を再構築について）」(15%)「項目1（各世代の住民ニーズにあった活動に再構築について）」(9%)、「その他」(9%)となった。

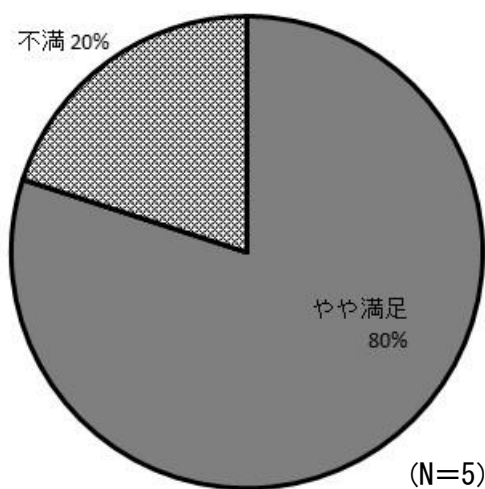
《「具体的な取組」の自由記述から一部抜粋》

- ・「自分の所は自分で守る」という観点から、自主防災組織の強化、防災学習会の実施、若い世代との交流懇談会の開催。
- ・現在実施している事業を継続して実施することが最優先と考える。
- ・高齢化に対する支援の在り方の具体化と組織化。
- ・出来る事はすべて。

項目① 地区自治振興会の発足で新たな活動について

【具体的取組の事例として】

- 広域コミュニティ組織の意義と活動内容のPR
- 各種団体・組織の統合・再編の検討
- 地域コミュニティの実態を把握するための調査の継続実施
- 住民の声を反映した「地域ビジョン」の策定
- 各種団体組織（広域コミュニティ組織、単位自治組織、社会福祉協議会等の団体）による情報交換会の開催、連携に向けた検討
- 地区担当職員による行政側の情報提供、地域課題の情報収集、解決に向けた取組支援
- アンケートを活用してのコミュニティ活動に必要な住民情報や住民ニーズの収集・把握
- ワークショップによる人材の掘り起しと住民ニーズの把握



地区自治振興会の発足で新たな活動について、「やや満足」（80％）と8割を超えている。H27年から活動している自治振興会が一定の役割を果たしていると考えている。

一方、「不満」が20％で、住民ニーズの収集・把握をしきれていないと考えている自治振興会があった。また、「一般住民は、従来の公民館機能の域を脱していき、地域の課題解決型組織にはなっていない。」との意見もあった。

《自由記述から一部抜粋》

「意見」

- ・一般住民は、従来の公民館機能の域を脱していき、地域の課題解決型組織にはなっていない。
- ・住民ニーズの収集・把握と「地域ビジョン」の策定。ワークショップによる人材の掘り起こしが必要。

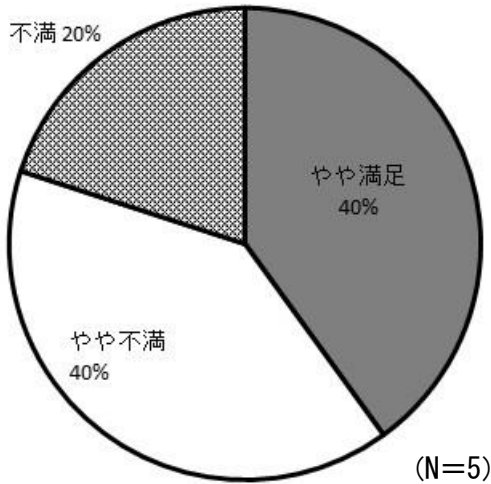
「独自の取組や自慢できる取組、今後取り組みたい課題」

- ・地域課題として取り上げられた「高齢者宅除雪」「交通弱者対策」「災害対応」「若い世代への支援＝学習支援」については次のステップに入った。今後は若い方々の企画力に期待するとともに人材の育成が必要と感じる。
- ・地区活性化委員会を設立し、地域の活性化策について、継続協議している。昨年度第一次の活性化案がまとまり、具体化の取り組みを始めている。

項目② 財政基盤の確立について

【具体的取組】

- 会費のあり方の検討
- 住民合意に基づく活動の優先順位付けや内容の見直し
- コミュニティビジネスの取組に向けた検討



財政基盤の確立について、「やや満足」(40%)と「やや不満」(40%)が拮抗していた。

市からの委託金や事業収入で事業を行っているが、それだけでは賄えないことがあるようだ。事業費の見直しを行ってはいるがそれにも限界があり、一方、会費徴収には住民が大きな抵抗を持っており、町内会からの会費徴収については苦慮している自治振興会があった。

《自由記述から一部抜粋》

「意見」

- ・会費徴収には住民が大きな抵抗を持っている。内容の見直しで事業を中止したが基盤の確立には程遠い。見直しにも限界がある。

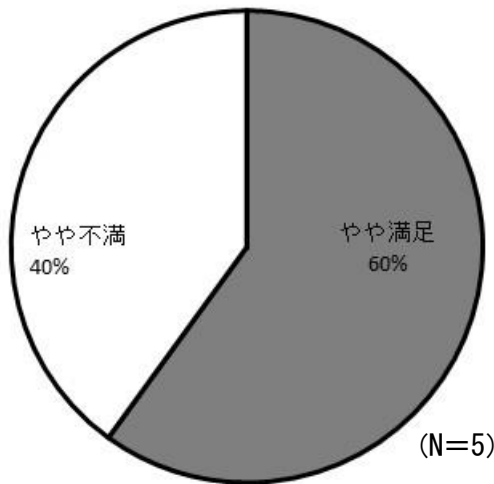
「独自の取組や自慢できる取組、今後取り組みたい課題」

- ・地域課題として取り組んだ項目は住民の参加費で賄い採算性は取っている。収益を上げ財政・基盤を作るには、活動センターの営利使用不可、損失担保、地域との利害などの課題が大きすぎる。

項目③ 地区内外の団体と連携強化について

【具体的取組】

- 各種団体組織（広域コミュニティ組織、単位自治組織、社会福祉協議会等の団体）による情報交換会の開催、連携に向けた検討
- 人材育成のための研修機会の充実（単位自治組織若手を対象とした研修会、PTA と連携しての地域人材育成研修会、コミセン職員研修会等）
- 町内会長連絡協議会等地域全域で構成される組織と広域コミュニティ組織との連絡調整会議の開催
- 広域コミュニティ組織連絡協議会の設立と組織間の情報共有・連携



地区内外の団体と連携強化について、「やや満足」(60%)となっていた。
町内会との関係がうまくいっている自治振興会とそうでないところがこの結果になったと思われる。

《自由記述から一部抜粋》

「意見」

- ・高齢者宅除雪について、関連4団体と協議を行ったが事務局がどこにするかでとん挫している。仕事量の増加となるため連携は可能かどうか疑問である。

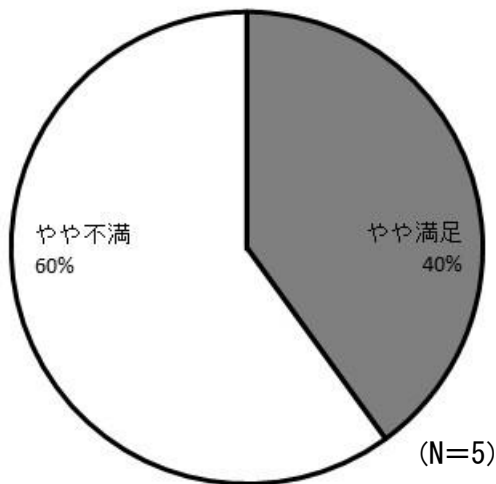
「独自の取組や自慢できる取組、今後取り組みたい課題」

- ・町内会長会と自治振興会の役割分担に疑問を持つ。地区のみならず、地域全体の町内会長会と自治振興会の連絡調整会議を設け、地域課題や情報共有化すべきではないだろうか。

項目④ 福祉と防災で新たな役割を確立について

【具体的取組】

- 単位自治組織と広域コミュニティ組織、市による機能・役割分担会議の開催
- 単位自治組織と情報を共有する体制づくり
- 学校、保護者、単位自治組織、広域コミュニティ組織、地域団体との連携による「見守り隊」活動の実践
- 関係団体等との協働による防災訓練の実施
- 高齢者の生活ニーズ（支援が必要な人と支援ができる人の情報収集、必要とされる支援内容の洗い出し、高齢者支援のボランティア体制の確立）への対応策の検討
- 高齢者の生活ニーズを踏まえ、持続可能な課題解決の手法として、コミュニティビジネスの取組に向けた検討



福祉と防災で新たな役割を確立について、「やや不満」(60%)となった。

防災活動は各自治振興会で取り組んできているが、福祉では、自治振興会が果たす役割について迷いがあり、取り組みが進んでないようだ。

《自由記述から一部抜粋》

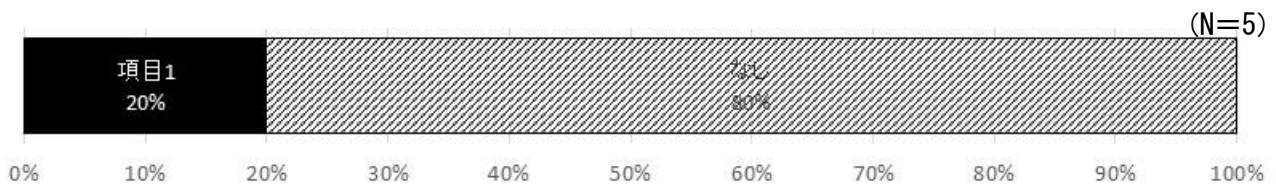
「意見」

- ・福祉の点で広域コミュニティ組織が果たすべき役割を明確にすること自体が困難極まる。
- ・高齢者の生活ニーズが多様すぎボランティアの芽も育たない。

「独自の取組や自慢できる取組、今後取り組みたい課題」

- ・自主防災をメインに活動を推進してきたが、住民の心を一つにするには程遠い。避難も「思い込み」で統一行動になっていない。
- ・防災事業への取組、町内会自主防災組織は高齢化により弱体化となっており消防団員の確保も困難な状況が続いています。団の再編も要望した。町内会の取組についても研修、グループワークを行い防災事業の取組について協議した。今後は自ら身を守ることが大切であり地区の防災情報を発行したいと思います。

全般. 項目1～4のうち、もっとも満足している項目を教えてください



満足している項目について、「項目1（地区自治振興会の発足で新たな活動について）」（20%）、「なし」（80%）となった。

全般. 項目1～4のうち、今後力を入れていきたい項目を教えてください



今後力を入れていきたい項目について、「項目1（地区自治振興会の発足で新たな活動について）」（40%）、「項目4（福祉と防災で新たな役割を確立について）」（20%）、「無回答」（40%）となった。

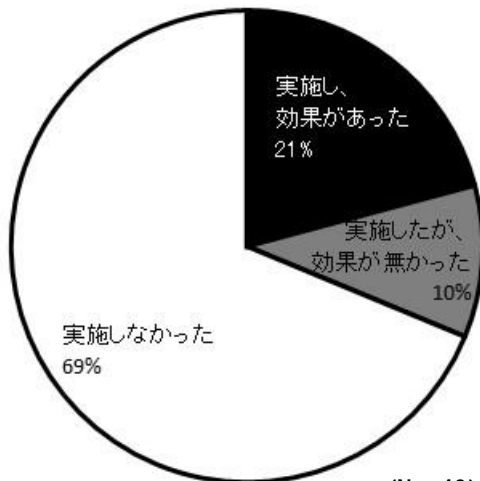
《「具体的な取組」の自由記述から一部抜粋》

- ・防災面で、各町内会には自主防災会が組織化されているが、地区全体での連携は構築されていないことから、体制づくりを進めたい。
- ・アンケートやワークショップによる人材の掘り起こし、住民ニーズの把握、住民の声を反映した「地域ビジョン」の作成

項目 1. 集落規模の縮小と活動減少への対応を行いましたか？

★取組の具体的事例

- 広域コミュニティ組織（自治振興会）と連携した事業体制の構築
- 住民自治組織（自治振興会及び集落）の運営や事業内容の見直し
- 近隣の単位自治組織（集落）との連携や統合の検討



集落規模の縮小と活動減少への対応について、「実施しなかった」が7割弱（69%）。現時点では必要ない、集落総会でその都度協議するとの意見が多かった。

一方「実施し、効果があった」（21%）、「実施したが、効果がなかった」（10%）と約3割は、対応を実施している。

効果があった意見の中に、広域コミュニティ組織が企画する事業に参加することにより、集落自体活動は減ったが、広い活動が増え充実感があると思うとある。これは単位自治組織で担えない部分を広域コミュニティが補完する役割が果たされていることを示している。

≪自由記述から一部抜粋≫

「実施し、効果があった」 ⇒自慢できる取組や効果の有無を判断した理由

- ・高齢化の進む中、若い世代の自治組織への参加を進めてきた。集落の活動に若い人の参加が多くなっている。
- ・自治振興会へ参加することにより集落自体の活動は減ったが、広い活動が増え充実感があると思う。
- ・新しく若い世代の移住、集落行事の参加がある。
- ・農村公園での集落体育祭、子供会を中心とした美化運動等多くの住民の参加がある。

「実施したが、効果がなかった」 ⇒自慢できる取組や効果の有無を判断した理由

- ・全世代が対象の収穫感謝祭を中止したが効果は感じられなかった。
- ・少子高齢化により共同作業が難しくなる。
- ・高齢者世帯増加と若者の人口流出が増加している。

「実施しなかった」 ⇒その理由や必要であると考えている取組

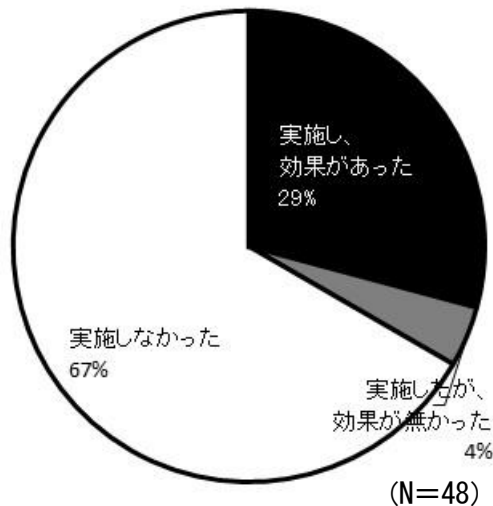
- ・戸数の減少により隣組の「区分け見直し」の案が出たがさほど支障もなかったので実施に至っていない。
- ・現状維持でいいのでは。
- ・従来の諸行事実施で十分である。
- ・必要がない。
- ・活動は維持されているから。
- ・集落総会にてその度協議。
- ・若い人達と年輩者との話し合いの場を設ける。

項目2. 役員等の負担軽減と担い手の育成に取り組みましたか？

★取組の具体的事例

○役員等の負担軽減につながる効果的な組織体制の見直し

○役員等を育成する仕組みづくり



役員等の負担軽減と担い手の育成について、「実施しなかった」が7割弱（67%）。役員選出を輪番制にしており特に支障がないとの意見が多かった。

一方「実施し、効果があった」（29%）、「実施したが、効果がなかった」（4%）と、約3割は実施している。

効果があった意見の中に、従来の輪番制の体制に加え、役員を正副にして長の負担軽減を図り、確実に効果を感じているという回答も複数あった。

《自由記述から一部抜粋》

「実施し、効果があった」 ⇒ 自慢できる取組や効果の有無を判断した理由

- ・役員を年齢の年順に送り、1年交替で進めてきたが、役員の数数年にすることで仕事への負担感が少なくなっている。
- ・区長はあて職も含めると多くの重責を抱えるので、その下に「区長代理」制度を設けて区長の負担軽減を図った。確実に効果があった。
- ・会計を若者に引継ぎした。役職の兼務がなくなって負担軽減となった。
- ・役員手当の増額、役員を年齢を下げた。
- ・役員を正副制度により補い負担軽減につながっている。

「実施したが、効果がなかった」 ⇒ 自慢できる取組や効果の有無を判断した理由

- ・集落の長・副以外役員は組単位を2年で変わる（集落の長副以外）。

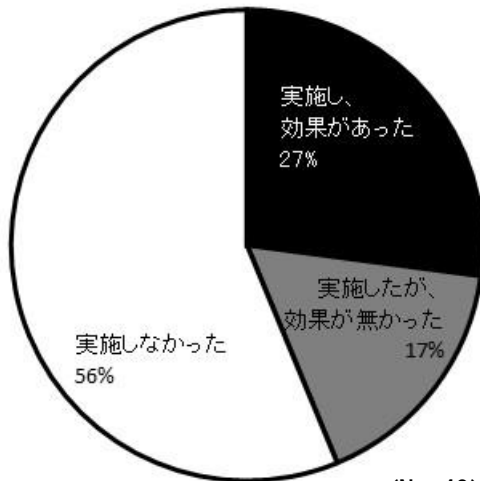
「実施しなかった」 ⇒ その理由や必要であると考えている取組

- ・役割分担がはっきりあって別に困っていない。
- ・急遽二度目の区長就任に当たり今後の役員交代がスムーズにいく様に役員会総会にて合意確認できたので安心である。
- ・集落役員は、ほぼ輪番制を継続しており、スムーズに選出している。隣組々長が役員会に入っていて、自然に意識されている。
- ・社会的な現役世代が多く集落、自治会活動に対して意識が低い、役員を世代交代、役員を役割・活性化を早急に取り組みたい。
- ・前任者からの引継ぎ不備。

項目3. 子どもや若者の事業参加や活動の担い手を確保する環境の整備を図りましたか？

★取組の具体的事例

- 若者のリーダー育成講座や研修会の開催
- 若者が主体的に行う事業への支援
- 子どもや若者の地域における活動の拡大による意識付け
- 活動内容や開催日の検討等伝統文化や行事が継承できるような環境づくり
- 小中学校や高等教育機関、企業等への協力要請



子どもや若者の事業参加や活動の担い手を確保する環境整備について、「実施しなかった」が6割弱（56%）。

一方、「実施し、効果があった」（27%）と「実施したが、効果がなかった」（17%）と、4割は子どもや若者が参加しやすい事業企画等の環境整備を図っている。

効果があった意見の中に、ホテル祭りを住民総参加型で開催し、地域の賑わいの創出と次代を担う子供たちの健全育成を図ったとの回答もあった。

≪自由記述から一部抜粋≫

「実施し、効果があった」 ⇒自慢できる取組や効果の有無を判断した理由

- ・住民総参加型の「ホテル祭り」を開催し、老若男女が一堂に会して若者が一役を担う等、地域の賑わいの創出と次代を担う子供たちの健全育成を図った。
- ・地域の環境整備あるいは危険個所の点検。
- ・子供会中心の春秋クリーン作戦・資源回収・青年（草刈り会）、用水路内・集落内の草刈りで地域に貢献。
- ・夏祭りを役員主体から若年層参加募り、準備するようになった。
- ・継続事業だが、若者（消防団主体）企画事業の集落祭り実施と集落での支援。とりたてて自慢するほどではないが貴重な取り組み。

「実施したが、効果がなかった」 ⇒自慢できる取組や効果の有無を判断した理由

- ・地域の自然との関わり合いから、小学生・保護者に参加をお願いして地域内に生息する動植物の観察を実施した。
- ・親世代が忙しく地域活動の参加が減少している。
- ・以前環境整備事業と連動し、子供会の花植えや、ざっこしめ等企画したが現在はすべて行っていない。保護者の世代も代わり意識にも変化がある。

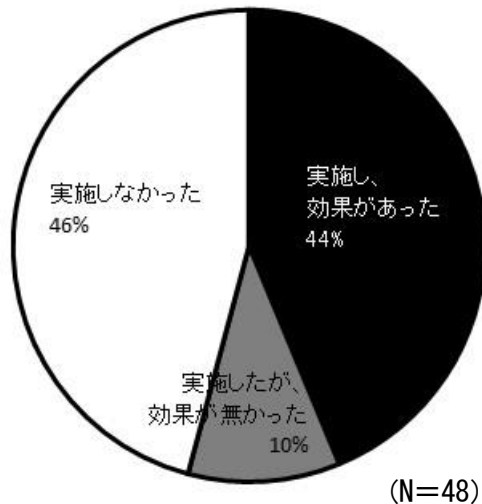
「実施しなかった」 ⇒その理由や必要であると考えている取組

- ・少子化・地域行事への参加が減。
- ・現状でよい。
- ・事業や活動機会が少なく、また子供・学生等年齢的未成熟。
- ・農家で家に居る人が減少していく中でサラリーマンは中々仕事優先になりがちで厳しい。
- ・若者・子どもの人数が少ないため。

項目 4. 福祉・防犯・防災等安全で安心な地域づくりの推進に努めましたか？

★取組の具体的事例

- 自主防災組織の機能点検と研修の開催
- 広域コミュニティ組織と連携した事業体制の構築
- 要支援者見守り体制の検討
- 他団体と連携した高齢者等交流・支援活動の実施



福祉・防犯・防災等安全で安心な地域づくりの推進について、「実施しなかった」が5割弱（46%）。現状集落内での協力・確保で良い、隣近所付き合いがある等、「顔の見える関係」の構築が図られており支障ないとの理由が多かった。

一方、「実施し、効果があった」（44%）、「実施したが、効果が無かった」（10%）と半数以上（54%）は、取り組みを実施している。

主に、集落内での防災・防犯訓練を実施し、組織の防災力と住民自治組織の向上の効果を感じているとの意見が多くあった。

≪自由記述から一部抜粋≫

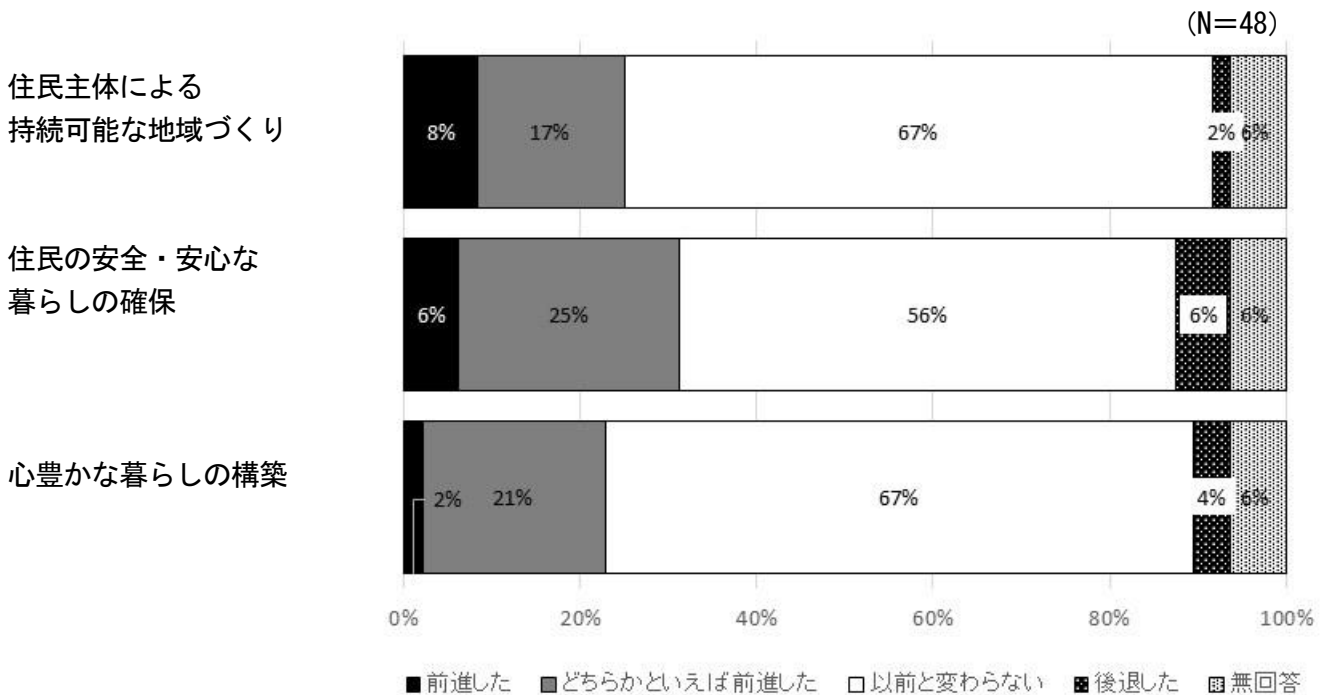
「実施し、効果があった」 ⇒自慢できる取組や効果の有無を判断した理由

- ・毎年集落内の子供達にも参加を呼びかけて自主防災訓練を実施し、「防災」の重要性を再認識する等の効果があったと思う。
- ・自治振興会との防災訓練を通し、それぞれの具体的な役割や要支援者への確認ができた。
- ・集落内の施設（特老）に親子でボランティア活動に参加して親の姿を見つつ、社会とのコミュニケーションを学習する。
- ・避難訓練等実施し、住民自治組織の向上につながった。
- ・高齢者を対象に定期的にサロンを開催しているが、居場所づくりには効果があると思う。

「実施しなかった」 ⇒その理由や必要であると考えている取組

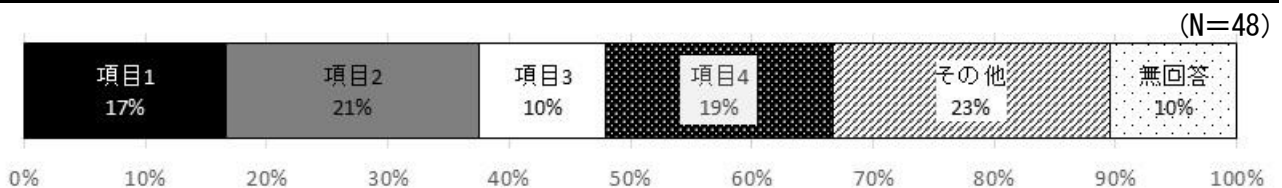
- ・地域防犯協会との連携。
- ・現状集落内での協力・確保で良い。
- ・隣近所の付き合いがあるので。
- ・今後取組を考えている。

全般1. 地域コミュニティの目指す5年後の方向性について、計画策定時（平成27年度）と比べてどのように変化しているか教えてください



住民主体による持続可能な地域づくりと、心豊かな暮らしの構築は、割合が類似している。「前進した」「どちらかといえば前進した」合わせると2割程度、「以前と変わらない」は7割弱となっている。また、住民の安全・安心な暮らしの確保は、「前進した」「どちらかといえば前進した」を合わせ3割（31%）と他の項目より若干多い。また、「以前と変わらない」は6割弱となっている。

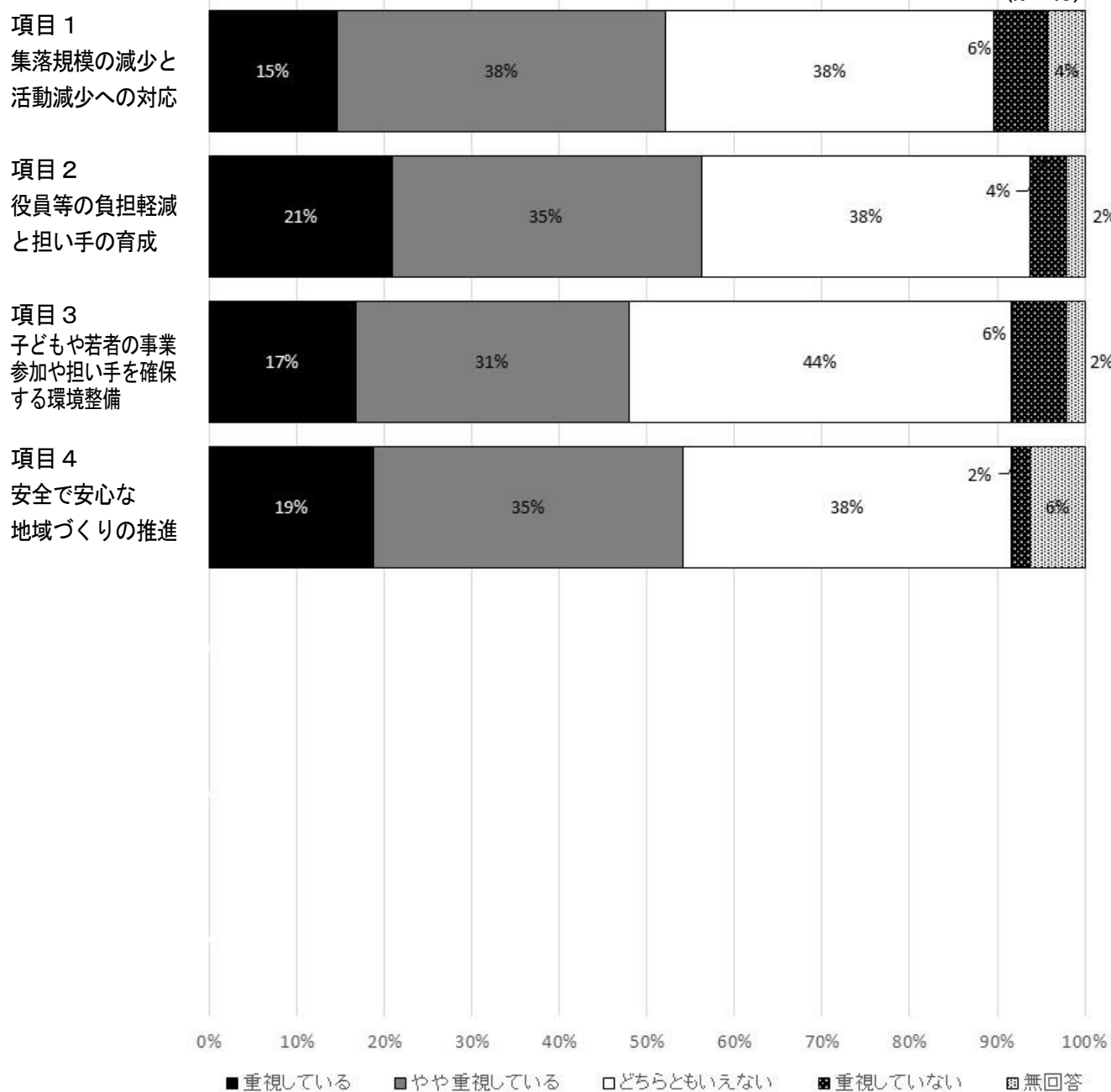
全般2. 項目1～4のうち、貴町内会が特に力を入れて取り組んだ項目を教えてください



一番多い、その他（23%）は、特に取り組んでないとの意見が大半だった。次に多い項目2『役員等の負担軽減と担い手の育成』（21%）は、単位自治組織の会員が減少しているにも関わらず、役職は減らず、複数の役職の兼務しなければならない課題の対応に取り組んでいるものと推察する。続いて、項目4『福祉・防犯・防災等安全で安心な地域づくりの推進』は（19%）、項目1『集落規模の縮小と活動減少への対応』（17%）、項目3『子どもや若者の事業参加や活動の担い手を確保する環境の整備』（10%）の結果となった。

全般3. 現在、項目1～4の取組をどの程度重視しているか教えてください

(N=48)



各取り組みを「重視している」、「やや重視している」を合わせて比較すると、一番多いのは、項目2『役員等の負担軽減と担い手の育成』(56%)で6割弱を占めている。これは、全般2の結果と同一であり、「重視している」ため「特に力を入れて取り組んでいる」ことが伺える。

次に項目4『福祉・防犯・防災等安全で安心な地域づくりの推進』(54%)、ほぼ同列で項目1『集落規模の減少と活動減少への対応』(53%)、項目3『子どもや若者の事業参加や担い手を確保する環境整備』(48%)と続く。

全般4. 項目1～4のうち、今後力を入れていきたい項目を教えてください

(N=48)



今後力を入れていきたい項目について、項目1『集落規模の縮小と活動減少への対応』（23%）、次に項目2『役員等の負担軽減と担い手の育成』と、項目4『福祉・防犯・防災等安全で安心な地域づくりの推進』（21%）、項目3『子どもや若者の事業参加や活動の担い手を確保する環境整備』（17%）の順となっている。

具体的に考えている事業として、多世代が交流でき自由に使える空間づくりや、各組織との全体交流、人口減少をストップするため地域のPR活動に努め、人が集まるようなイベントの企画等意欲的な意見があった。

全般5. その他、地域コミュニティに関してご意見がございましたらご記入ください

《自由記述から一部抜粋》

- ・羽黒地区には、単位自治組織69集落と旧町村等と比較しても非常に多く本来のコミュニティを運営するのに課題も多々ある中で、健全な組織体制を構築する意味でも集落の統廃合が必要であると思います。
- ・少子高齢化に対して集落として対応する手段はほとんどない。
- ・高齢化進み、福祉施設の充実・拡大をもっと図るべき、幼稚園・保育所の完全無償化を考えるべき。
- ・集落全体見渡しても人それぞれではないのかもしれないが挨拶ができない人が多くなってきている。親の責任はやはり大きい。
- ・地域コミュニティの（イベント等）機会が少なく、地域コミュニティの実施に関して行動の活力と熱意が感じられない。（1つの行事として過ごしている、日程をこなしているのみ）

問1. 貴町内会等のコミュニティ活動の良いところ（特徴、魅力など）はどのようなところだと思いますか。

《自由記述から一部抜粋》

- ・戸数が少ないのでまとまりがある。
- ・自治振興会及び近隣集落との連携した事業体制。
- ・子どもの頃から継続的な行事・活動から地区歴史の積み重ねに関わりを感じることが出来る。
- ・集落の活動への参加にとっても協力的なところ。
- ・昔からやっている活動を継続して行っているところ。
- ・ほたる祭り等の行事、祭事を多くの人が参加して行っている。
- ・集落が小さいことから、出席率がよく団結力があると思う。
- ・年一回の夏祭り等で集落内のコミュニケーションをとっている。集落内の草刈りを年3回行ないますが、2回は機械なのですが、1回は全員参加し、手で刈るようしています。

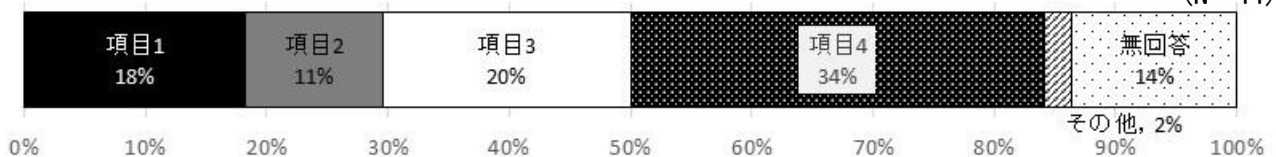
問2. 貴町内会等のコミュニティ活動の足りないところ（課題、問題点など）はどのようなところだと思いますか。

《自由記述から一部抜粋》

- ・人口減少の問題で進歩無し。
- ・1～3人世帯が1/3 がいる、小学生が4名しかいない、部落内でも顔を見ない人がいる。
- ・比較的に軒数が多い地区ではあるが参画する人が限られる。また役員についても重複する事が多い。会社勤めの都合、各家庭の年代構成等、個人・家庭内の問題が地区でカバーできる範囲を超えていると思われ、方法・仕組みを変えないと継続が難しい。
- ・隣組での活動が希薄になってきている。
- ・集落の人が少ないので役員がすぐにまたしななければならない。運動会の時子供が少ないため、子供がいなくても全員参加しないと競技に欠員が出る。又競技に1人で3つ4つ参加しなければならない
- ・人材不足、若者がいない。
- ・小さい集落のため、役職のかけもち等がある。また若い人も少ないため今後10年、20年と考えると不安。

問3. 項目1～4のうち、今後力を入れていきたい項目を教えてください

(N=44)



最も力を入れていきたい項目は、項目4『福祉・防災等安全で安心な地域づくりの推進』（34%）次に項目3『子どもや若者の事業参加や活動の担い手を確保する環境整備』（20%）、項目1『集落規模の縮小と活動減少への対応』（18%）最後に項目2『役員等負担軽減と担い手の育成』（11%）の順となっている。単位自治組織（区長回答）のアンケートは、項目1（23%）を1番にあげている。

《「具体的に考えている事業や取り組んでみたい事業」の自由記述から一部抜粋》

- ・集落役員も高齢になっているので若返りをしたい。
- ・災害時の集落住人の安否確認。
- ・伝統行事や伝統文化を継承できるような体制（少子化や参加者の減少）。
- ・小学校が閉校し子供会活動が地域と密接に連携しているため手向独自が難しい。
- ・集落役員は年齢の輪番制を固定化し他集落の役員との交流を図ること。

問4. 貴町内会等の住民が安心して、楽しく暮らすために、どのような取組（事業など）が必要だと思いますか。

《自由記述から一部抜粋》

- ・高齢者の支援体制。
- ・災害時の集落住人の安否確認。
- ・自治防犯組織と連携した事業の構築。
- ・問う前に提案を。
- ・今ある行事や祭事の形を変えても継続していくことが重要であると思う。
- ・除雪、草刈等の軽減【労力】
- ・プライバシーの問題がなかなかむずかしい。
- ・若者世代がこの集落で生活したい（残りたい）と思う地域創りが必要だと思う。
- ・空き巣などの犯罪防止（日中家に居る人が少なくなっているため見知らぬ人がきてもわからない）。
- ・年2.3回位の集落の保守・安全点検の実施、集落全体でのフリーの話し合い、レクリエーション（全体での芋煮会・運動会の復活）。

問5. その他、地域コミュニティに関してご意見がございましたらご記入ください。

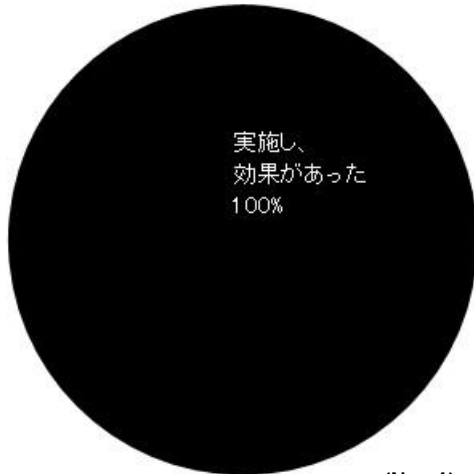
《自由記述から一部抜粋》

- ・現状維持を保ち悪化しないように。
- ・先ず、若者（後継者）が地区・地元で仕事（生活）ができる環境が重要だと感じます。また、子育て世代・高齢者に対して、安全・安心を提供できる政策をお願いします。
- ・人口増加しないと何をするにしても大変、企業誘致など若い人が地元に住れる環境づくり。

項目 1. 広域コミュニティ組織への理解と協力の促進に努めましたか？

★取組の具体的事例

- 広域コミュニティ組織の意義と活動内容のPR
- 広域コミュニティ活動についての研修会の開催や情報交換
- コミュニティビジネスの取組に向けた検討
- 各種助成金等活用方法の検討
- 会費制の導入の検討



(N=4)

広域コミュニティ組織への理解と協力の促進について、全地区、「実施し、効果があった」と回答している。

平成26年に自治振興会が創設され、平成27年に旧地区公民館単位で地域活動センターが設置されてから5年が経過している。

総合的な地域活動の拠点施設として、事業の企画・運営等を各地域の関連団体と連携を図りながら、地域住民が気軽に参加できる仕組みの構築と、また広報等の発行により、広域コミュニティ組織の意義が理解され、協力を得られたことがアンケートの結果から伺える。

《自由記述から一部抜粋》

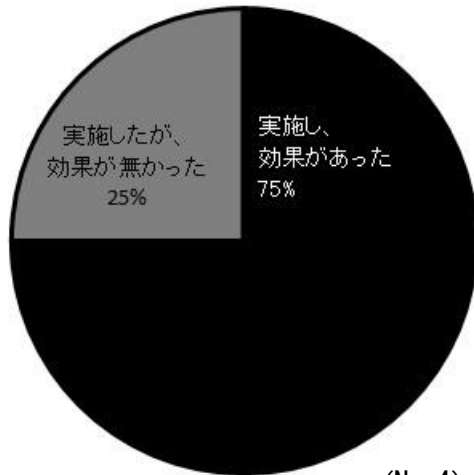
「実施し、効果があった」 ⇒自慢できる取組や効果の有無を判断した理由

- ・毎月1回「手向人」広報を発行して地域コミュニティへの参加、協力、理解を啓発している
- ・専門部組織体制の構築、区長会・生涯学習推進員、羽黒小教頭、PTA、老人クラブ、婦人会、福祉センター長等の協力を得て実施している。
- ・振興会事業を通して、理解と協力を推進している。
- ・自治振興会として地区の自治意識を高める事業展開を行ってきた。効果は全くなかったとも言い切れないがまだまだ努力が必要と思う。

項目 2. 単位自治組織等との連携と役割分担及び人材の育成に取り組みましたか？

★取組の具体的事例

- 広域コミュニティ組織の単位自治組織への支援体制の構築
- 地区住民の声を反映した「地域ビジョン」の策定
- 地域課題解決のための情報交換や話し合いの実施
- 人材の発掘や育成のための講座や研修会の開催
- 広域コミュニティ組織連絡協議会の設立と組織間の情報共有・連携
- 地域コミュニティに関わる団体・組織との交流や話し合いの実施



単位自治組織との連携と役割分担及び人材の育成について、令和元年度に地域ビジョン策定した手向地区と現在策定中の泉地区と羽黒第四地区は、「実施し、効果があった」と回答している。地域ビジョン策定にあたり、この3地区は、世代を超え、老若男女問わず、より多くの地域住民の声を聞き、地域の課題を共有して一体的なまちづくりに取り組んでいることが伺える。

「実施し、効果がなかった」と回答している広瀬地区は、区長をはじめ他団体の役員が単年交代や改選等により人材育成に至らないことが要因としている。

≪自由記述から一部抜粋≫

「実施し、効果があった」 ⇒自慢できる取組や効果の有無を判断した理由

- ・地域ビジョン策定のため2年間、計11回のワークショップを開催して地域の老若男女に参加してもらい今年4月まちづくりプランを策定した。
- ・地域ビジョン策定準備委員会発足、資料を提供いただき2回の勉強会実施。令和2年度に世代を交えての(20~70代)策定委員を選出し策定に着手予定。
- ・地区の規模の小ささを活かして若い世代の方も事業に参加してもらえるよう、役の割り振りし協力を仰いだ。

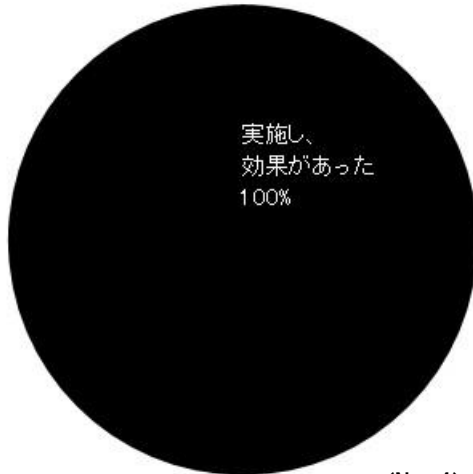
「実施したが、効果がなかった」 ⇒自慢できる取組や効果の有無を判断した理由

- ・区長会他団体の事務局として連携も、改選等があり人材育成には至らない。

項目3. 若者に魅力ある地域、子育てしやすい地域づくりに取り組みましたか？

★取組の具体的事例

- 雇用の場の創出・農業環境の改善や就農者への支援
- 小学校と連携したコミュニティ活動の推進
- 子ども達の郷土愛を育む教育活動の実践
- 育児サークルや見守り隊等地域で子育てをする環境づくり
- コミュニティビジネスの取組に向けた検討
- 地域外から人材を呼び込むための検討



若者に魅力ある地域、子育てしやすい地域づくりについては、全地区「実施し、効果があった」と回答している。

手向地区では環境を活かしたほたる祭り、泉地区では料理教室や収穫体験を通し食育を学ぶ事業の企画、広瀬地区では広瀬小学校と協働の企画を実施している。

どの地区も羽黒第四地区同様、親子事業にしている狙いとして、地域の特徴や環境を活かした教育活動の実践に加え、親子のふれあいを通し、楽しい体験を共有することで、より一層親子関係を深めるとともに、事業参加率の向上も図っている。

《自由記述から一部抜粋》

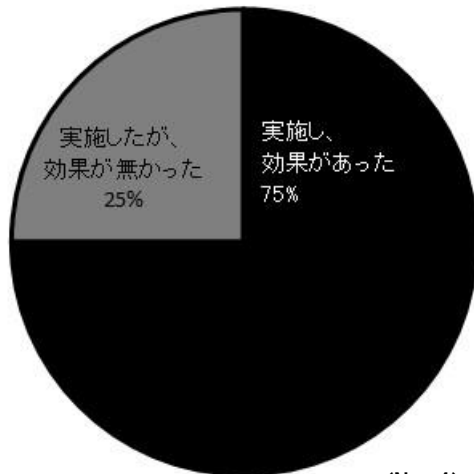
「実施し、効果があった」 ⇒ 自慢できる取組や効果の有無を判断した理由

- ・昨年3月手向春祭りや、毎年7月にほたる祭りなどを開催して多くの子供と親に参加してもらっている。
- ・グリーンツーリズム「親子体験学習」の実施、地元食材を使つての料理教室・収穫体験を実施。食改・管理栄養士の協力を得、子供たちに食の大切さを教えている。
- ・広瀬小との協働事業や親子教室などの取組を実施しているが、若者向け事業は企画していない。
- ・子供達が参加する事業には、保護者が参加できるようにいつも紐づけを意識している。参加率に効果は現れていると思う。

項目4. 防災拠点としての自主防災活動の推進を図りましたか？

★取組の具体的事例

- 情報伝達、情報収集方法の検討
- 避難訓練や防災研修等の実施
- 単位自治組織の自主防災会への働きかけや支援



防災拠点施設としての自主防災活動の推進について、全地区、毎年防災拠点施設として施設内の防災資機材・環境等の点検のほか、単位自治組織の自主防災会へ働きかけを行い各自治振興会を中心とした防災訓練を実施している。

手向・泉・広瀬地区は、「実施し、効果があった」と回答している。

一方「実施し、効果がなかった」と回答している羽黒第四地区は、令和元年度羽黒地域の防災訓練を実施した反省として、地域の沿った災害想定と訓練内容とすべきだったとしている。

「実施し、効果があった」 ⇒自慢できる取組や効果の有無を判断した理由

- ・毎年防災訓練を行い防災資機材の補充もしている。
- ・地区を5ブロックに分けて、毎年ブロック毎ローテーションし防災訓練を実施している。消防署・婦人会より協力をいただき、応急手当訓練・炊き出し訓練などを行っている。
- ・地区防災訓練、施設内消防訓練、環境点検を実施している。

「実施したが、効果がなかった」 ⇒自慢できる取組や効果の有無を判断した理由

- ・羽黒地域防災訓練を行ったが、もう少しこの地域に沿った内容で進めることができればと思った。地域の方の防災意識の向上に一役かえたと思う。

項目5. 福祉・防犯体制の推進を図りましたか？

★取組の具体的事例

○高齢者や要支援者の見守り支援体制の構築

○防犯体制の見直しと強化



(N=4)

福祉・防犯体制の推進について、全地区「実施し、効果があった」と回答している。

手向・泉地区においては、年間通して複数回「百歳体操」を実施し、高齢者の健康促進と交流を図っている。

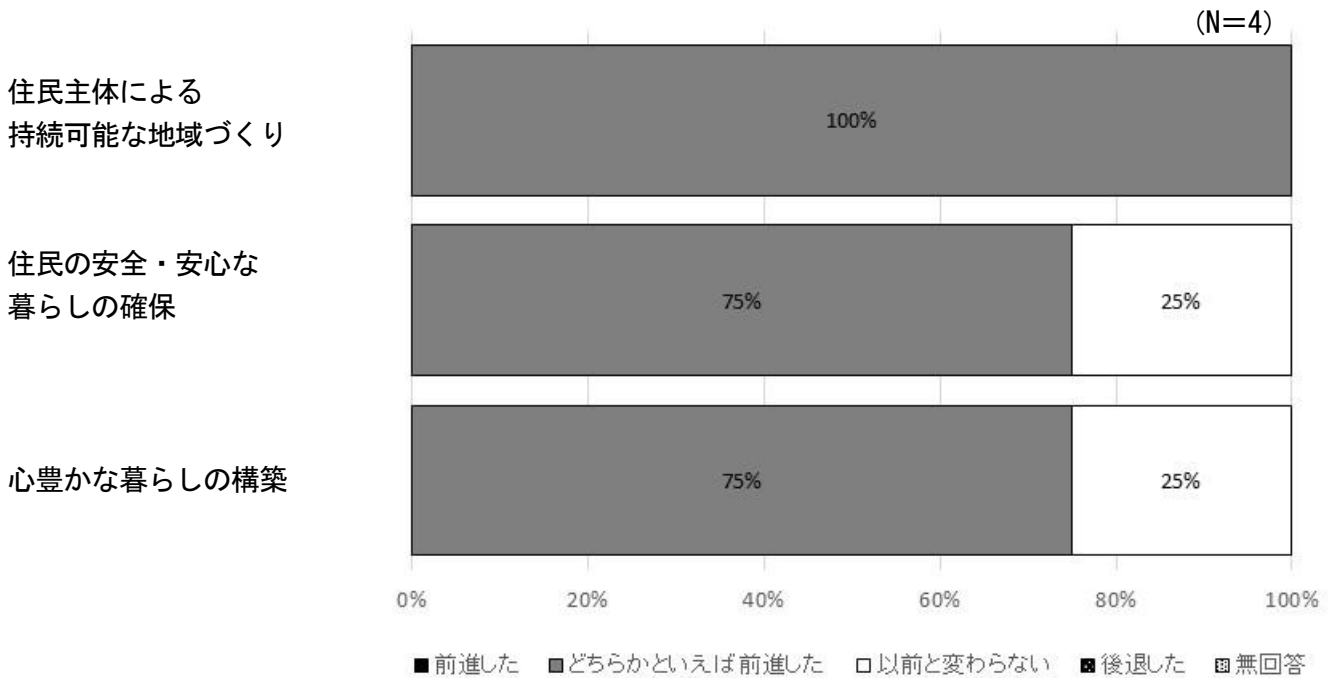
また、広瀬地区においては、福祉関連団体との連携を図りながら共催福祉事業を行っている。

羽黒第四地区は、継続事業を展開することにより、高齢者の見守りや生きがいがづくりの場を提供できていると回答しており、どの地区も共通して高齢者や要支援者の見守り支援体制が最も重要視されていることが伺える。

「実施し、効果があった」 ⇒自慢できる取組や効果の有無を判断した理由

- ・百歳体操を5月から2月まで開催し、延べ1,400人が参加し健康促進・交流を図った。
- ・高齢者げんき塾の講演「薬と上手に付き合おう」薬剤師より誤飲・副作用についての話、勉強になった。また百歳体操の継続、防犯研修会の実施（講話 羽黒駐在所）
- ・福祉関連団体と共催福祉事業、防災体制の強化、点検
- ・継続事業を展開することにより、高齢者の見守り生きがいがづくりの場を提供できている

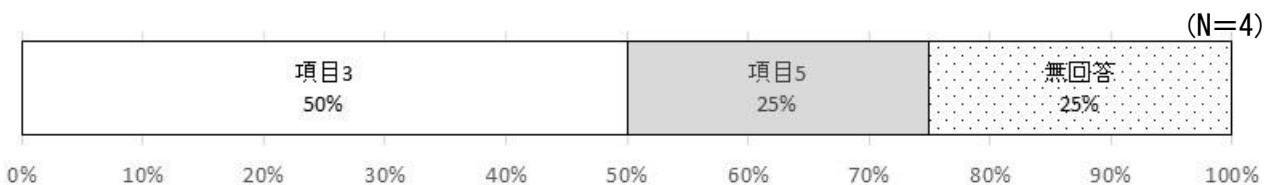
全般1. 地域コミュニティの目指す5年後の方向性について、計画策定時（平成27年度）と比べてどのように変化しているか教えてください



最初に住民主体による持続可能な地域づくりについては、全地区「どちらかといえば前進した」と回答している。

次に、住民の安全・安心な暮らしの確保と心豊かな暮らしの構築について、唯一「以前と変わらない」と回答した手向地区は、地域ビジョン策定に向けたワークショップで課題が整理され、今後本ビジョン及び行動計画に基づきながらビジョン実現に向け積極的に取り組むことから、今後変化を感じるものと推察する。

全般2. 項目1～5のうち、貴町内会が特に力を入れて取り組んだ項目を教えてください

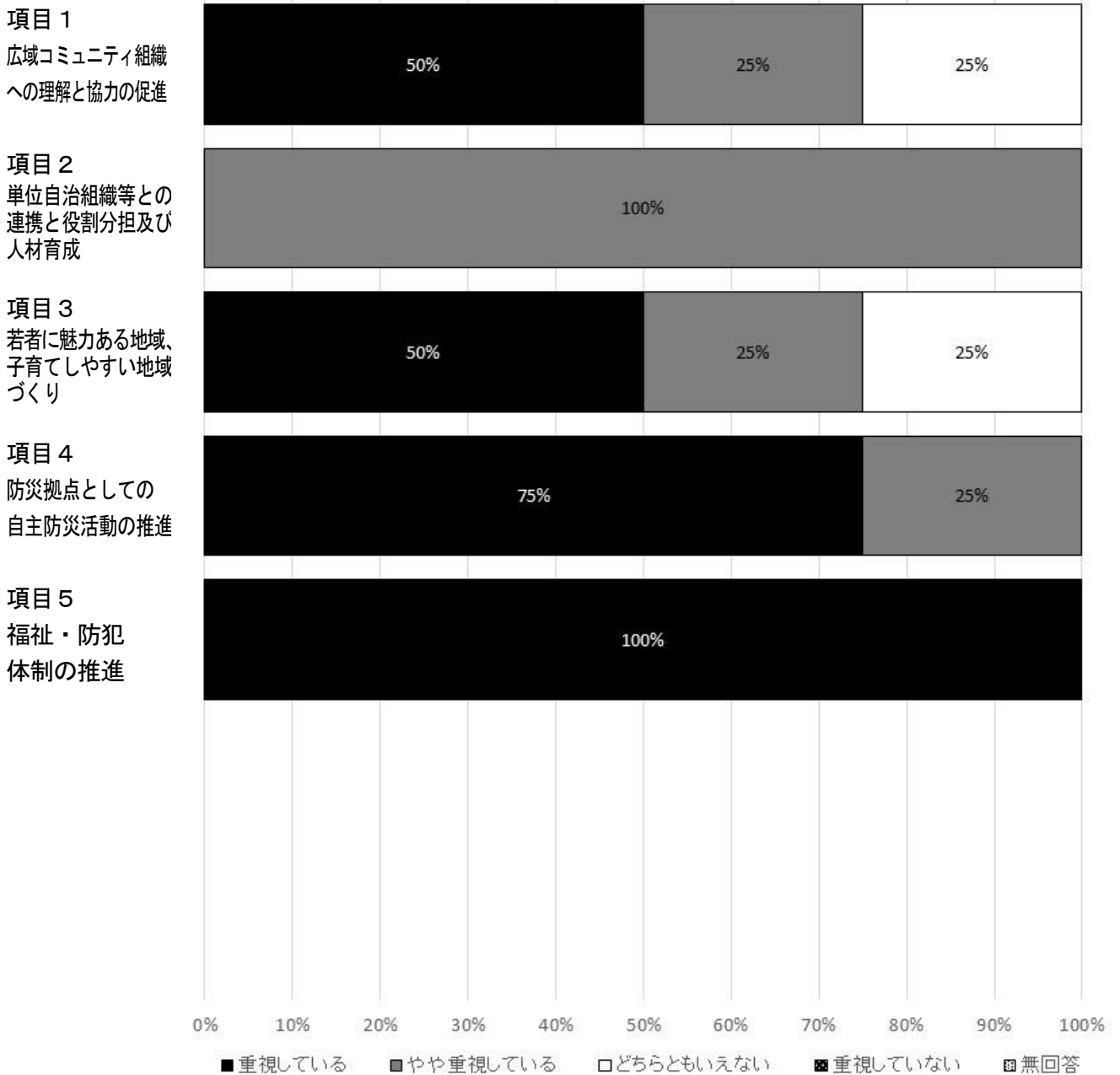


手向・泉地区は、項目3『若者に魅力ある地域、子育てしやすい地域づくり』を選択している。特に手向地区は、定住人口の急激な減少、少子化対策が懸案となっていることから、地区を良くするために自ら取り組まなければならないという意識の表れとも考えられる。

羽黒第四地区は、項目5『福祉・防犯体制の推進』を選択している。山岳地で集落が点在しているため、日中若い人の多くは勤務先が市街地のため高齢者のみの世帯が多いことから、高齢者の見守りや生きがいがづくりの場の提供、防犯の強化が特に求められていると推察する。

全般3. 現在、項目1～5の取組をどの程度重視しているか教えてください

(N=4)



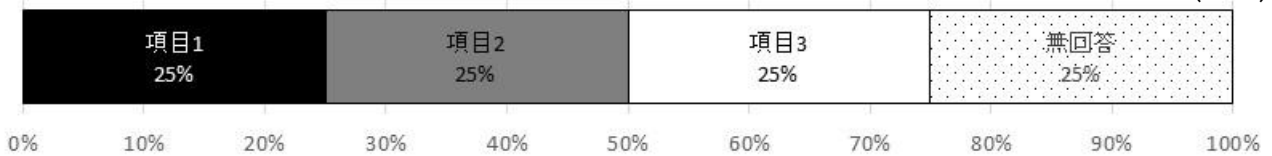
全ての地域が重視している項目は、項目5『福祉・防犯体制の推進』である。これからの高齢化社会を見据えて、単位自治組織で担えない部分を広域コミュニティ組織が補完する必要性を感じていることが伺える。

次に重視度が高いのは、項目4『防災拠点としての自主防災活動の推進』。昨年度の山形県沖地震の経験や大雨による災害の多発が要因し、災害に対する備えが大事とする考え方から地域の防災力の向上の必要性を感じている現れとも考えられる。

全ての地域がやや重視していると回答した項目2『単位自治組織との連携と役割分担及び人材育成』については、喫緊の課題とまではいかなくとも今後も継続すべき課題と考えていると捉える。

全般4. 項目1～5のうち、今後力を入れていきたい項目を教えてください

(N=4)



項目1『広域コミュニティ組織への理解と協力の促進』と回答した泉地区は、地域ビジョン策定への意気込みが伝わる。

項目2『単位自治組織等との連携と役割分担及び人材育成』と回答した羽黒第四地区は、リニューアルされた活動センターを最大限に活用し、事業企画や体制整備に意欲的に取り組むことが期待される。

項目3『若者に魅力ある地域、子育てしやすい地域づくり』と回答した手向地区は、若者の定住や人口流出の歯止め、少子化対策を図るため、蝦夷館公園を利用したイベントを企画したいと意欲的。

全般5. その他、地域コミュニティに関してご意見がございましたらご記入ください

《自由記述から一部抜粋》

特になし。

問1. 貴町内会等のコミュニティ活動の良いところ（特徴、魅力など）はどのようなところだと思いますか。

《自由記述から一部抜粋》

- ・ホテル祭りや羽黒山石段の朝山登山など「地区の特色を生かした活動」や、女性セミナーやにこにこ料理教室・男の料理教室など「性別・年代に合わせた活動」を実施し、幅広く参加をよびかけているところ。
- ・顔が見える関係性の中で、色々な事業を行う際になごやかに開催できるところ。
- ・地域の現状を踏まえ、臨機応変に対応できているところ。
- ・6集落と少ないため何をするにも決断、行動が早く、住民それぞれの顔が見えるため事業の参加率は高い。また、農業以外にも多彩な職種の人々がおり事業に幅が出るところ。

問2. 貴町内会等のコミュニティ活動の足りないところ（課題、問題点など）はどのようなところだと思いますか。

《自由記述から一部抜粋》

- ・少子高齢化がさらに進み小学校も廃校となったことにより、地区運動会が泉地区と合同になり、参加できる人数に制限が設けられたところ。
- ・世代毎の事業はそれぞれ企画・開催されているが、世代間交流や多世代が一堂に集まる事業が少ないところ。
- ・次代の地域ニーズが把握しづらくなっているところ。
- ・昭和40年4月学区再編により、泉地区の一部と広瀬地区の一部を学区とする第四地区発足、50年以上経過したにも関わらず各団体は泉・広瀬のままで防災体制を築く際にネックになっている。強固な組織を築くことが難しいところ。

問3. 項目1～5のうち、今後力を入れていきたい項目を教えてください



項目2『単位自治組織との連携と役割分担及び人材の育成』と選択した泉地区は、若い世代の方々が地元の文化や歴史に触れる機会を作り郷土愛を育て将来的に人材育成につなげたいと回答。項目3『若者に魅力ある地域、子育てしやすい地域づくり』を選択した広瀬地区も、地域の自然や地域の産業・仕事・文化を子供の時期から興味を持ってもらえる様な学習の場と回答している。目的は違っても取組内容は類似している。また、同回答の羽黒第四地区は、地域外へ発信し、魅力ある地域づくりをめざしている。項目4『防災拠点としての自主防災活動の推進』を選択した手向地区は、廃校の跡地利用を災害時のみでなく、住民の交流の場としても広く活用できるよう検討したいと考えている。

《「具体的に考えている事業や取り組んでみたい事業」の自由記述から一部抜粋》

- ・若い世代の方々（子供達を含み）地元の文化や歴史に触れる機会を作り、故郷への愛情を育てる事業や魅力を発信できるしくみ作り
- ・地域の自然や地域の産業・仕事・文化を子供の時期から興味を持ってもらえる様な学習の場
- ・リニューアルした活動センターを最大限に活用し、住民だけでなく地域外の人にも多く利用されることにより地域の存在感を高める活動を行っていきたい。
- ・小学校の跡地利用について市の協力が必要。大規模災害時の避難場所としての利用や住民の交流の場としての利用。子供が安心して遊べるようにグラウンドの整備など

問4. 貴町内会等の住民が安心して、楽しく暮らすために、どのような取組（事業など）が必要だと思いますか。

《自由記述から一部抜粋》

- ・消防団や子供会と協力して自主防災の強化。
- ・地域の中に、いつでも気軽に誰でも立ち寄れる空間や場所があり交流が持てる場所づくり（自由に使えるフリースペースづくり）。
- ・災害時の報道を見る限り地域住民のつながりがとても重要と感じる。現在コロナ禍の状況が続けば地域コミュニティの崩壊が始まると危惧されている。住民をいかに関わらせてゆくかが課題。
- ・災害が少なくとても良い地域ですが、災害が起きた時には孤立することを考え、実際の避難を想定して準備を進める。

問5. その他、地域コミュニティに関してご意見がございましたらご記入ください。

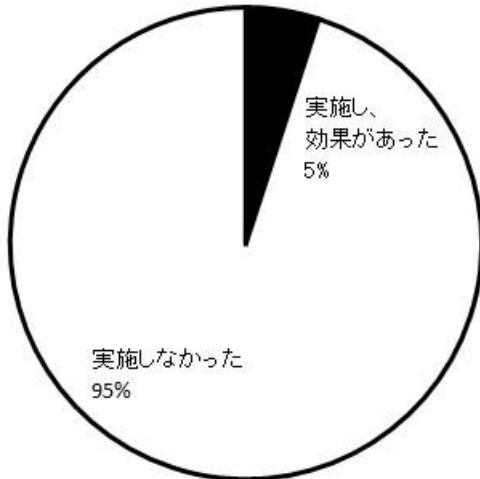
《自由記述から一部抜粋》

- ・コロナ禍後の地域コミュニティ維持・活性化のために、市からの費用的支援を増やして欲しい。
- ・徐々に地域が縮小化していくことは止められない部分もあるが、その中でいかに地域の中で交流を増やし安全に暮らせるような仕組みや仕掛けを作ることが大事だと思う。
- ・自治振興会、区長会、その他団体等、人口減少しているのに団体数は減る傾向になく、それぞれの団体の役職の掛け持ちや慢性的な役職の成り手不足に悩まされる。

項目 1. 広域コミュニティ組織の検討を行いましたか？

★取組の具体的事例

- 広域コミュニティ組織のあり方の検討
- 広域コミュニティ組織に係る研修会の実施
- 単位自治組織の意見集約と区長会、自治公民館連絡協議会等との意見交換会の実施



(N=20)

広域コミュニティ組織の検討について、「実施し、効果があった」(5%)、「実施しなかった」(95%)と9割を超えて、実施していない。

櫛引地域では、地域懇談会で平成29年に当面広域コミュニティを要しないとの結論に至ったことから話し合いが進まなかった状況にあった。

≪自由記述から一部抜粋≫

「実施し、効果があった」 ⇒ 自慢できる取組や効果の有無を判断した理由

- ・ 地区及び公民館役員体制。

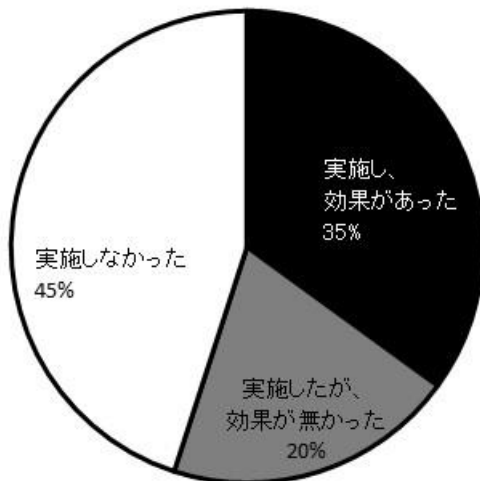
「実施しなかった」 ⇒ その理由や必要であると考えている取組

- ・ 広域コミュニティの組織化の有効性が見出せない。これから組織化した場合でも、10～20年後には機能維持が難しくなるのではないか。
- ・ 各自治会組織のつながりが強く、広域コミュニティ組織尾意識が低い
- ・ 区長会でも検討していない。行政の指導がないと、自治会でも検討がされないのでは
- ・ 櫛引地域としてまとまっており、あえて小学校区に分散する必要なし。
- ・ 推進計画の基本的な考えの一つに、地域特性を活かした住民主体の地域づくりを進める一とあり。にもかかわらず、全地域とも小学校区単位の広域コミュニティ組織にしようとするは、なんとも疑問が…。

項目2. 住民自治組織等の理解促進と事業の見直しに取組みましたか？

★取組の具体的事例

- 住民自治組織等の存在意義や役割等を共有する住民懇談会等の開催
- 一体感を醸成するための世代間交流事業の実践
- 住民自治組織ステップアップ事業補助金等、地域コミュニティの課題解決のための事業の活用
- 住民理解を促す総会資料の工夫や広報の検討
- 事業活動の見直しとともに適正な自治会費の検証
- 若者や女性の参画に向けた住民ニーズの把握



(N=20)

住民自治組織等の理解促進と事業の見直しについて、「実施し、効果があった」(35%)、「実施したが、効果が無かった」(20%)と5割を超え実施しているが、「実施しなかった」(45%)と半数近く実施していない。

≪自由記述から一部抜粋≫

「実施し、効果があった」 ⇒自慢できる取組や効果の有無を判断した理由

- ・しがらみにとらわれず、費用対効果を地区で検証し地域でも高額な地区費の減額が実現
- ・少子高齢化、会費の減額などで事業の見直し、地区の現状を知ってもらった
- ・地区懇談会等を開催し地区民の理解を得る事ができた。今年度より「支え愛福祉会」という組織が設立された
- ・年4号(春夏秋冬)発行の、広報「茶の間」の編集を見直す。広報の使命でもある、知らせる、考えさせる、行動させる一内容に努める。
- ・櫛引庁舎の介護予防推進に呼応し、いち早く毎週金曜日「いきいき百歳体操」に取り組む。また、その事務局は住民の方が担う。

「実施したが、効果が無かった」 ⇒自慢できる取組や効果の有無を判断した理由

- ・少子高齢化の問題等で新しい事業や見直しの検討が難しいのが現況です。
- ・少子高齢化により役員になり手ない

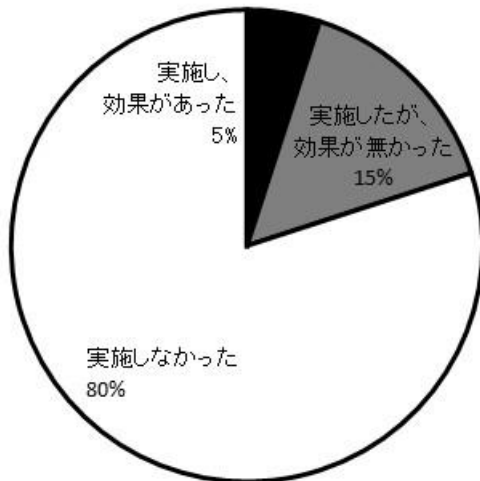
「実施しなかった」 ⇒その理由や必要であると考えている取組

- ・現在の事業で“適”と判断している。
- ・現在行っている事業等は必要最小限のものであると考え、これを維持していくことが役割と思うが、今後世帯数の減少に伴う活動の減少等の検討は必要と思う

項目3. 婚活支援と後継者対策に取り組みましたか？

★取組の具体的事例

- 結婚を後押しする雰囲気づくりと子育てしやすい環境づくり
- つるおか婚シェルジュの周知と連携
- 単位自治組織等が企画立案して取り組む婚活イベントの実践
- 民俗芸能や伝統文化への理解促進と継承活動の支援
- 若者の参画のもと、農業生産組織との連携による農産物販売や環境美化活動等の実施



(N=20)

後継者対策として、「実施し、効果があった」(5%)、「実施したが、効果が無かった」(15%)、「実施しなかった」(80%)となり、地区による取組みではなく行政による取組みを望む声が多い。

≪自由記述から一部抜粋≫

「実施し、効果があった」 ⇒自慢できる取組や効果の有無を判断した理由

- ・イベント当日の協力者を住民から募り、役員と一緒に裏方任務にがんばっていただく。最後は、だれもが達成感に満面の笑顔となる。
- ・地区伝統文化保存会と連携し、天狗舞や獅子舞などの継承に取り組む。

「実施したが、効果が無かった」 ⇒自慢できる取組や効果の有無を判断した理由

- ・継続して後押しできなかった。
- ・地区全体(松根塾活動)で実施。参加者は多かったが結婚まではならない
- ・情報不足がある

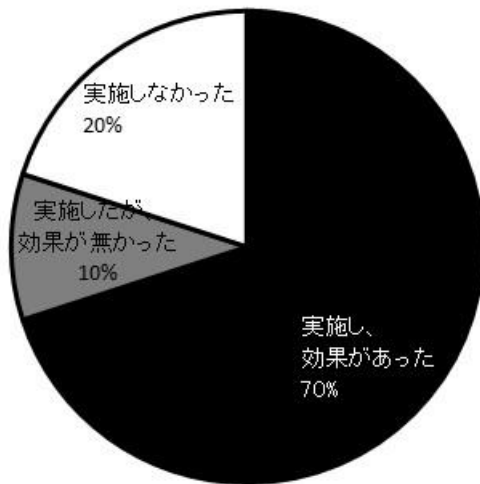
「実施しなかった」 ⇒その理由や必要であると考えている取組

- ・婚活支援は地区単位では難しいと考える。後継者対策については10~20年後について考えていかなければならない
- ・行政や関係組織団体が主になってやるべきと思う。地域としては伝統文化の継承策により地域に対する愛着が育まれた
- ・婚活は各地区の代表者による組織づくり、櫛引地域が1つになり積極的に取り組むべき。それには絶大な協力を惜しまず。

項目 4. 安全・安心な地域の構築に取り組みましたか？

★取組の具体的事例

- 防災意識の高揚を図るための定期的な防災訓練や防災座談会の開催
- 自主防災組織の機能の点検と体制整備
- 消防団活動協力員の加入促進
- 見守り隊の機能の点検と体制整備
- 支援が必要な人と支援ができる人の情報収集とボランティア体制の確立



(N=20)

安全・安心な地域の構築について、「実施し、効果があった」(70%)、「実施したが、効果が無かった」(10%)と8割が取組んでいる。一方「実施しなかった」(20%)との回答があったが、児童の見守り隊は継続して行われている。

《自由記述から一部抜粋》

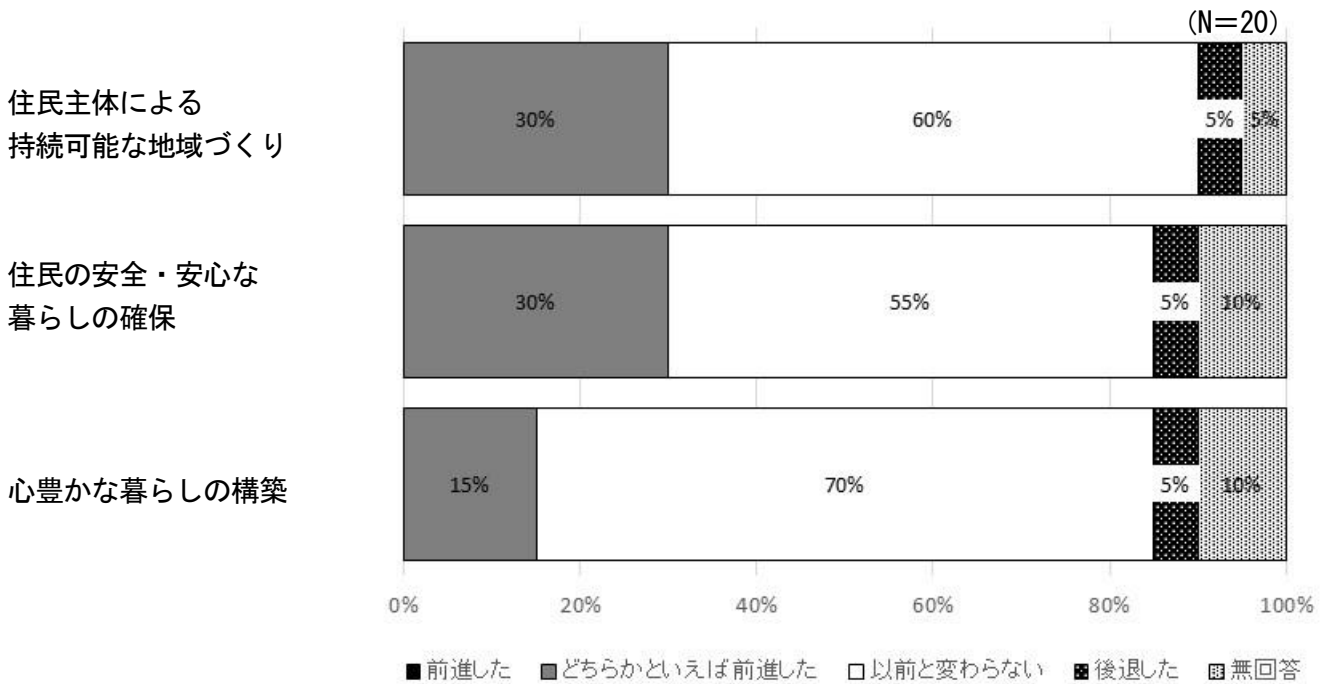
「実施し、効果があった」 ⇒自慢できる取組や効果の有無を判断した理由

- ・児童の見守りは一般隊員も含め行っている。自主防災についても年1回、体制の見直しなどを行っている
- ・「地区の安全は住民で守る」という共助精神のもと、見守り隊員増加運動に取り組み、隊員数が予想を上回る倍増となる。同時に、体制の見直しも行いそれ以後、隊員減少に悩むことなし。
- ・支援者の「会」を立ち上げた。
- ・駐在所（警察）の講演会や避難訓練など実施した

「実施したが、効果が無かった」 ⇒自慢できる取組や効果の有無を判断した理由

- ・自主防災組織の体制の見直しを3年前に行ったが、その後定期的な活動等はしていない。消防団についても定員割れをしている状態が続いている為、地区での検討が必要と思う
- ・防災用品の点検等行っているが、災害発生の少ない地域なのか、あまり関心がないように見える。

全般1. 地域コミュニティの目指す5年後の方向性について、計画策定時（平成27年度）と比べてどのように変化していると感じているか教えてください

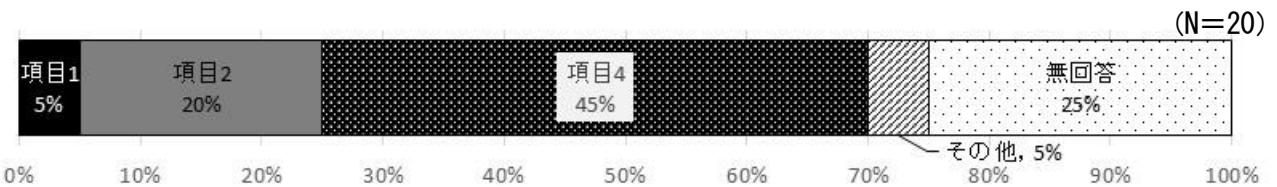


住民主体による持続可能な地域づくりは、「前進した」との回答はなく、「どちらかといえば前進した」(30%)、「以前と変わらない」(60%)、「後退した」(5%)となった。

住民の安全・安心な暮らしの確保は、「どちらかといえば前進した」(30%)、「以前と変わらない」(55%)となり、「後退した」(5%)となり、「前進した」との回答はなかった。

心豊かな暮らしの構築は、「どちらかといえば前進した」(15%)、「以前と変わらない」(70%)、「後退した」(5%)となり、「前進した」との回答はなかった。

全般2. 項目1～4のうち、貴町内会が特に力を入れて取り組んだ項目を教えてください



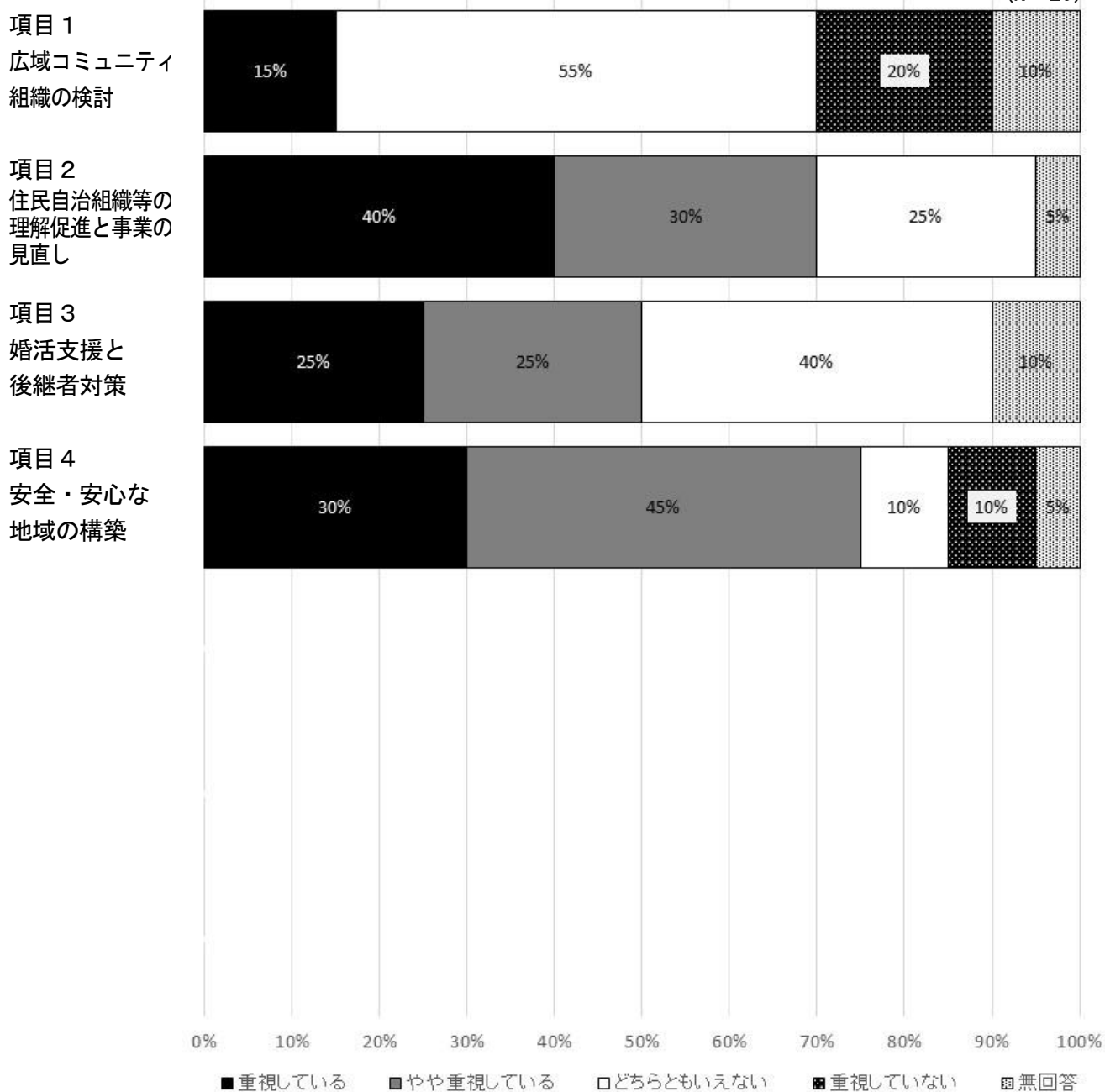
特に力を入れて取り組んだ項目について、「項目4」(45%)、「項目2」(20%)、「項目1」(5%)の順となり、「項目3」と回答した地区はなかった。

《「その他」自由記述から一部抜粋》

- ・地区で婚活イベントを取り組みたい

全般3. 現在、項目1～4の取組をどの程度重視しているか教えてください

(N=20)



項目1は、「重視している」(15%)、「やや重視している」(0%)、「どちらともいえない」(55%)、「重視していない」(20%)となった。

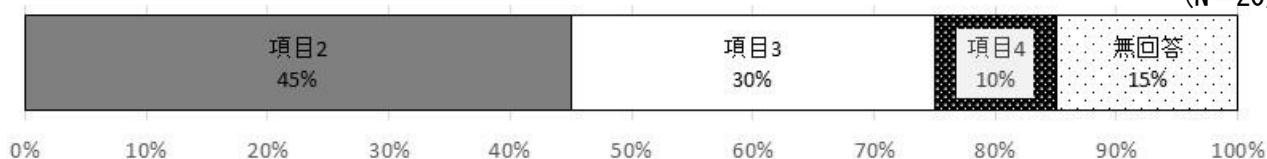
項目2は、「重視している」(40%)、「やや重視している」(30%)、「どちらともいえない」(25%)、「重視していない」(0%)となった。

項目3は、「重視している」(25%)、「やや重視している」(25%)、「どちらともいえない」(40%)、「重視していない」(10%)となった。

項目4は、「重視している」(30%)、「やや重視している」(45%)、「どちらともいえない」(10%)、「重視していない」(10%)となった。

全般4. 項目1～4のうち、今後力を入れていきたい項目を教えてください

(N=20)



今後力を入れていきたい項目は、「項目2」(45%)、「項目3」(30%)、「項目4」(10%)の順となり、「項目1」と回答した地区はなかった。

全般5. その他、地域コミュニティに関してご意見がございましたらご記入ください

《自由記述から一部抜粋》

- ・新型コロナウイルスによる「新しい生活様式」をすることにより、地区コミュニティの考え方も変わるのではないか。必ずしも広域コミュニティ組織にする事が良いとは思えない
- ・広域化は地区の崩壊につながります
- ・婚活支援はもっとゴールまで結びつくような内容企画にすべきと思う (EX 対象者の年齢構成とか)。後継者対策は、地元で優良企業の誘致も必要だが、それ以上に若者が地元で夢を実現できるような、学校や研修施設を設けるべきと思う (EX 農業分野で現在ある SEADS のような物含む) 又はカルチャースクールのような物の誘致。優良企業の誘致と学校や研修施設の誘致は車の両輪となって効果がでると思われる
- ・広域コミュニティにするべきと考える。

問1. 貴町内会等のコミュニティ活動の良いところ（特徴、魅力など）はどのようなところだと思いますか。

《自由記述から一部抜粋》

- ・天狗舞、獅子舞、やっこ振りの伝統文化の継承に加えて、地区レクリエーション大会、夏祭と地区住民の交流がまだ盛んに行われていて活発な交流がある点
- ・役員を中心に、自治会の活動について、ほぼ全世帯で参加してくれる総会の出席率は高い
- ・地区全体の人口は減少しているが、近年子供の人数は増加傾向であり、各種コミュニティ事業の活性化に良い影響を与えている。
- ・年代ごとに各組織がきちんと設けられている所。
- ・自治会活動において、幅広い年齢層の方々に参加しておりますが、特に40代が積極的であり、後継者として大変期待しております。
- ・歴史と伝統を重視した自治会活動
- ・黒川能を通して、子供から老人まで、役者以外でも関りを持てる所。
- ・春日神社のお膝元と言う地域で歴史もあり地区活動に対しては、力を合わせ、地域を守っていく意識は高い地区だと思います。黒川能がバックグラウンドにあり世代の継承はうまくいっているような気がします。また先輩を尊重し協力していく地域だと思います。
- ・黒川能のある地区で、地域活動にはとても協力的である。
- ・黒川下区は4つの集落からなっていて、それぞれの集落から年順に1名出て黒川下区の役員になっているので、この内容がすぐに下に伝わるし、問題点などもすぐに区長まで上げることが出来る。
- ・集会等の参加率が高い
- ・住みやすい
- ・桜並木の保全（馬渡川の清掃）

問2. 貴町内会等のコミュニティ活動の足りないところ（課題、問題点など）はどのようなところだと思いますか。

《自由記述から一部抜粋》

- ・コミュニティ活動参加者の固定化、高齢化、今後の活動の見通しが厳しいこと
- ・地区内住民の子供から、高齢者まで参加する事業が少ない
- ・各種イベント、行事等の参加者が減少傾向であり、参加率向上に向けた対応策が課題である。
- ・若い世代の人材が不足している所。
- ・自治会組織が大きいがために人任せの場面が時々見受けられる。
- ・就労形態が多様化する中で同世代間交流が少ない、限られる（消防団、地区行事等）。特に若い世代は地域活動には関心がうすく、自治会活動人数は限定的。地区における次世代リーダーの育成や住民ニーズのすくい上げ/共有方法も課題である。
- ・プライベート重視社会から、自分が良ければ良いとか、地域の役員はなりたくないなど組織図りに苦しむ。
- ・世帯数が少ない上、やはり、少子高齢化は現実的に厳しい状況は目の前にあります。また、専業農家は少なくほぼ会社員として他所に日中は仕事にいきます。よって高齢者が地域を守っている状況、防犯の面でも地域環境も守っていく事でもその人達に依存してしまう事があります。土曜日、日曜日ですら、地区行事、環境保全等の作業もままならなくなっています。
- ・役員へのなり手が少ない
- ・各部門の横のつながりが無い。役員に頼りすぎている。
- ・いろんな活度をする時、役員メンバーがほとんど同じ。
- ・協調性が不足してきている。

問3. 項目1～4のうち、今後力を入れていきたい項目を教えてください



今後力を入れていきたい項目は、「項目2」（42%）、「項目3」（26%）、「項目4」（26%）となり、「項目1」と回答した地区はなかった

≪「具体的に考えている事業や取り組んでみたい事業」の自由記述から一部抜粋≫

項目2（住民自治組織等の理解促進と事業の見直し）

- ・世帯数の減少による、事業の見直し等、今後、考える必要があるのではないかな。
- ・地域活性化に向け、高齢者組織と子供会等組織間交流イベントの開催。
- ・地域活性化を目的に世代間交流事業の充実を図る。
- ・SNS等を活用した情報の相互発信（従来と違う情報発信/地域内コミュニケーション）。従来の紙媒体や口頭による情報発信・伝達は一方的になりがちで情報を受け取る側の都合は考えられていない。特に日中家にいない学生や就労世代は地域が発信する情報を受け取りづらい環境でもある。いつでも住民が情報を取りに行ける環境も必要ではないかと考える。
- ・この地区に於いて新規事業を展開する力は、リーダーシップを取れる若い人材がまだ育っていない（私も含め）のが現状だと思います。しかしながら、現在取り組んでいる事業である環境保全の道路沿いのマドリの植栽（あやめ）の継続、神社前の鯉の放流、王祇会館の環境保全、5月の鯉のぼりの設置等はこれからも続けていく事はみんな共有していると思います。
- ・住民の存在意義や役割等を共有する会合と必要である。総会で出た役員の決め方、会費の検証は必ずやってほしい。

項目3（婚活支援と後継者対策）

- ・伝統文化の継承の維持

項目4（安全・安心な地域の構築）

- ・地域での運動会
- ・安全な道路、道の広さ、急な坂道など冬場の凍結、地域柄アップダウンの道が多い

問4. 貴町内会等の住民が安心して、楽しく暮らすために、どのような取組（事業など）が必要だと思いますか。

《自由記述から一部抜粋》

- ・ 地区民が気軽に参加交流できるイベントなど
- ・ 個々の負担が少なく、地区内の住民が参加できる事業を行う
- ・ 一人暮らしの高齢者世帯や高齢者のみの世帯が増加しており、安全・安心な暮らしの実現に向け、今年度新たに「支え愛福祉会」を設置。
- ・ 近年の自然災害による、自主防災意識を高める取組。
- ・ 組織の基本である隣組の「お互い様の意識」を高める。
- ・ 地区行事含む事業内容の見直し。他地区の活動を参考にできる機会/交流（参考にできるところは取り入れる）
- ・ 見守隊の人員確保
- ・ 声かけ、呼びかけはしているが限界がある。少しずつ直してほしい。
- ・ 災害に関しては、ここ数年、秋の地区行事の際に防災訓練を独自で消防職員さんを講師に頼んで実施し防災機材等を点検し、昼食に炊き出しをしてみんなの意識を高めていると思います。防犯に関しては、黒川能を鑑賞するため、内外から多くの人を訪れる為、緊張感をもって黒川駐在の富樫さんと地区防犯委員と連携し地区住民への啓発活動を充実させたいと思っています。
- ・ 高齢世帯への援助
- ・ 地域住民の責任感と自覚を促す会合
- ・ 助け合い人口減少への取り組み。

問5. その他、地域コミュニティに関してご意見がございましたらご記入ください。

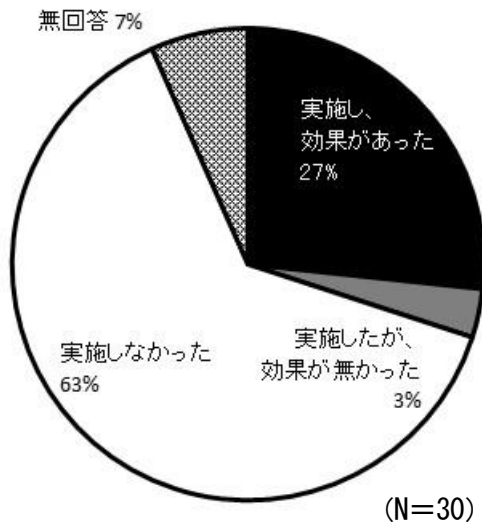
《自由記述から一部抜粋》

- ・ 広域コミュニティ組織の検討をお願いします
- ・ 10年～20年後について考えると必ずしも「広域コミュニティ組織」が良いとは思えない。現在の組織を維持するために、何をすべきと考える必要があるのではないかな。
- ・ 当地区は未婚者が多く、将来的に世帯数の大幅な減少が懸念される。参加しやすいような年代別婚活イベントの開催等、結婚支援に更に力を入れていただきたい。
- ・ 使用目的を限定しない補助金の増額。行政依存ではなく、地区単位で特色のある運営に役立てられる資金
- ・ 問2で記述したことと関係しますが当地区も10年後の未来を想像したとすると、もはや人ごとではなく今の体制を維持していく限界が近づく状況が見えてきます。地区を担う世代のバランスが崩れてしまい、まだ若く現役会社員人が地区の4役である区長、副区長、公民館館長、主事が50代で担当しなければならない状況になるかもしれないことが考えられます。これは相当負担のかかかることになり誰も引き受けてくれなくなるようになってしまいます。そこで、広域コミュニティへの考え方に変わるのだと思います。私は現在62歳です。現役会社員です。実際自分も現状では地区の仕事の負担は重いと感じています。そこで大きな枠の中にまとまれば、バランスの取れた役員選考が考えられ地区費等負担金の軽減や充実し他行事の取り組みのメリットがあるのだと思います。しかしながら当地区に於いては、春日の社 黒川能との歴史的な関りをしてきた地区として、昔の部落意識が強固なもので、そう簡単にそれを受け入れる気持ちにはなれないのです。（自分をふくめて）先輩方が苦勞して守り続けてきたことを考えればなんとか私の下の世代にも守り続けてもらいたいのも本音です。そこでお願いします。将来間違いなく広域コミュニティへの移行は避けられないのだと思いますが、行政も小さなものを大きな枠の中へまとめれば全てが解決するという考え方ではなく、一つの小さなそれぞれの事情と個性を持っている地区の集まりだという意識をもって100年先を創造できる行政の有り方を希望したいと思います。近い将来折り合いを見つけてより良い地域コミュニティ、地域行政が来ることを願っています。

項目 1. 単位自治組織の組織強化と活性化に取り組みましたか？

★取組の具体的事例

- 女性の登用や研修等によるリーダーの育成
- 広域コミュニティ組織と連携・協力による役員職務の負担軽減
- 各世代の住民が一堂に参加できる活動により、単位自治組織を身近に感じてもらえるような取組の実践



単位自治組織の組織強化と活性化に取り組み状況について、「実施し効果があった」（27%）、「実施したが、効果がなかった」（3%）と実施は3割にとどまっている。一方、「実施しなかった」（63%）で、6割を超えている。

《自由記述から一部抜粋》

「実施し、効果があった」 ⇒ 自慢できる取組や効果の有無を判断した理由

- ・以前、役員は男性だけだったが、女性にも役員になってもらうことで、事業等への参加が増えた。
- ・地区運動会後の交流会に、各家庭より多数の参加があり、子どもから高齢者までの世代間の交流が出来る。
- ・世代を超えた「昔を語る会」を開催し、集落の歴史、文化の理解と自治意識の高揚が図られた。
- ・河川愛護デーやその他の事業や行事を利用して、世代間の交流が図られた。

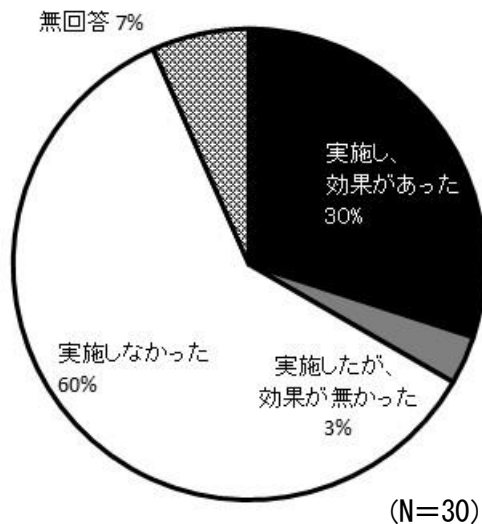
「実施しなかった」 ⇒ その理由や必要であると考えている取組

- ・高齢者が多く、次世代の職務の担い手がいない。
- ・労力的・金銭的負担軽減のため活性化には消極的である。
- ・現体制で問題がなかったため。
- ・どうしたらよいかよくわからなかった。

項目 2. 住民による持続可能で魅力的な事業づくりに取組みましたか？

★取組の具体的事例

- 伝統的な行事の復活等により、子ども達の郷土愛を育む地域教育活動の実践
- 変更可能なしきたりについて持続可能な形態への改善と、若い世代がしきたりを考え理解するための場づくり
- 生涯学習活動において、広域コミュニティ組織と連携した事業



住民による持続可能で魅力的な事業づくりの取組み状況について、「実施し、効果があった」（30%）、「実施したが、効果がなかった」（3%）と実施したは、3割であった。

一方、「実施しなかった」（60%）で、6割が実施しなかったと振り返っている。

《自由記述から一部抜粋》

「実施し、効果があった」 ⇒自慢できる取組や効果の有無を判断した理由

- ・キノコ栽培により、収入確保や生きがいを見つけた。
- ・夏祭りを長年実施し、コミュニティを高めている。
- ・湯の沢岳山開き、花いっぱい運動、子ども神輿、伝統行事「せどせど」、鯉幟などは、地域づくりに貢献している。
- ・神社の神楽保存会の活動をとおし、若い世代との交流を行っている。
- ・公民館の清掃に関して、従来からあった特定の会員による清掃分担を改め、自治会全員によるシフト制にした。

「実施したが、効果がなかった」 ⇒自慢できる取組や効果の有無を判断した理由

- ・神楽の世代交代が若者の不足でうまくいかず、実質廃止の状態である。

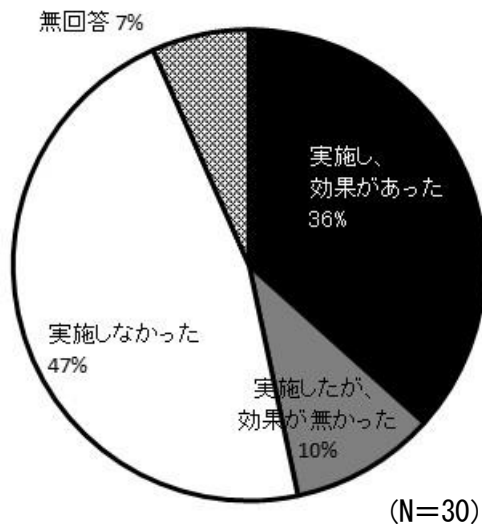
「実施しなかった」 ⇒その理由や必要であると考えている取組

- ・呼びかけても集まらなかった。
- ・伝統的なものは既になくなっている。
- ・大鳥地域は、超高齢者世帯であるが、他地域からの移住者が多いため、コミュニケーションに力を入れている。
- ・現在でも多く事業があり、それぞれで各団体と連携し活動している。
- ・地域住民からの要望がないため。

項目 3. 安全安心な地域づくりのための組織づくりに取り組みましたか？

★取組の具体的事例

- 広域コミュニティ組織と連携した防災活動の取組
- 社会福祉協議会等、他の団体と協力による見守り活動や情報共有の実践
- 単位自治組織内の消防団 OB の調査・把握と消防団活動協力員への参加促進



安全安心な地域づくりのための組織づくりの取組状況について、「実施し、効果があった」（36%）、「実施したが、効果がなかった」（10%）と5割近くが実施している。

一方、「実施しなかった」（47%）で、「実施した」と、「実施しなかった」が半々となっている。

≪自由記述から一部抜粋≫

「実施し、効果があった」 ⇒自慢できる取組や効果の有無を判断した理由

- ・自主防災会を中心に、春と秋に巡回や消火栓の訓練を行っている。
- ・毎年の防災訓練、「県沖地震に学ぶ」とした研修会、若い消防団員による防火水槽の泥上げ活動は、防災会の組織強化となった。
- ・若者が日中地元には1人もいないため、予備消防の人数が増えた。
- ・広報配布、回覧物の回覧等において、高齢者一人暮らし世帯には、役員が直接配布し、状態を把握している。
- ・自主防災訓練、消防団予備査察などを実施し、意識向上へとつながった。

「実施したが、効果がなかった」 ⇒自慢できる取組や効果の有無を判断した理由

- ・コミセン主催の防災事業があったが、声をかけても参加希望者が少なかった。
- ・横断歩道の整備計画を実施したが、実現しなかった。

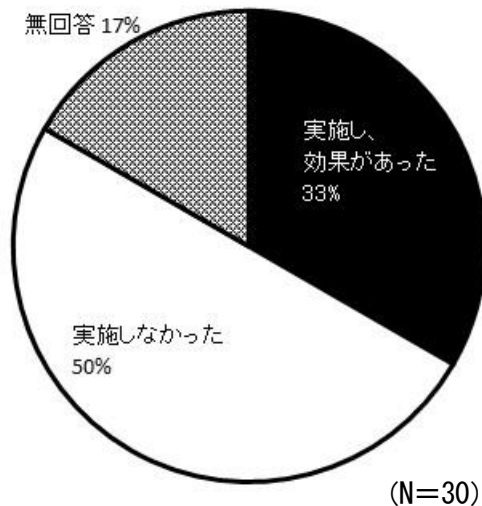
「実施しなかった」 ⇒その理由や必要であると考えている取組

- ・自主防災組織はあるが、現在機能していない。単位自治組織のみでは難しくなっていると思う。
- ・自主防災組織はあるが、活動はほとんどしていない。意識向上のための研修会参加等の取組が必要である。
- ・高齢者一人暮らし世帯の更なる高齢化における取組を検討する必要がある。
- ・ハザードマップの土砂災害警戒地域になっているので、有事を想定した訓練が出来ればと思います。

項目 4. 単位自治組織の財産管理や環境整備作業の見直しを行いましたか？

★取組の具体的事例

- 財産管理に伴う維持費や改築に係る費用等について朝日地域に不動産を残したまま転出した転出者等への協力要請
- 他組織との共同による作業分担の検討
- 長期的な財産修繕計画の策定



単位自治組織の財産管理や環境整備作業の見直しについて、「実施し、効果があった」（33%）、「実施したが、効果がなかった」（0%）と約3割が見直しを実施した。

一方、「実施しなかった」（50%）と5割は、実施していないと振り返っているが、「現状維持で作業が出来ている。」「共同作業等の活動は、年々減少させています。」という回答が、「実施した」ととるか、「実施していない」ととるか、受け止め方が、人によって違ってしまっているようである。

《自由記述から一部抜粋》

「実施し、効果があった」 ⇒ 自慢できる取組や効果の有無を判断した理由

- ・積み立てで基金を作り、計画的に修理や修繕を行っている。
- ・集落の積立金を切り崩し、各家庭からの負担を軽減している。
- ・今までどおりで、現状維持が出来ている。
- ・管理できない私有地を通る水路の管理を共同で行いました。ただ、今後更に共同作業負担増が予想されます。
- ・公民館付属のグラウンド整備（特に除草作業）を生産組合員の協力のもと、除草剤散布により、役員の負担軽減を図った。従来は、役員が除草作業を行ってきた。

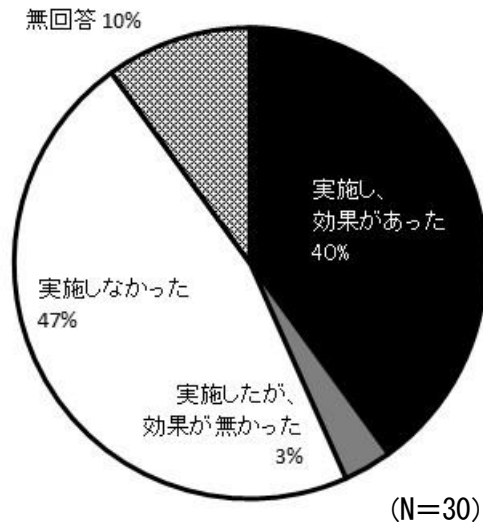
「実施しなかった」 ⇒ その理由や必要であると考えている取組

- ・今後の修繕のための積み立てを行っているので、特に見直しはしなかった。
- ・財産管理については、これからの課題と考えている。共同作業については、影響が出始めている。
- ・共同作業等の活動は、年々減少させています。

項目5. 希薄化した連帯感の再構築に取り組みましたか？

★取組の具体的事例

- 若い世代が参加しやすい事業の仕組みづくり
- 一体感を醸成するための世代間交流事業の実践
- 子ども会育成会との共催事業の開催



希薄化した連帯感の再構築の取組状況について、「実施し、効果があった」（40%）、「実施したが、効果がなかった」（3%）と約4割が実施している。

一方、「実施しなかった」（47%）は、5割となっている。

《自由記述から一部抜粋》

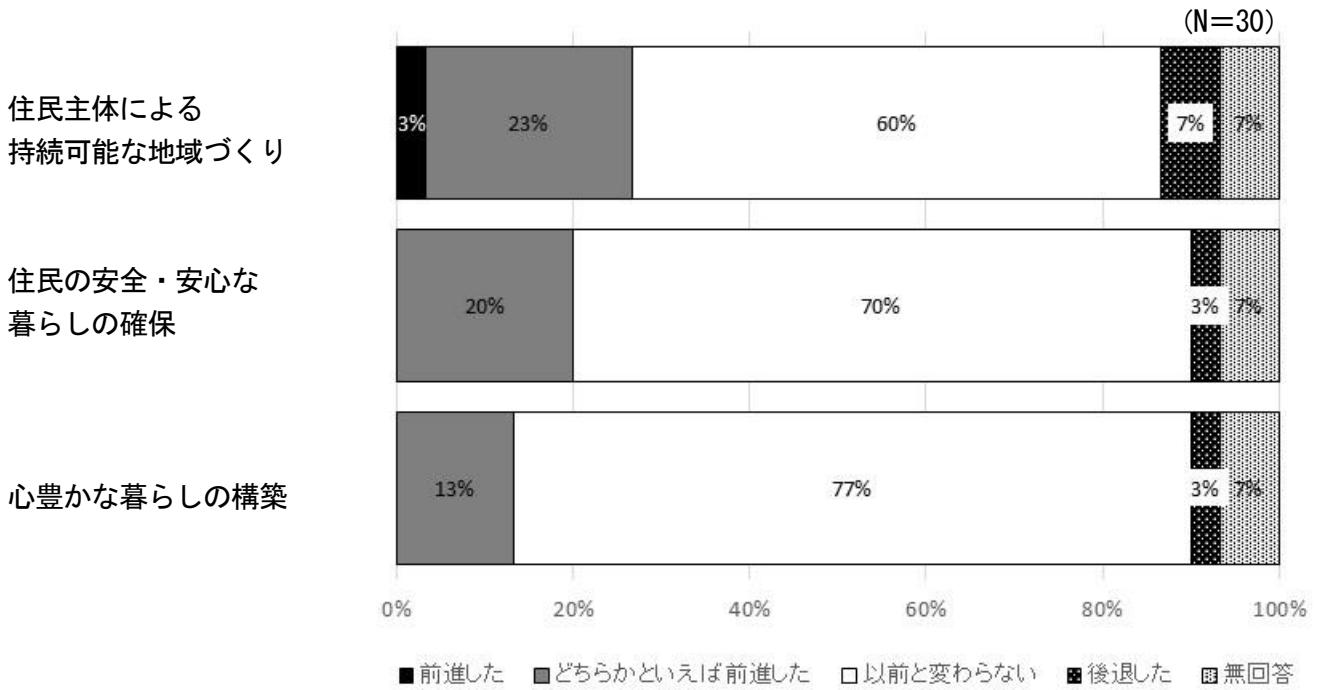
「実施し、効果があった」 ⇒ 自慢できる取組や効果の有無を判断した理由

- ・自治会主催の年賀の会、昔語りの会、村念仏など交流を深める場を作るという意味で効果があった。今後の課題として、1軒1人ではなく、複数の参加を求めている。
- ・地区運動会において、全世帯から選手を出し、地域内での連帯感の醸成につながった。
- ・月1回のペースで集会を開催しており、飲みながらの親睦を深めている。
- ・育成会との世代間交流事業を実施している。

「実施しなかった」 ⇒ その理由や必要であると考えている取組

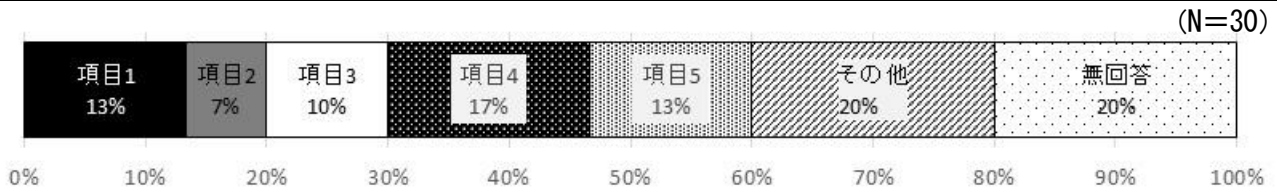
- ・コロナのため、特に全体では行っていないが、移住者との連帯感を個別に作っている。
- ・そもそも若手が自治会等へ参加することはほとんどない。自治会活動を知らない。
- ・年代層のグループ活動はあるが、連携はない。
- ・そもそも若者が少ないため、自主性に任せている。
- ・草刈りや地域環境美化活動などの共同作業で世代間交流を行っている。

全般1. 地域コミュニティの目指す5年後の方向性について、計画策定時（平成27年度）と比べてどのように変化しているか教えてください



「前進した」「どちらかといえば前進した」は、約2割、「以前と変わらない」が6～8割、「後退した」が1割に満たないという結果になった。

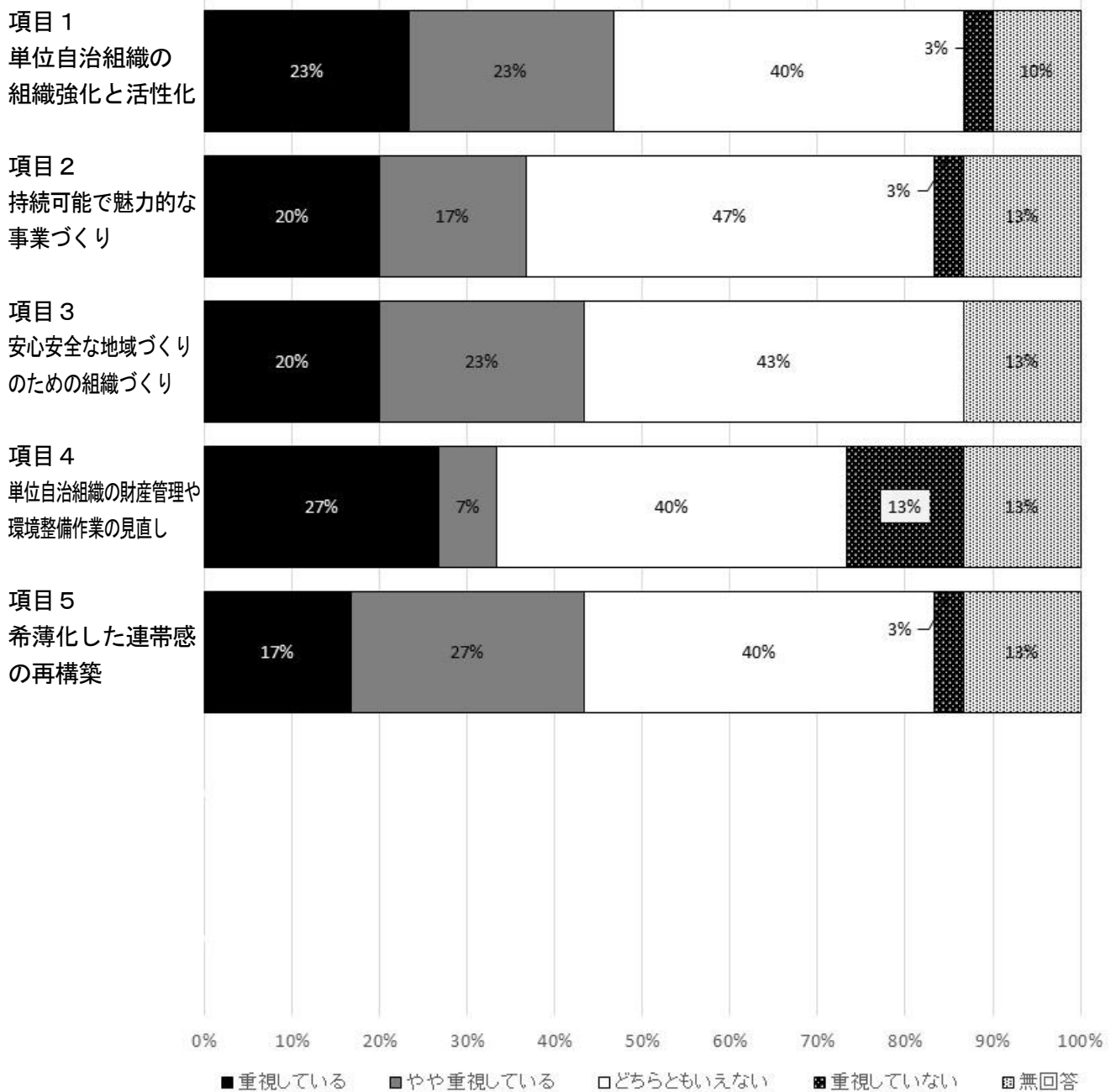
全般2. 項目1～7のうち、貴町内会が特に力を入れて取り組んだ項目を教えてください



項目2が1割に満たないが、他はほぼ2割となっていて、平均している。

全般3. 現在、項目1～7の取組をどの程度重視しているか教えてください

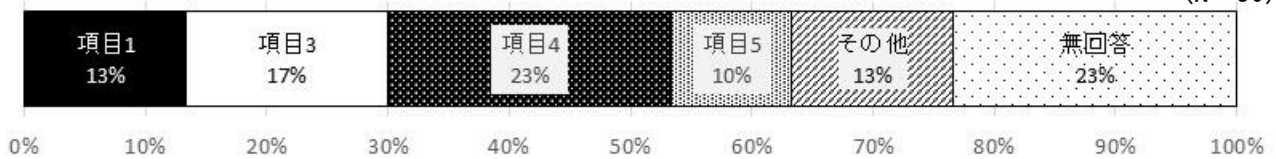
(N=30)



「重視している」「やや重視している」を合わせると、5項目ともおよそ4割ほどである。
「どちらともいえない」が、どの項目でも1番多く、4～5割となっている。
「重視していない」は、0～3%となっているが、項目4のみ少し多く13%となっている。

全般4. 項目1～7のうち、今後力を入れていきたい項目を教えてください

(N=30)



項目2のみ0%であるが、他の項目は、1～2割となっていて、平均している。

全般5. その他、地域コミュニティに関してご意見がございましたらご記入ください

《自由記述から一部抜粋》

- ・村外から来た人達と交流を深め、グリーンツーリズムを行いたい。
- ・この計画を策定した時点で各自治会に説明をしたのだとは思いますが、その時にどのような教示をしたのか、どのような広報をしたのかわかりませんが、毎年の自治会長会議で認識を持って取組をしてほしいなどの話をされたのか。引き継ぎがなされていないため、こういう計画があったことさえ知りませんでした。勉強不足で申し訳ないと思いますが、そういうところが多いのではないかと思います。
- ・コミセンと自治会の関係について住民はよく理解できていないのではないかと思います。
- ・当自治会の良い点でもあるが、自治会事業が多い。但し、個人への負担も大きくなっている。今後、高齢化がますます進み事業、組織維持が困難になると思う。
- ・地域コミュニティの情報発信について、回覧板や冊子、ケーブルテレビなどだけでは情報は届かないと思う。もっと若者を巻き込み、活気ある地域にしていくための入り口として、モバイルを活用すべきと思います。朝日地域住民が、朝日に興味がない。朝日離れをなくしていきたい。

問1. 貴町内会等のコミュニティ活動の良いところ（特徴、魅力など）はどのようなところだと思いますか。

《自由記述から一部抜粋》

- ・住民一人一人の状態、都合を受け入れながら、共同作業、行事をおこなっていること。共同作業に積極的に参加すること。
- ・誰かが自治会以外のイベントを計画する時、とても理解があるし、事業を遂行するにあたって多くの理解がある。
- ・旧知の方々であり、出来る限りこの地区で生活しようと思っているであろう意識が強いこと。
- ・子供が増加している地区であるため、昨年コミュニティ助成を利用して、新たにすべり台を設置したところ、子ども達、保護者達が公園を使うことが多くなった。
- ・子ども会育成会等の団体育成に取り組んでいる。若者の意見が自治会に反映されている。
- ・独自の事業が多くあり、伝統芸能も継承されている。
- ・月1回の常会を継続して行い、情報交換が出来ている。神楽があり、若い世代との交流がある。
- ・資源回収時に、1軒1軒子供と保護者で自治会の全戸を回ることで、普段は交流のない人達と言葉を交わすことができる。また、逆に子供達もどこにどんな人たちが住んでいるのかを知ることになり、安心にもつながっていると思う。

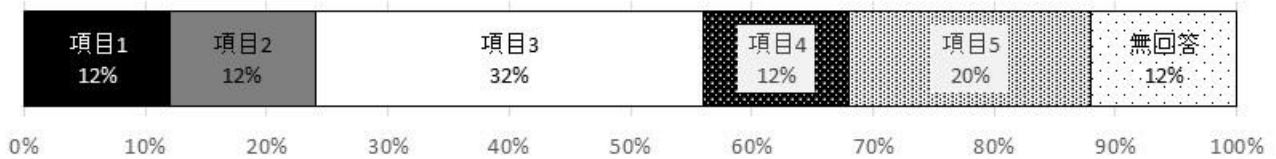
問2. 貴町内会等のコミュニティ活動の足りないところ（課題、問題点など）はどのようなところだと思いますか。

《自由記述から一部抜粋》

- ・自主防災活動。天災が多い昨今ではありますが、いざという時に、どのように行動したらいいのかわからない。
- ・事業、イベントへの理解、参加はあっても、事業、イベントを計画、運営する側への参加が消極的である。
- ・地区住民が、高齢化、核家族化して、自治会事業が困難になっている。
- ・世帯主の高齢化が進み、参加者が高齢者ばかりとなっている。自治会行事は、世帯主が参加することが当然になっており、若い世代が参加しない。親子三世代で参加できるようなイベントがない。
- ・変化のないメンバー、マンネリ、人手・若手不足
- ・月1回の常会など、世代が若くなるにつれ、仕事や子育てで参加できないこともあり、時代に合わせた集金方法などの検討が必要と思う。

問3. 項目1～7のうち、今後力を入れていきたい項目を教えてください

(N=25)



項目1・2・4が1割、項目5が2割、項目3が3割という回答である。

《「具体的に考えている事業や取り組んでみたい事業」の自由記述から一部抜粋》

- ・自主防災訓練
- ・環境整備作業負担増による体制の見直し。
- ・いわゆるIターン、Uターンによる新しい住人の受け入れを目指した事業。
- ・地域の人達が所有する山林を含む民地のどこが誰のものなのか、地図、字限図に落とし込んで、改めて自治会として全体を把握しておくとういと思う。いざという時に役に立つ。
- ・年代、性別を問わず、地域の人達が気軽に参加できるコミュニティ事業があるといいと思う。昔からある風習も大事だが、それを変え、新しいものを取り入れていくことで、新たなコミュニティができると思う。

問4. 貴町内会等の住民が安心して、楽しく暮らすために、どのような取組（事業など）が必要だと思いますか。

《自由記述から一部抜粋》

- ・地域には、何名か移住者がおりますが、自治会に関する役職等は早い段階でお任せしないほうがよいと思う。相手の性格を考えながら、慎重な判断をすることが必要と思う。移住者が地域に慣れるには3年かかる。
- ・コロナ、地震、豪雨災害など、自然災害を含めた防災を、地域住民と一緒に考える取組（事業）。
- ・人口減少、高齢化に対応した生活基盤（買い物、通院、会話など）をどうするかを考える取組。
- ・サル被害対策
- ・雪対策
- ・子供が安心して遊べる環境であること。空き家が多く、危険場所を少しでもなくすことが出来ればよいと思う。

問5. その他、地域コミュニティに関してご意見がございましたらご記入ください。

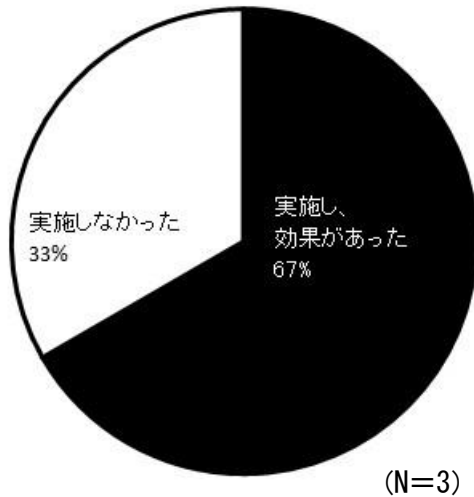
《自由記述から一部抜粋》

- ・自治組織の役員職務の軽減とありますが、会員数の減少という現実がある中で、役職の数が多すぎると思う。農協や他組織の役職の兼務も多くなれば、職務に対する身の入れようも希薄にならざるを得ない。
- ・ここに住み続けたいと考えている人達の生活が成立するようになれば良いと思う。
- ・世代交代がうまくできるように、自治会会員との交流を深めていきたい。

項目 1. 住民理解促進と単位自治組織へのサポート体制の構築を行いましたか？

★取組の具体的事例

- 広域コミュニティ組織の活動意義と活動内容のPR
- 単位自治組織で実施が困難になっている生涯学習活動等の事業への協力
- 各種団体の事務局を担うことによる単位自治組織が担う役割の負担軽減



住民理解促進と単位自治組織へのサポート体制の構築への取組については、「実施効果があった」（67%）、「実施しなかった」（33%）で6割強が実施している。

コミセンを構成している単位自治会の規模等についての違いがあり、時間をかけて住民の理解を得る取り組みを行っているところである。

《自由記述から一部抜粋》

- ・防災に関する研修会を実施した。
- ・管内自治会長との「会議体」設置
- ・自治会長が毎年変わるので、コミセンの「役割」等の引き継ぎがされず、改めて説明することが多い。自治会のやる気で差が出ている。
- ・自治単位組織へのサポートはまだ必要性がない。

項目 2. 組織ごとの運営方法の確立に取り組みましたか？

★取組の具体的事例

○運営方法の確立に向けた検討

○広域コミュニティ組織に係る研修会の開催



組織ごとの運営方法の確立の取組については、全地区が実施している。

平成27年度から、広域コミュニティ組織の指定管理者がコミセンの管理運営を行っているが、1期の5年で軌道に乗り、現在2期目であることから、新しい取り組みに向けての活動に取り組んでいる。

また、朝日地域全体の自治振興会連絡協議会としての活動も行っている。

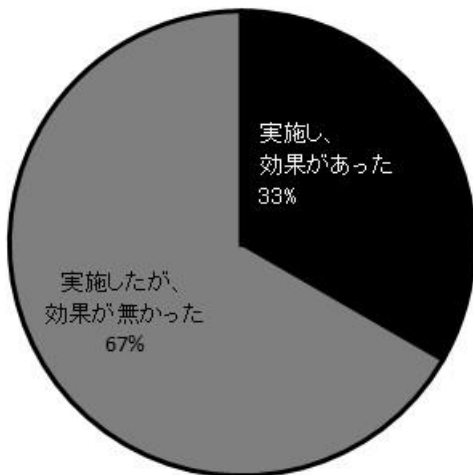
《自由記述から一部抜粋》

- ・ 5地区連協との協力体制と各自治会との関係に一定の整理をした。
- ・ 子供、老人クラブ等の事業は実施できたが、中年向けの事業を考えていくことが必要。
- ・ 各種事業を担当制にして、負担軽減に努めた。

項目 3. 新たな人材の確保に向けた検討を行いましたか？

★取組の具体的事例

- 人材育成のための研修機会の充実
- 女性や幅広い世代の人材を登用し、積極的に活動できる取組の実践
- 生涯学習推進員を中心とした事業の推進



(N=3)

新たな人材の確保に向けた検討への取組については、全地域実施したが、「実施したが効果がなかった」(67%)が6割強となっている。

少子高齢化が進み、地元に残る若い世代も少なくなっていることなどから、人材育成、人材確保は大きな課題となっている。

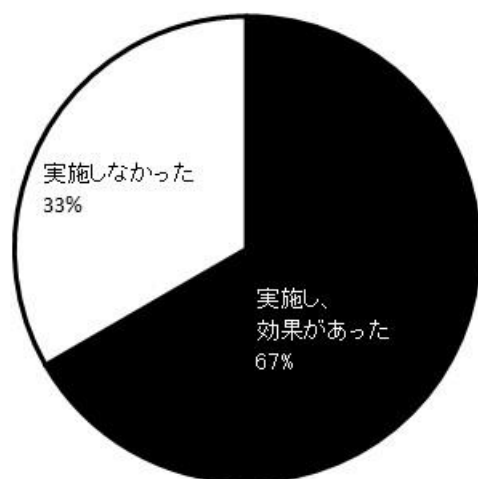
《自由記述から一部抜粋》

- ・女性と若手の確保が難しい。
- ・賛同を得るまでの活動までは進められず、今後の課題である。充て職の役員も多い。

項目 4. 朝日地域全体の生涯学習事業の検討を行いましたか？

★取組の具体的事例

- 朝日地域自治振興会連絡協議会（広域コミュニティの連合組織）が主体となって事業を実施できるような仕組みづくり
- 朝日地域自治振興会連絡協議会への支援体制の構築
- 学校統廃合に伴いあさひ小学校の地域行事に対する窓口体制の構築



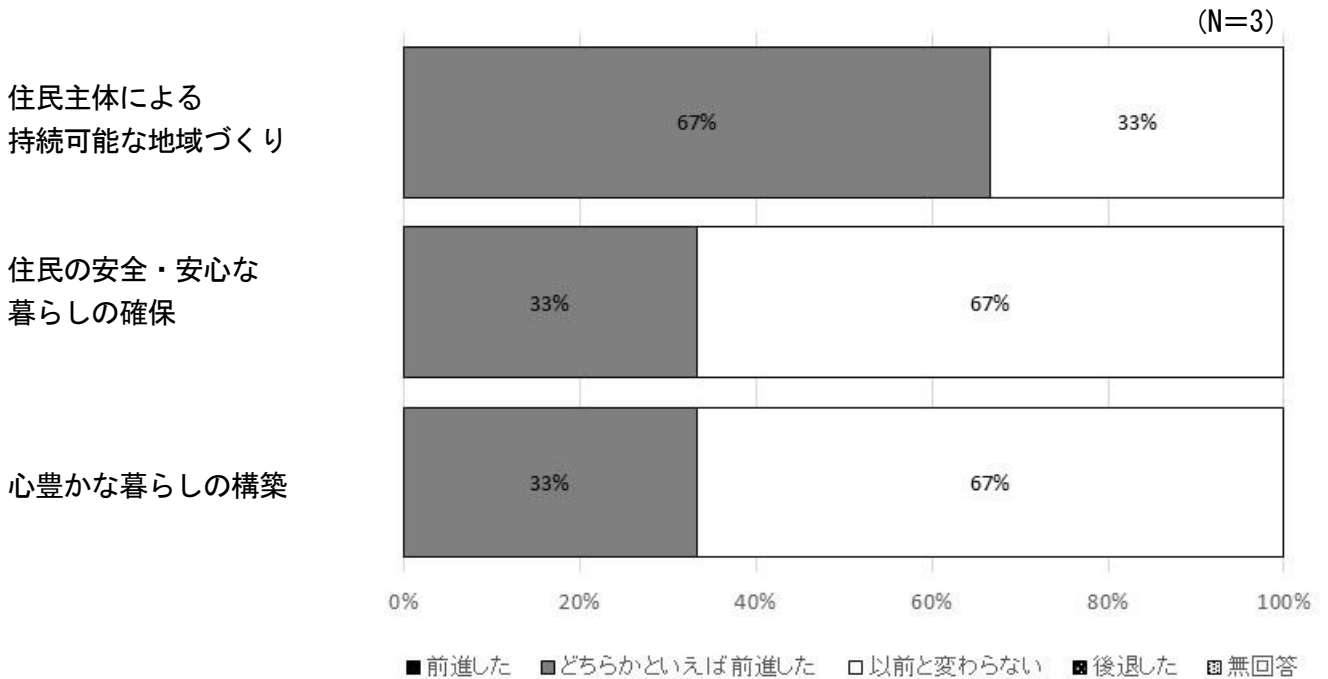
朝日地域全体の生涯学習事業の検討への取組については、「実施し、効果があった」（67%）、「実施しなかった」（33%）で、6割強が実施している。

「実施しなかった」と回答している地域もあるが、実際の活動では、「いきいき大学の運営」「支え合い研修会」「地域学習塾」など朝日地域自治振興会連絡協議会の事業や、あさひ小学校への協力体制はできていると思われる。

《自由記述から一部抜粋》

- ・朝日庁舎、社会福祉協議会とも連携して事業を実施した。今後も継続して行う。
- ・ジュニアキャンプやあさひ小学校の事業には、主に生涯学習推進員や長生会の協力を頂いて手助け出来たかと思う。
- ・南部地域だけで精一杯だった。

全般1. 地域コミュニティの目指す5年後の方向性について、計画策定時（平成27年度）と比べてどのように変化しているか教えてください



住民主体による持続可能な地域づくり、住民の安全・安心な暮らしの確保、心豊かな暮らしの構築について、「以前と変わらない」と回答している地域がどの項目にもある。

「後退した」というところはないため、どの地域も前進する方向に取り組んできた結果、5年前の状況とあまり変わらない状況は、維持できているものと思われる。

全般2. 項目1～4のうち、貴地区が特に力を入れて取り組んだ項目を教えてください

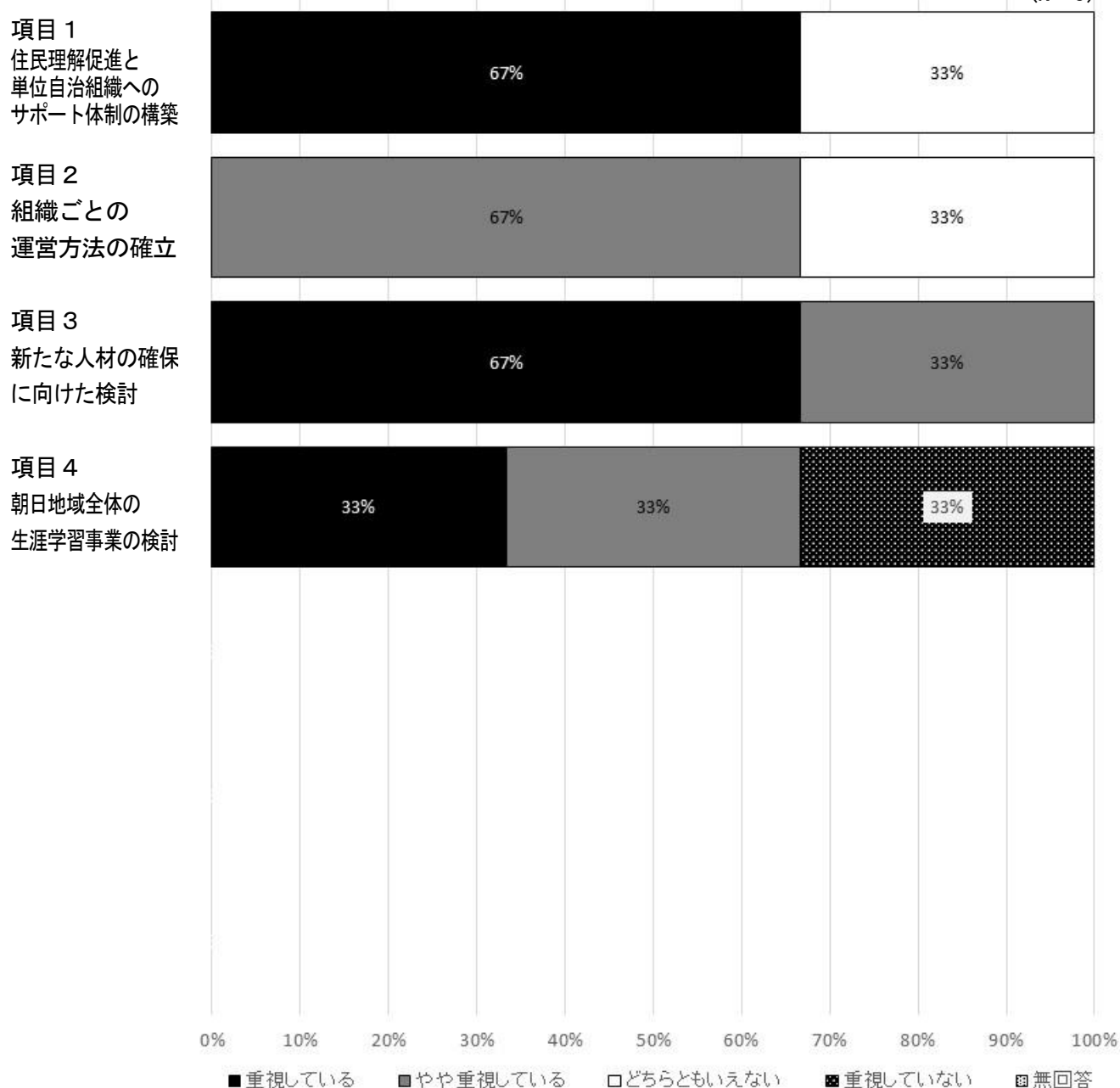


4項目あるうちの4項目「朝日地域全体の生涯学習事業の検討」以外の3項目に、3つのコミセンがそれぞれ分かれた結果となった。

広域コミュニティ組織それぞれの課題が違っていることの表れではないかと思われる。

全般3. 現在、項目1～4の取組をどの程度重視しているか教えてください

(N=3)



全ての地域が「重視している」「やや重視している」と回答した項目は、項目3「新たな人材確保に向けた検討」だった。

項目1「住民理解促進と単位自治組織へのサポート体制の構築」、項目2「組織ごとの運営方法の確立」、項目4「朝日地域全体の生涯学習事業の検討」については、「重視している」「やや重視している」が3項目とも6割強となっていて、現在も、当初の計画の4項目とも重要だと考えているという結果になった。

中でも、少子高齢化が進み、人材の確保は大きな課題と捉えているようである。

全般4. 項目1～4のうち、今後力を入れていきたい項目を教えてください

(N=3)



項目2「組織ごとの運営方法の確立」については、力を入れたい項目から外れているが、どのコミセンもほぼ確立されているという認識だと思われる。

他1・2・4項目については、コミセンによって力を入れていきたい項目が分かれており、地域の実情が、朝日地内であっても違っているということではないかと思われる。または、新しい力を入れていきたいものがあるが、この項目の中から選ぶとするということを選んでいないのではないかと思われる。

≪「具体的に考えている事業や取り組んでみたい事業」の自由記述から一部抜粋≫

- ・オンライン診療の導入
- ・交通弱者に対する移送サービス

全般5. その他、地域コミュニティに関してご意見がございましたらご記入ください

≪自由記述から一部抜粋≫

- ・将来的希望として、大網全体を1集落としてコミセンがまとめ、各集落と打ち合わせをやっていく方法も考えていければいいと思っている。現在役員の確保が大変になっていることも課題となっているので。
- ・アンケートそのものが難しくて答えにくい。
- ・アンケートをとる前に、住民へのコミュニティ推進計画についての説明があるべきではないか。
- ・全住民がわかりやすい表現の推進計画を作ってほしい。

問1. 貴地区のコミュニティ活動の良いところ（特徴、魅力など）はどのようなところだと思いますか。

《自由記述から一部抜粋》

- ・ 5つの地区で形成されているので、何をやるにしてもそれなりの意見がたくさん出てくる。地域住民が助け合って生活をしていく基盤はしっかりしているのではないかと思います。
- ・ 各種活動でのまとまりがある。
- ・ 子供からお年寄りまで、全世代を対象とした事業展開を心掛けている。
- ・ 事務局が地元出身者であることから、地域の皆さん方全員と顔なじみであり、コミュニケーションがとりやすい。そのため、地域の要望を吸い上げ、ニーズに対応しやすいと思われる。

問2. 貴地区のコミュニティ活動の足りないところ（課題、問題点など）はどのようなところだと思いますか。

《自由記述から一部抜粋》

- ・ 5つの自治会が集まるがゆえに、各地区のこだわりや今までの根付いてきた自治、風習、慣習などがあり、なかなか新しいことに挑戦できずにいる。個々では強いのですが……。
- ・ 次世代の人材育成
- ・ 各種活動がある一方で、年齢構成が偏ってしまうこと。
- ・ 生涯就農こそが、最大のstatusという地域性であるため、各種事業への動員が難しい。特に働き盛りの60代の事業への参加が難儀である。
- ・ 高齢化率の高い大泉地域と、大鳥地域であるが、距離的な問題もあり、事業の一本化は難しい。

問3. 項目1～4のうち、今後力を入れていきたい項目を教えてください

(N=3)



今後力を入れたい項目について、項目3「新たな人材の確保に向けた検討」が67%と最も多く、次いで、項目1「住民理解促進と単位自治組織へのサポート体制の構築」が33%となっている。

項目2「組織ごとの運営方法の確立」、項目4「朝日地域全体の生涯学習事業の検討」の回答はなかった。

《「具体的に考えている事業や取り組んでみたい事業」の自由記述から一部抜粋》

- ・ 高齢者支援、災害事業、コミュニティビジネスなど。
- ・ 自然を活かした体験型交流事業（山菜、キノコ採り、栗拾い、販売、木の実のリース作りなど）

問4. 貴地区の住民が安心して、楽しく暮らすために、どのような取組（事業など）が必要だと思いますか。

《自由記述から一部抜粋》

- ・ 地域での仕事を生み出し、安定した収入の確保。
- ・ 交通弱者への対応として、買い物、通院の送迎サポートシステム。
- ・ 旧大泉小学校の利活用について、プロジェクトチームの立ち上げ。

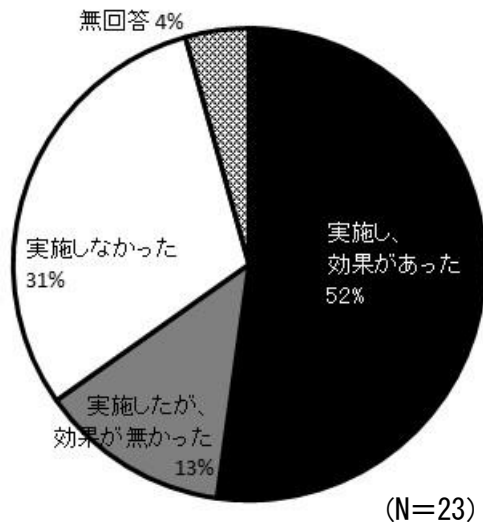
問5. その他、地域コミュニティに関してご意見がございましたらご記入ください。

特になし。

項目 1. 多様な人材の活用と役員等の負担軽減に取り組みましたか？

★取組の具体的事例

- 役員等の負担軽減につながる効果的な組織体制の見直し
- 各種団体の統合や組織の見直しによる、単位自治組織役員等の負担軽減
- 若者や女性、高齢者の活躍の場の拡充



多様な人材の活用と役員等の負担軽減の取組状況について、「実施し、効果があった」（52%）、「実施したが、効果が無かった」（13%）と6割を超えて、実施している。

一方、「実施しなかった」が31%あり、中には、「人材というより人が少ない」「今後役員になる世代の人口が少ない」という意見があった。

≪自由記述から一部抜粋≫

「実施し、効果があった」 ⇒自慢できる取組や効果の有無を判断した理由

- ・人口の減少に伴い公民館役職員と専門部の見直しを行った。また活動が困難となった団体は廃止することにより負担の軽減にはつながった。
- ・自治会長の会議等への出席を他の役員が代行し、自治会長の出席回数が減り負担が軽減された。
- ・いままで何をやるにも役員がやっていたが、なり手不足の解消に効果があった。
- ・若い人が入ることによって新しい意見が見られた。役員会での議事録作成により要点をついて時間短縮につながる。
- ・世帯数、人口ともに減少する中、役員数を従来のままとし役員一人ひとりに係る負担を軽減した。部員については、集落住民を広く登用しているが人口が少ないことから一定の限界がある。
- ・会社勤めがほとんどのため土日祝日なるべく多く選んで運営した。
- ・部長制の廃止、役職数の削減。

「実施したが、効果が無かった」 ⇒自慢できる取組や効果の有無を判断した理由

- ・高齢化が進み役員確保が困難です。特に会長職が課題となっております。
- ・青壮年の方々にお願いしても、同じ人しか受けていただけない。
- ・役員の高年齢化を危惧し役員選挙後提案したが、効果は今後の予定。

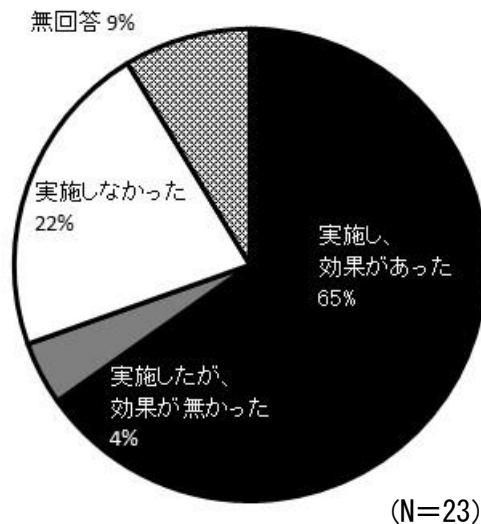
「実施しなかった」 ⇒その理由や必要であると考えている取組

- ・昨年は、山形県沖地震への対応におわれてできなかった。
- ・人材というより人が少ない。7人
- ・今後役員になる世代の人口も少ないため、行事の簡素化を検討し始めているところです。

項目 2. 単位自治組織の健全な財政運営に向けた検討を行いましたか？

★取組の具体的事例

- 住民合意に基づく会費収入に見合った事業運営の見直し
- コミュニティビジネスを含めた活動資金の確保策の検討
- 先進事例の研究や講習会等、単位自治組織運営に関する研修の実施
- 公民館類似施設整備に対する財政支援
- 有線放送設備及び新たな情報伝達の仕組みの研究・検討



単位自治組織の健全な財政運営に向けた検討について、「実施し、効果があった」(65%)、「実施したが、効果が無かった」(4%)と7割近く実施しており、各役員の手当の削減などを行い、各世帯の自治会費を軽減し事業を行っている。

一方、「実施しなかった」が22%あった。

《自由記述から一部抜粋》

「実施し、効果があった」 ⇒自慢できる取組や効果の有無を判断した理由

- ・有線放送を廃止し、無線による情報伝達システムを導入した。
- ・自治会費の低減、少子高齢化、人口減少に対応するため「温海温泉自治会財政見直し指針」を策定し令和4年度からの実施を予定している。
- ・役員の数削減や行事の見直し等を行い自治会予算の削減をすることができた。
- ・少子高齢化という現状に見合った予算や負担金の徴収を実施。各家庭の負担額が少し減りました。
- ・自治会費などの減額や、等級割の見直しで効果があった。
- ・総合交付金を見直していただき35万増額になった。山形沖地震で会員の収入減少、出費がかさなり大変だった。
- ・少子化に伴い各部の再編及び手当の削減、前年度は削減ができた。
- ・消防団費など従来聖域とされほぼ手つかずであった費目も検討材料とし、予算を減額するなど自治会費の負担を極力増やさないよう努め、従来並みの予算規模を確保している。
- ・自治会費を削減しつつも事業も削減せず行っている。
- ・有線放送、テレビ共同受信組合を統合して維持費の削減を行った。

「実施したが、効果が無かった」 ⇒自慢できる取組や効果の有無を判断した理由

- ・会費に見合った事業の見直し→効果とは言えない。

「実施しなかった」 ⇒その理由や必要であると考えている取組

- ・庁舎に財政要求しても要求に応じてくれない。(有線放送、通信関係)

項目3. 将来を見据えた単位自治組織のあり方の検討に取り組みましたか？

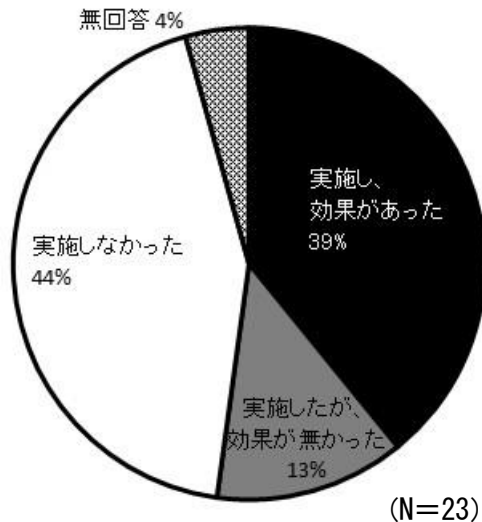
★取組の具体的事例

○隣接する単位自治組織との情報交換や単位自治組織運営に対する相互協力、共同化の検討

○地区自治会の今後のあり方の検討

○単位自治組織と地区自治会との連携や機能・役割分担の検討

○地区担当職員制度を活用した集落活性化懇談会等の取組による具体的な方策の検討



将来を見据えた単位自治組織のあり方の検討について、「実施し、効果があった」(39%)、「実施したが、効果が無かった」(13%)と5割を超えて、実施している。

一方、「実施しなかった」が44%あり「現状維持で良い」「自治会としての機能の維持は困難であるが、住民に現状を変えようとする意識がない」といった意見があった。

《自由記述から一部抜粋》

「実施し、効果があった」 ⇒ 自慢できる取組や効果の有無を判断した理由

- ・地域住民が加入している団体（生産森林組合）との関連性を考慮しながら地縁団体への組織替えについて検討中である。
- ・「温海温泉自治会財政見直し指針」で組織のあり方についても問題提起し現在検討している。
- ・隣接している自治会長と連携を深め、今後の自治会の合併も検討中でもあります。
- ・役員会で今後の自治会のあり方の検討を行った。会員及び役員の負担軽減をしていくことに決まった。
- ・鶴岡市とともに取組みを始めたところです。
- ・10年前より人口、世帯数の推移を作成し将来に向かって危機感の共有ができた。
- ・将来的な自治会活動を見据え、隣組の割り振りを大きく変更した。

「実施したが、効果が無かった」 ⇒ 自慢できる取組や効果の有無を判断した理由

- ・自治組織のあり方については検討中であるが、山形沖地震とコロナで検討がおくれている。
- ・毎年地区自治会で情報交換を行っているが具体的な効果まではない。

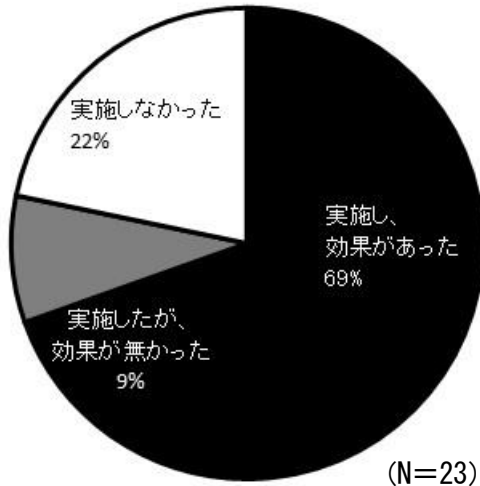
「実施しなかった」 ⇒ その理由や必要であると考えている取組

- ・将来隣接する単位自治組織との情報交換や単位自治組織運営、地区自治会の今後のあり方の検討。
- ・自治会の取り組むべき優先順位のため。自治会費の削減。
- ・まだ現状維持で良いので。
- ・高齢化によりこのままでは自治会としての機能の維持は困難であるが、住民に現状を変えようとする意識がない。
- ・新型コロナウイルスの影響でしなかった。

項目 4. 防犯・防災への対応に取り組みましたか？

★取組の具体的事例

- 自主防災組織の機能点検を行うと共に、避難訓練や有事に備えた住民同士の話し合いの機会や講習会の開催
- 有事に備えた住民情報の把握と活用方法の検討
- 有事の際の情報伝達システム確立のため、全単位自治組織への防災無線の配備と単位自治組織防災マニュアルの整備
- 津波に対する避難路の整備や津波ハザードマップを活用した避難訓練の実施
- 空き家の実態把握、所有者に対する適正管理の指導
- 空き家等に関する転出時の単位自治組織での取り決めの検討



防犯・防災への対応の取組状況について、「実施し、効果があった」(69%)、「実施したが、効果が無かった」(9%)と8割近くが実施している。一方、「実施しなかった」が22%あった。

《自由記述から一部抜粋》

「実施し、効果があった」 ⇒自慢できる取組や効果の有無を判断した理由

- ・山形県沖地震の経験を活かした地域の防災訓練を実施している。
- ・1日研修会で地域のハザードマップについて研修を行った。
- ・警察署員が積極的に高齢者等の集会に参加し指導を受けている。
- ・自主防災組織の見直しや津波避難路の再確認を行った。
- ・定期的に地震津波訓練を実施しており、昨年6月の地震時も住人は速やかに避難できました。防災用品購入用等の予算も新設しています。
- ・昨年の山形県沖地震の時に避難訓練の効果があった。
- ・昨年の地震でケガ人が一人もでなかったのは、少しでも火災訓練等の効果が反映したと思われる。
- ・消防団を主体とし、消火栓指導を各組ごとに実施した。防災意識向上。
- ・自主防災組織での定例見回りも実施している。空き家に対しても年間維持費を徴収し現在は機能しているが、何年か後には不安もある。

「実施したが、効果が無かった」 ⇒自慢できる取組や効果の有無を判断した理由

- ・山形沖地震後、炊き出し訓練等実施したが、コロナ等で対応に追われている。山形沖地震直後に役員で見回り等実施した。
- ・AED講習会、防災訓練を実施。結果はわからない。

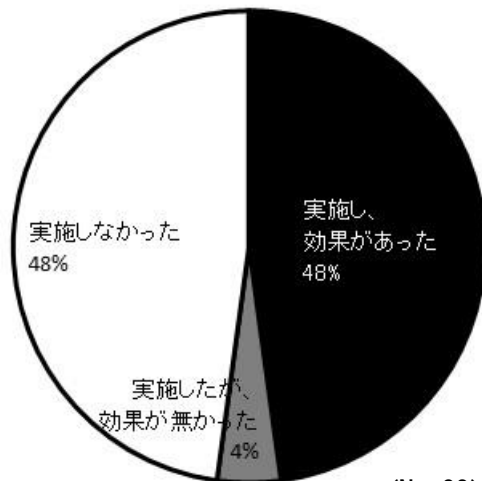
「実施しなかった」 ⇒その理由や必要であると考えている取組

- ・有事に備えた住民情報の把握と活用方法の検討。
- ・消防団組織の将来的なあり方については早急に検討が必要。
- ・近年各訓練を実施していない。

項目5. 次代を担う若者や子どもたちを取り巻く環境づくりに努めましたか？

★取組の具体的事例

- 若者に魅力のある地域づくりのための活動支援やリーダーの育成
- 伝統行事や伝統文化の継承への動機づけと支援
- 学校統合後の小学校及び中学校と地域との連携及び地域活動の推進
- 地域理解を深めるための学習支援



次代を担う若者や子どもたちを取り巻く環境づくりに
ついて、「実施し、効果があった」(48%)、「実施したが、
効果がなかった」(4%)と5割を超えて、実施している。

一方、「実施しなかった」が48%あり、そもそも地域に
若者や子どもがいない等の課題がある。

《自由記述から一部抜粋》

「実施し、効果があった」 ⇒自慢できる取組や効果の有無を判断した理由

- ・自治会行事やお祭りなどに積極的に参加してもらい会員と子ども達のコミュニケーションをとる場を作っている。
- ・少年会活動の行事を増やし(自然とのふれあい)子供たちの郷土愛を育てた。
- ・小学校で「地域活性化プロジェクト発表会」を実施し、その実現化に向けて検討している。
- ・小学校では父母の会が主体となり小国太鼓の保存に努めている。小中行事では、育成部が主体で各種行事を行っている。(少子化不安)
- ・青少年育成部での山菜採り、孟宗をみんなで採り、父兄が料理をし子どもたちに食べさせたりし、効果があった。
- ・戸沢歌舞伎の伝承は効果大。
- ・獅子舞保存会で伝統文化継承に努めている。

「実施したが、効果がなかった」 ⇒自慢できる取組や効果の有無を判断した理由

- ・各年代のコミュニティ作りや祭典等集落行事に協力要請しているが、拡がりがない。

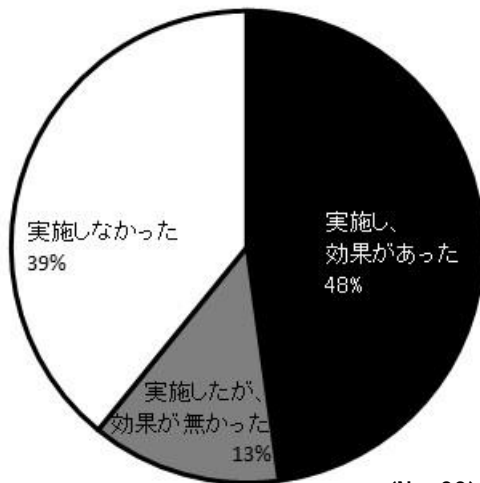
「実施しなかった」 ⇒その理由や必要であると考えている取組

- ・特に取組みは行っていないが、地域全体で子どもを見守っている環境は従来から維持できている。
- ・公民館事業の見直しにあわせて、今後実施する予定。
- ・現行の取組みで十分と判断しています。リーダー育成の前に役員の負担軽減をしなければならないと思っています。役員の担い手確保が難しい。
- ・若者、子どもの数が近年激減しており、単位集落で可能な状況を超えている部分がある。
- ・若者、子どもがそもそも地域にいない。

項目6. 高齢者等福祉の視点に立ったコミュニティづくりに努めましたか？

★取組の具体的事例

- 高齢者が持つ知識や経験を活かした地域づくりの推進
- 健康寿命の延伸（介護予防・健康づくり）を主眼にした事業の推進
- 日常生活での見守り・支え合い体制の仕組みづくりと強化



(N=23)

高齢者福祉の視点に立ったコミュニティづくりについて、「実施し、効果があった」（48%）、「実施したが、効果が無かった」（13%）と6割を超えて、実施している。

一方、「実施しなかった」が39%あり、老人クラブの解散等が問題視される。

《自由記述から一部抜粋》

「実施し、効果があった」 ⇒自慢できる取組や効果の有無を判断した理由

- ・ミニデイを積極的に運営活動し高齢者の生きがいとなっている。自治会の総会等の議長等。
- ・公園に東屋を建てたことにより高齢者や子ども達が集まりコミュニケーションの場ができた。
- ・集落内で定期的にミニデイサービスを実施しています。百歳体操や研修旅行等で高齢者の交流は深まっていると思います。
- ・老人クラブの充実。65歳以上ほぼ全員加入していて、各行事等も充実している。
- ・放課後子ども教室へのスタッフ参加、あたたか弁当、さくら会（健康体操）等実施しており効果はでている。
- ・老人クラブ活動が、自治会に果たす役割は大きいものがあり、活動を円滑に進めることができるよう自治会全体での配慮に努めている。
- ・老人クラブの活動が活発で自治会活動にも協力している。
- ・買物支援移動販売を週3回来てもらいありがたいと思っている。

「実施したが、効果が無かった」 ⇒自慢できる取組や効果の有無を判断した理由

- ・高齢者世帯の増加について、公民館役員だけでなく地域全体で取り組み始めたところである。
- ・老人クラブの再度構築を期待しているが盛り上がりが見えない。
- ・厚生部が主体となり敬老会を実施しているが、参加人数が半分以下と低迷している。

「実施しなかった」 ⇒その理由や必要であると考えている取組

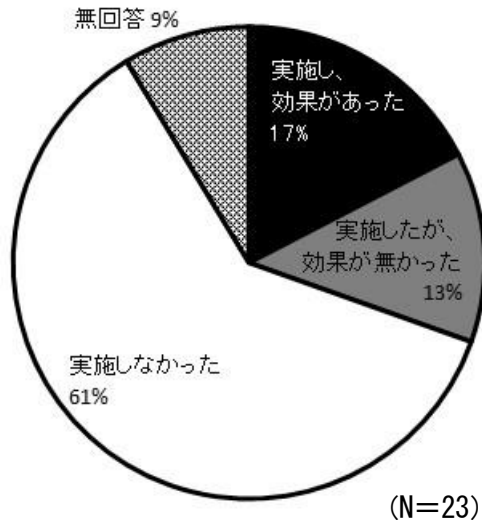
- ・現在の体制ではなかなか困難と考えている。
- ・昔あった老人クラブを復活させたい。
- ・老人クラブが解散した。

項目7. 広域コミュニティのあり方の検討を図りましたか？

★取組の具体的事例

○広域コミュニティ組織のあり方の検討

○広域コミュニティ組織に係る研修会の実施



広域コミュニティのあり方の検討について、「実施し、効果があった」(17%)、「実施したが、効果が無かった」(13%)と3割となっており実施率が低かった。

一方、「実施しなかった」が61%あり、集落が点在するなどの地域事情により広域コミュニティ組織の検討には至っていない状況にある。

≪自由記述から一部抜粋≫

「実施し、効果があった」 ⇒自慢できる取組や効果の有無を判断した理由

- ・ 第四地区のいろいろな行事を通して効果はあった。1～4 地区を一緒にする事は現在は時期尚早である。
- ・ 民生委員等と情報交換し、問題を共有し取組んでいる。
- ・ 厚生部、市と連携している事業に参加者より好評との連絡が来ている。

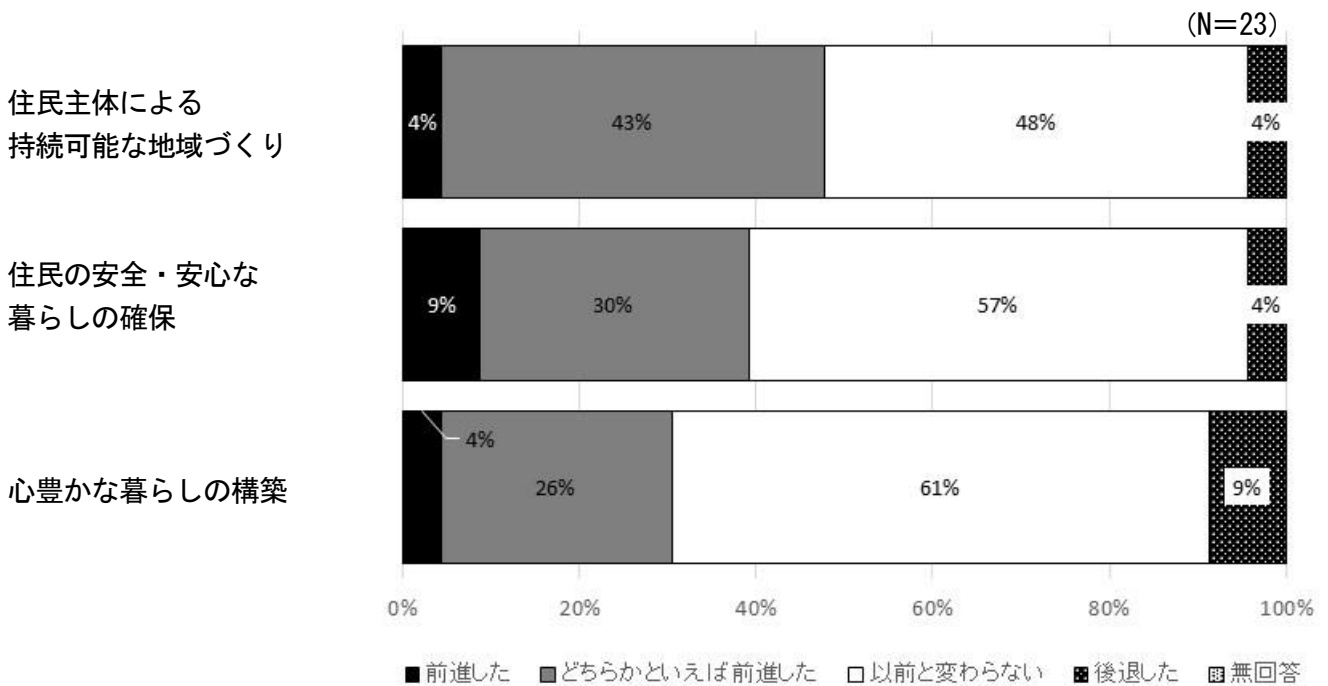
「実施したが、効果が無かった」 ⇒自慢できる取組や効果の有無を判断した理由

- ・ 自治会長会へも問題提起しているが、まだ議論できる雰囲気ではないようだ。
- ・ 女性部が主体となり各種研修会を実施しているが、少子化が現実であり盛り上がりに不安。

「実施しなかった」 ⇒その理由や必要であると考えている取組

- ・ 現状はまだ単位自治組織の運営が中心である。
- ・ 他自治会との調整が課題。
- ・ 集落が点在するなど温海地域における広域コミュニティ化は難しいものがある。
- ・ 自治会の高齢化により、行事等もできなくなっており広域コミュニティの検討は必要と思われるが、住民の意識として現状のまま行きたいという考えでまとまっている。
- ・ 単位自治会での検討は難しい。市等の指導が必要だ。
- ・ 単位自治組織で取り組むのではなく、温海地域としてどうしていくのか示す必要がある。

全般1. 地域コミュニティの目指す5年後の方向性について、計画策定時（平成27年度）と比べてどのように変化しているか教えてください

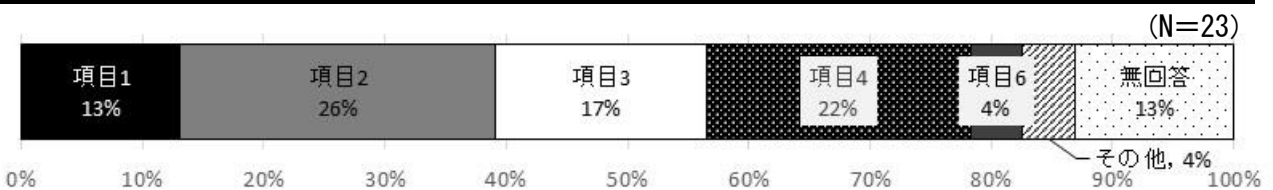


住民主体による持続可能な地域づくりは、「前進した」(4%)、「どちらかといえば前進した」(43%)、「以前と変わらない」(48%)、「後退した」(4%)となった。

住民の安全・安心な暮らしの確保は、「前進した」(9%)、「どちらかといえば前進した」(30%)、「以前と変わらない」(57%)、「後退した」(4%)となった。

心豊かな暮らしの構築は、「前進した」(4%)、「どちらかといえば前進した」(26%)、「以前と変わらない」(61%)、「後退した」(9%)となった。

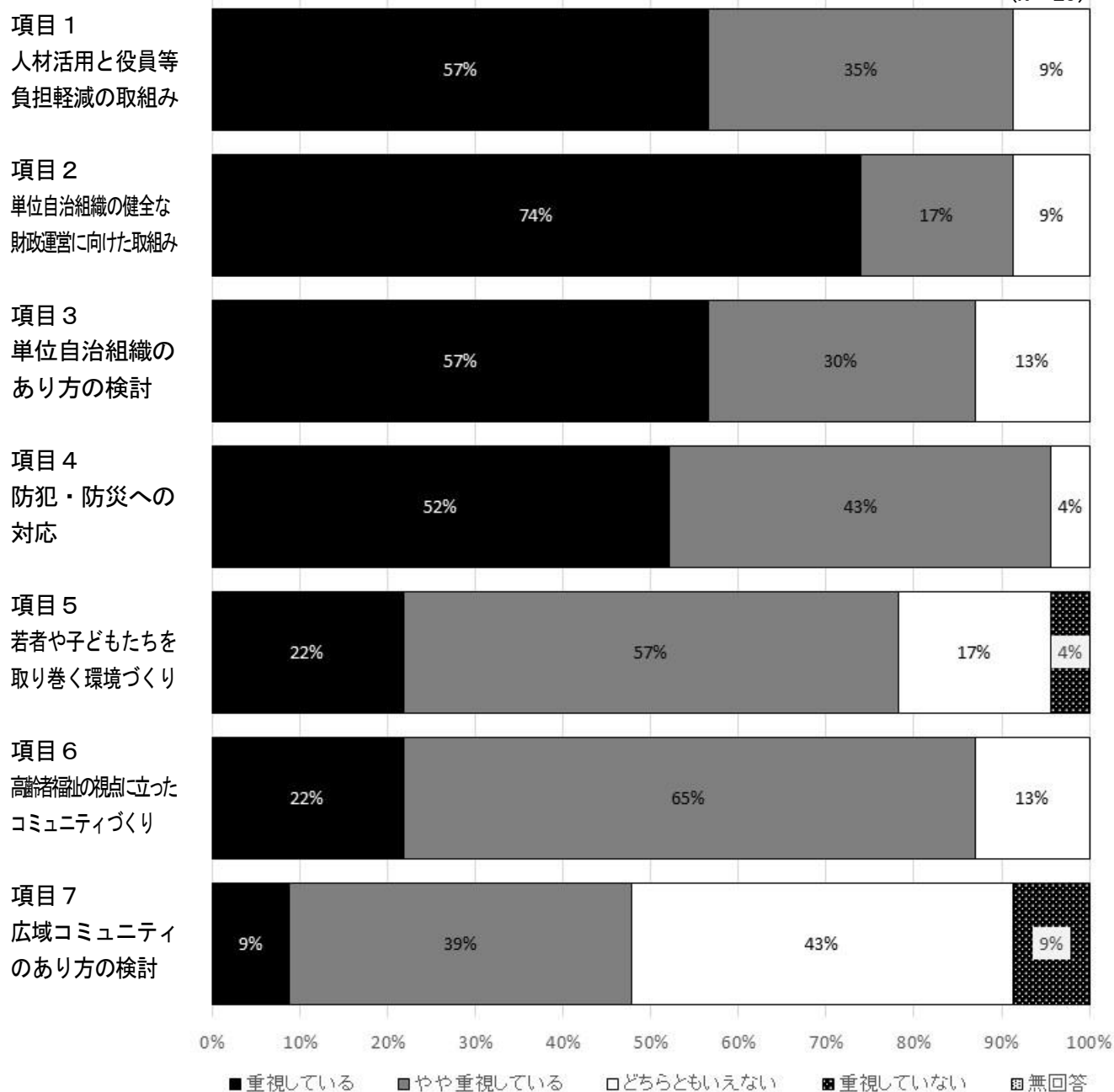
全般2. 項目1～7のうち、自治会が特に力を入れて取り組んだ項目を教えてください



特に力を入れて取り組んだ項目について、「項目2」(26%)、「項目4」(22%)、「項目3」(17%)、「項目1」(13%)、「項目6」(4%)、「その他」(4%)の順となり、「項目5、7」と回答した自治会はなかった。

全般3. 現在、項目1～7の取組をどの程度重視しているか教えてください

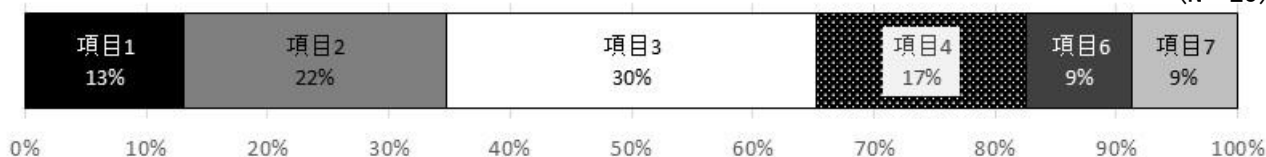
(N=23)



項目1は、「重視している」(57%)、「やや重視している」(35%)、「どちらともいえない」(9%)
 項目2は、「重視している」(74%)、「やや重視している」(17%)、「どちらともいえない」(9%)
 項目3は、「重視している」(57%)、「やや重視している」(30%)、「どちらともいえない」(13%)
 項目4は、「重視している」(52%)、「やや重視している」(43%)、「どちらともいえない」(4%)
 項目5は、「重視している」(22%)、「やや重視している」(57%)、「どちらともいえない」(17%)、「重視していない」(4%)
 項目6は、「重視している」(22%)、「やや重視している」(65%)、「どちらともいえない」(13%)
 項目7は、「重視している」(9%)、「やや重視している」(39%)、「どちらともいえない」(43%)、「重視していない」(9%) となった。

全般4. 項目1～7のうち、今後力を入れていきたい項目を教えてください

(N=23)



今後力を入れていきたい項目は、「項目3」(30%)、「項目2」(22%)、「項目4」(17%)、「項目1」(13%)、「項目6」(9%)、「項目7」(9%)の順となり、「項目5」と回答した自治会はなかった。

《「具体的に考えている事業や取り組んでみたい事業」の自由記述から一部抜粋》

- ・少子高齢化、人口減少に伴い事業財政ともに負担がおおきくなってきている。現在地縁団体へ移行することについてのメリット、デメリットを検討中である。
- ・新たな事業を取組んでも、特に補助事業は今の人手不足では維持管理ができないのが課題。
- ・どうしたら自治会に人口や世帯数が増えるかみんなで考えたい。
- ・組織の見直し（公民館事務員の削減、開館時間の見直し）。三集落（関、興屋、原海）の静かなる統合と経費削減。
- ・鳥獣対策は農作物被害により特に高齢者の生きがいが損なわれている。クマは人命にも関わる重要問題。

全般5. その他、地域コミュニティに関してご意見がございましたらご記入ください

《自由記述から一部抜粋》

- ・近い将来単位自治組織の運営は限界が来ると思われる。地域コミュニティとの連携について意志の統一が必要と思われます。
- ・避難場所での不安解消のため備蓄品を購入し災害時の準備、備えをしている。今年度は発電機2機購入。第2避難場所（あつみ小）での防災訓練を実施したいと思うので市との協力のもと実践訓練。
- ・今後、役員・委員になる世代の人数は少ないという状況に変わりはないため、各種行事等を簡素化しなければ地域活動の持続は厳しいと思います。
- ・自治会費が4,500円/月と高く下げたいが予算が足りない。市からの交付、補助金増額を検討願いたい。
- ・山形県と公民館との連携不足（河川課等）、県は公民館とのコミュニケーションが不足している。鶴岡市は住民への連絡が（特に思いつき）多く自治会の有線放送にたよるケースがある。休日でも依頼する（プレミアム商品券訂正、知事市長のコロナへの対応、しかもさらに訂正があった）等、最後は自治会へたよりすぎている。
- ・自治会所有の山林に係る税等、義務的経費の負担が将来的にさらに大きくなることから、コミュニティの維持に向けこうした課題に、庁舎においても真正面から受け打開策を共に検討していただきたい。手遅れにならないうちに
- ・有線放送設備が限界にきている。有線放送に替わる情報伝達手段が必要→役員の負担軽減、防犯、防災、高齢者福祉、コミュニティの維持にも影響がある。早急に解決しなければいけない課題である。コミュニティ維持のためには単位自治組織でよいが、地域の振興や活性化には広域での取り組みが必要。
- ・これから集落を担う40代～50代限定による交流施策により自治会運営へ活躍できる組織の拡充。
- ・今後は役員のなり手不足が深刻になると心配している。

問1. 貴自治会等のコミュニティ活動の良いところ（特徴、魅力など）はどのようなところだと思いますか。

《自由記述から一部抜粋》

- ・小世帯、少人口のためまとまりがある。事業の開催等についても理解がある。
- ・防災意識が高い。観光業のことも考えていただきとても感謝しています。
- ・自然環境が良い！海、山、川があり四季を通じてさまざまな地域活動（祭り、運動会、海水浴等）を行うことができる。
- ・世帯数が少ない分状況把握がしやすい。活動等も可能な範囲で行っている。
- ・各自治会組織の部会の方々それぞれ大変頑張っていて活動している。三地区の総代、部長等大変一生懸命である。
- ・自治会の行事等には人口が少なくなっているので一人一人の意識が変わってきており、参加率が良くなっている。
- ・伝統文化の継承やイベント等を通じて会員の交流があること。
- ・小さいながらも規模にあった活動をしている。みんなが協力してできる範囲のことをやっている。
- ・担当部署だけでなく、会長を筆頭として自治会全ての役員、部長が活動に参加協力している。
- ・戸数も少ないため、互いに協力し合って高齢者でも地域で生活していけるようにしている。
- ・人口、世帯数の減少、又働き方の多様化によりコミュニティ活動は困難となりつつあります。協動的でまとまりのある集落であると思います。

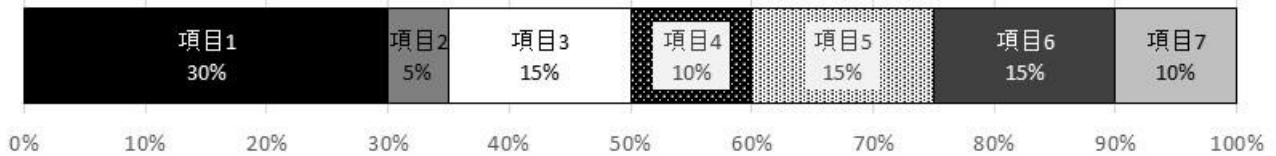
問2. 貴自治会等のコミュニティ活動の足りないところ（課題、問題点など）はどのようなところだと思いますか。

《自由記述から一部抜粋》

- ・いろいろな考えの方がいるので一つの方向に導くのは大変だと思います。
- ・高齢化が進んでおり、世帯数が減少していることから自治会活動やその他活動においても一定の家庭に役割が増えている。
- ・子供や若者（特に女性）が少なく活気がいまいち少ないのでは。
- ・女性陣の活躍の場がいまいち拡充されておらず、集落のコミュニティ活動に、ほとんど参加できていないところ。時代を担う世代と自治会役員または高齢者間の意見交換が少ない。
- ・自治会事業に参加者が少なく自治会役員が苦勞している。
- ・人手不足。特に若者。コミュニティ活動が制限される。
- ・高齢化により自治会としての行事を開催できなくなっており、また老人クラブも解散してしまい、高齢者が集まる場もなくなっている。
- ・頑張っている方々への協力ではなく逆に批判したり足を引っ張る人がいる。
- ・少子高齢化により自治会運営等小規模化している。あわせて共同作業や各世帯の負担金など今後課題となってくる。
- ・小さい地域なので共同作業において一人一人が貴重な存在であるが参加されない（参加しようとしにくい）世帯がある。

問3. 項目1～7のうち、今後力を入れていきたい項目を教えてください

(N=20)



今後力を入れていきたい項目は、「項目1」(30%)、「項目3」(15%)、「項目5」(15%)、「項目6」(15%)、「項目4」(10%)、「項目7」(10%)、「項目2」(5%)の順となった。

≪「具体的に考えている事業や取り組んでみたい事業」の自由記述から一部抜粋≫

項目1

- ・時代を担う世代、女性陣、自治会役員等による意見交換、交流の場をつくること。集落をもっと好きになる、集落について考えてみようかというきっかけなど機会をつくること。自治会員それぞれに自分が自治会の一躍を担っているという自覚をうえつけること。
- ・全部大事な項目だと思います。青年団の方々の年齢も上がってきていて若い人が減ってきていますが持続していくため皆さん悩んでいるところです。

項目2

- ・健全な自治会運営に向け、地縁団体への移行を検討している。

項目3

- ・自治組織のあり方の検討。1. 関、興屋、原海の統合。2. 公民館の開館時間の見直しと経費削減。
- ・人口減少による各部の再編に伴い人件費削減。

項目4

- ・現在新規の事業についてはいくつかの案はありますが、実際にはいかに現状を維持すべきかを考えます。

項目5

- ・子供を育てている現状にありますが、どこの土地、地域と比較しても負けないくらいに子育て環境には良い地域だと思っております(温海全体=旧温海町)。これからは若者世代を温海に誘致するなど、いろいろPRする機会などを設け、人口減少対策などを行っていければよいと考えます。
- ・若者が鶴岡市内に移住してしまうのは大きな問題です。魅力ある観光地となり、働く場所が増えるよう取り組んでいる最中です。
- ・高齢者から子供たちへ生活の知恵を学ばせる。農業、山菜採り等。

項目6

- ・高齢者でも可能な健康づくり(ウォーキング、ボッチャ等)。

項目7

- ・小さな拠点づくりの事業に取組み旧五十川小学校を拠点にしたコミュニティづくりを推進しています。アンケートを実施して次は会を立ち上げる準備をしています。

問4. 貴自治会等の住民が安心して、楽しく暮らすために、どのような取組（事業など）が必要だと思いますか。

《自由記述から一部抜粋》

- ・自主防災組織の機能強化、高齢者世帯のバックアップ。
- ・花、ベンチ、休憩スペースのメンテナンス活動。魅力ある店舗の創生事業。
- ・自然災害が多発傾向にあるので、海、山、川を抱えている自治会として、みんなが災害対策意識を持つこと、また有事に備えること（定期的な訓練を継続して行う）が大切だと思います。
- ・人口減少、高齢化に負けない皆で楽しく暮らす事業なんてそう簡単には見つかりません。誰も人口が増えるなんて思っていないしそんな中にも絶対何かあるはずです。
- ・去年の地震の記憶もいまだに生々しく防災についての取組み、又高齢者の迅速な避難なども考慮すべきかと思います。
- ・1. 防災への対応→災害がおきた場合の避難所で三密にならないようにする取組み。防災意識を高める工夫が必要。2. お互いの思いやり（あたたか弁当、隣組での声掛け運動等）が必要。3. 健康（健康体操→さくら会、グラウンドゴルフ）。
- ・住民同士の良い関係の構築をできるような機会をつくる。既存の行事などを参加できない高齢者等が参加できるような工夫をする。
- ・現状では相互の助け合いでなんとかなっているが、この先買物支援や移動手段の確保が課題になってくると思われる。また消防団員の確保ができず防災体制にも不安がある。
- ・有事の際の行動等のありかたをもっと具体的につめる必要があると思う。

問5. その他、地域コミュニティに関してご意見がございましたらご記入ください。

《自由記述から一部抜粋》

- ・当自治会も少子高齢化に伴い事業等縮小しています。広域コミュニティ組織との連携が必要になると予想されます。
- ・温海はとても素敵な地域であり、生まれ故郷として誇れる場所です。今後も素敵な温海を守り続けていけるよう、また地域を盛り上げて行けるよう地域活動に皆さんが積極的に参加する環境を整えば良いかなと思います。
- ・活動することに意味があるのではなく、やはり結果が必要だと思います。数多くのコミュニティを見てきましたが、活動を始めることを重視して結果をみないまま終わってしまう例が多くある様に思う。
- ・新型コロナウイルスで地域コミュニティとしてのすべての行事が中止となっている。コロナの時代にどうしたらコミュニティとしての行事等ができるか考えていかなければならない。（コロナを恐れてすべて中止では工夫がない。前向きに考える必要がある。）
- ・住民にとって、自分の健康を維持することには大変興味を示し、健康教室などには参加者が多く良い事だと思っている。
- ・道路舗装の傷み、河川の成長した草木などが集落の景観を損ねている。管理者による適正な管理を。
- ・この地域には釜谷坂隧道というトンネルがあって数年前より通行止めとなっている。先日工事について説明があった。最近の地震でも被害のなかったトンネルを通行止めにしておく理由というのは、行政の意向とか都合なのでしょう。心配事は明日起こるかもしれないし、100年後かもしれない。現実温海方面に向かう場合に見通しの悪い交差点から国道に出る際に事故にあうのと、トンネルの崩落にあうのはどちらが確率が高いのかはわからないが、毎日原付バイクで買物するために国道を歩いて行く、トンネルを通れないために遠回りを余儀なくしている。温海地域の人との交流が疎遠になっている。何を言っても変わらないのは十分過ぎるほど理解しております。現実の報告です。
- ・当集落ばかりが老齢化が進み人口が少なくなり自治会運営がなりたなくなる。（集落の合併を考えるべきか）

鶴岡市地域コミュニティ推進計画(第1期)の評価に係る アンケートへのご協力をお願い

皆様には、日頃より市政にご協力をいただき、ありがとうございます。

本市では、安全で安心して暮らせる地域コミュニティを築くため、各地域の現状と特性に配慮した地域コミュニティに係る取組を定めた「鶴岡市地域コミュニティ推進計画」を策定し、平成28年から令和2年度までの5年間を取り組み期間として進めてきました。

この度、次期推進計画の策定にあたり、住民主体によるまちづくり活動の現状を把握するとともに、今後のまちづくりの在り方や方向性を探るため、アンケート調査を実施することとなりました。いただいた回答は、地域コミュニティの維持・活性化に活かされます。

つきましては、ご多用の折大変恐縮とは存じますが、調査の趣旨をご理解いただき、アンケートにご協力くださいますようお願いいたします。

令和2年5月

鶴岡市長 皆川 治

ご記入にあたってのお願い

1. 貴地区のまちづくり活動の現在の状況についておたずねします。役員や事務局の方々のご相談のうえご記入をお願いします。
2. 第1期計画における目標「目指す5年後の方向性」の実現に向け、鶴岡地域では、以下の「5項目」を重点的な取組として推進してまいりました。取組の具体的事例を参考に、あてはまる選択肢にチェック☑をお願いします。また、「全般1～5」についてもご記入をお願いします。
3. 記入いただいた調査票は、6月15日(月曜日)まで鶴岡市コミュニティ推進課へ提出願います(FAX可25-2997)。
4. このアンケートについてのお問い合わせは、下記をお願いします。

鶴岡市コミュニティ推進課 ☎25-2111 内線129

鶴岡市地域コミュニティ推進計画 <<目指す5年後の方向性(令和2年度)>>

地域特性を活かした住民主体による持続可能な地域づくりを進め、
住民の安全・安心な暮らしを確保するとともに、さらに心豊かな暮らしを築く

※この実現に向け、鶴岡・藤島・羽黒・櫛引・朝日・温海の6地域の特性や実情に配慮し、地域ごとに課題と取組を定めました。鶴岡地域の課題と取組は、次の項目1～5になります。

項目1. 地域課題解決型運営の強化と単位自治組織の機能分担を図りましたか？

★取組の具体的事例

- 地域課題解決の取組に向け、幅広い年齢層や様々な立場の住民が参加するワークショップ等を通じ、広く住民の声を反映した「地域ビジョン」を策定する。
- 単位自治組織が行う諸事業へのサポートを行う。
- 自主防災活動等の単位自治組織と広域コミュニティ組織の機能補完・役割分担を共有する

【背景・課題】

鶴岡地域では、これまで30年余に渡り単位自治組織と広域コミュニティ組織が共存し、活発な地域コミュニティ活動が展開されてきました。しかし、昨今の社会情勢の変化により、単位自治組織が抱える地域課題は多様化し、また、機能維持は難しくなっており、広域コミュニティ組織による機能補完と事業等へのサポートが必要です。

今後、特に必要性が高まる地域の安全・安心の確保をはじめとした地域課題の解決を図るため、単位自治組織と広域コミュニティ組織が、一層の連携・協力のもと、機能や役割を分担しながら取り組むことが必要です。

項目2. 将来を見据えた持続可能な組織づくり、魅力的な事業づくりに積極的に取り組みましたか？

★取組の具体的事例

- 各種団体の事務局や機能を広域コミュニティ組織に集約する、あるいは取り込んだ機能を見直す等、地区の現状に応じた組織の再構築を図る。
- 住民の声を反映した活動の優先順位付けや事業内容の見直しを図る。
- 広域コミュニティ組織職員を対象とした各種研修会へ参加する。

【背景・課題】

事業が多く事務局の負担が増加していることや、役員が一斉に交代するところ等もあり、地域課題の解決に積極的に動けない状況が伺えることから、組織の機能や役割、既存事業の内容等を見直す等、持続可能な組織づくりが必要です。

また、事業においては、マンネリ化や参加者の固定化、担い手不足が問題となっており、若者等を惹きつける魅力的な事業企画・運営が必要です。

項目3. 地域の課題解決やコミュニティ活動の輪を広げるための取組を行いましたか？

★取組の具体的事例

- 地域の困りごと相談とその課題解決に向けたコーディネートを行う。

- 各種団体組織による組織連携に向けた情報交換会を開催する。
- 住民活動の場を広げるコーディネートを行う。
- コミュニティ広報紙の内容の充実による情報発信力の強化を図る。
- 地域で活躍できる人材育成のための研修へ参加する。

【背景・課題】

住民等における課題解決に向けた取組を、地域資源（組織・団体、人材等含む）や行政とつなぎ支援していく役割が必要です。また、コミュニティセンター等を起点に、人材を育成・発掘するとともに、情報発信力を強化しながら、団体相互の交流や団体等の新たな地域活動への関わりを設ける等、地域コミュニティ活動の輪を広げる役割が必要です。

項目4. 地域課題解決の手法として地域資源を活かしたコミュニティビジネスの検討を行いましたか？

★取組の具体的事例

- コミュニティビジネスの取組に向けた検討を行う。

【背景・課題】

豊かな地域資源の有効活用や高齢者生活ニーズへの対応等、地域課題解決の手法として、持続性や経済性の観点から、コミュニティビジネスの取組に向けた検討が必要です。

項目5. 地域の魅力を再発見し地域の子どもの郷土愛を育む環境づくりに取組みましたか？

★取組の具体的事例

- 放課後子ども教室等を活用し、子ども達の郷土愛を育む地域教育活動を実践する。

【背景・課題】

地域への無関心層が拡大しています。また、郊外地では小学校の再編が進み、学校と地域が協力して取り組んできた事業がなくなる等、地域と子どものつながりが薄れることによる地域活力の低下等が懸念されています。地域と子どものつながりを深めながら、地域や地域に住む人の魅力を再発見できる機会を提供する等、地域の子どもの郷土愛を育む取組が必要です。

全般1. 地域コミュニティの目指す5年後の方向性について、計画策定時(平成27年度)と比べてどのように変化したと感じているか教えてください

全般2. 項目1～5のうち、貴地区が特に力を入れて取り組んだ項目を教えてください

全般3. 現在、項目1～5の取組をどの程度重視しているか教えてください

全般4. 項目1～5のうち、今後力を入れていきたい項目を教えてください

全般5. その他、地域コミュニティに関してご意見がございましたらご記入ください

ファクス提出の場合 FAX:25-2997 市役所コミュニティ推進課行

【提出期限 令和2年 6 月 15 日(月曜日)】

項目 1. 地域課題解決型運営の強化と単位自治組織の機能分担を図りましたか？	
<p>あてはまるもの1つに☑</p> <p><input type="checkbox"/> 実施し、効果があった</p> <p><input type="checkbox"/> 実施したが、効果が無かった</p> <p><input type="checkbox"/> 実施しなかった</p>	<p>「実施し、効果があった」「実施したが、効果が無かった」と回答した場合、自慢できる取組や効果の有無を判断した理由をご記入願います。</p> <p>()</p> <p>「実施しなかった」と回答した場合、その理由や必要であると考えている取組をご記入願います。</p> <p>()</p>

項目 2. 将来を見据えた持続可能な組織づくり、魅力的な事業づくりに積極的に取り組みましたか？	
<p>あてはまるもの1つに☑</p> <p><input type="checkbox"/> 実施し、効果があった</p> <p><input type="checkbox"/> 実施したが、効果が無かった</p> <p><input type="checkbox"/> 実施しなかった</p>	<p>「実施し、効果があった」「実施したが、効果が無かった」と回答した場合、自慢できる取組や効果の有無を判断した理由をご記入願います。</p> <p>()</p> <p>「実施しなかった」と回答した場合、その理由や必要であると考えている取組をご記入願います。</p> <p>()</p>

項目 3. 地域の課題解決やコミュニティ活動の輪を広げるための取組を行いましたか？	
<p>あてはまるもの1つに☑</p> <p><input type="checkbox"/> 実施し、効果があった</p> <p><input type="checkbox"/> 実施したが、効果が無かった</p> <p><input type="checkbox"/> 実施しなかった</p>	<p>「実施し、効果があった」「実施したが、効果が無かった」と回答した場合、自慢できる取組や効果の有無を判断した理由をご記入願います。</p> <p>()</p> <p>「実施しなかった」と回答した場合、その理由や必要であると考えている取組をご記入願います。</p> <p>()</p>

項目 4. 地域課題解決の手法として地域資源を活かしたコミュニティビジネスの検討を行いましたか？	
<p>あてはまるもの1つに☑</p> <p><input type="checkbox"/> 実施し、効果があった</p> <p><input type="checkbox"/> 実施したが、効果が無かった</p> <p><input type="checkbox"/> 実施しなかった</p>	<p>「実施し、効果があった」「実施したが、効果が無かった」と回答した場合、自慢できる取組や効果の有無を判断した理由をご記入願います。</p> <p>()</p> <p>「実施しなかった」と回答した場合、その理由や必要であると考えている取組をご記入願います。</p> <p>()</p>

項目5. 地域の魅力を再発見し地域の子どもの郷土愛を育む環境づくりに取り組みましたか？

あてはまるもの1つに☑ <input type="checkbox"/> 実施し、効果があった <input type="checkbox"/> 実施したが、効果が無かった <input type="checkbox"/> 実施しなかった	} } →	「実施し、効果があった」「実施したが、効果が無かった」と回答した場合、自慢できる取組や効果の有無を判断した理由をご記入願います。 () 「実施しなかった」と回答した場合、その理由や必要であると考えている取組をご記入願います。 ()
--	-------------	--

全般1. 地域コミュニティの目指す5年後の方向性について、計画策定時(平成27年度)と比べてどのように変化したと感じているか教えてください

あてはまるもの1つに☑

住民主体による持続可能な地域づくり

前進した どちらかといえば前進した 以前と変わらない 後退した

住民の安全・安心な暮らしの確保

前進した どちらかといえば前進した 以前と変わらない 後退した

心豊かな暮らしの構築

前進した どちらかといえば前進した 以前と変わらない 後退した

全般2. 項目1～5のうち、貴地区が特に力を入れて取り組んだ項目を教えてください

あてはまるもの1つに☑

項目1 項目2 項目3 項目4 項目5

その他 ()

全般3. 現在、項目1～5の取組をどの程度重視しているか教えてください

あてはまるもの1つに☑

項目1

重視している やや重視している どちらともいえない 重視していない

項目2

重視している やや重視している どちらともいえない 重視していない

項目3

重視している やや重視している どちらともいえない 重視していない

項目4

重視している やや重視している どちらともいえない 重視していない

項目5

重視している やや重視している どちらともいえない 重視していない

全般4. 項目1～5のうち、今後力を入れていきたい項目を教えてください

あてはまるもの1つに☑

- | | | | | |
|----------------------------------|------------------------------|------------------------------|------------------------------|------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 項目1 | <input type="checkbox"/> 項目2 | <input type="checkbox"/> 項目3 | <input type="checkbox"/> 項目4 | <input type="checkbox"/> 項目5 |
| <input type="checkbox"/> その他 () | | | | |

また、具体的に考えている事業や取り組んでみたい事業がありましたら、記入ください。

自由記述

全般5. その他、地域コミュニティに関してご意見がございましたらご記入ください

自由記述

ご協力ありがとうございました。

広域コミュニティ活動に参加されている皆様へ
第 2 期鶴岡市地域コミュニティ推進計画策定に係る
アンケートへのご協力をお願い

皆様には、日頃より市政にご協力をいただき、ありがとうございます。

本市では、安全で安心して暮らせる地域コミュニティを築くため、各地域の現状と特性に配慮した地域コミュニティに係る取組を定めた「鶴岡市地域コミュニティ推進計画」を策定し、平成 28 年から令和 2 年度までの 5 年間を取り組み期間として進めてきました。

この度、第 2 期推進計画の策定にあたり、住民主体によるまちづくり活動の現状を把握するとともに、今後のまちづくりの在り方や方向性を探るため、アンケート調査を実施することとなりました。いただいた回答は、地域コミュニティの維持・活性化に活かされます。

つきましては、ご多用の折大変恐縮とは存じますが、調査の趣旨をご理解いただき、アンケートにご協力くださいますようお願いいたします。

令和 2 年 5 月

鶴岡市長 皆川 治

ご記入にあたってのお願い

1. 本調査は、広域コミュニティ活動に参加されている方々を対象として、各広域コミュニティ組織から選出いただいた皆様をお願いしています。
2. 第 1 期計画における目標《目指す 5 年後の方向性》の実現に向け、鶴岡地域では、別紙参考資料に示した「5 項目」を重点的な取組として推進してまいりました。これをふまえて、貴地区（団体、部会等）のコミュニティ活動について回答願います。
3. 記入いただいた調査票は、6 月 15 日（月曜日）まで鶴岡市コミュニティ推進課または 貴地区のコミュニティセンターへ提出願います（FAX 可 25-2997）。
4. このアンケートについてのお問い合わせは、下記に願います。

鶴岡市コミュニティ推進課 ☎25-2111 内線 129

鶴岡市における取組のご紹介

～「鶴岡市地域コミュニティ推進計画」から～

平成28年～令和2年度を計画期間とする「鶴岡市地域コミュニティ推進計画」では、次のようなことを定め、地域コミュニティの維持・活性化に向けた取組を進めてきました

鶴岡市地域コミュニティ推進計画 <目指す5年後の方向性(令和2年度)>

地域特性を活かした住民主体による持続可能な地域づくりを進め、
住民の安全・安心な暮らしを確保するとともに、さらに心豊かな暮らしを築く

※この実現に向け、鶴岡・藤島・羽黒・櫛引・朝日・温海の6地域の特性や実情に配慮し、地域ごとに課題と取組を定めました。鶴岡地域の課題と取組は、次の項目1～5になります。

項目1. 地域課題解決型運営の強化と単位自治組織の機能分担を図る

★取組の具体的事例

- 地域課題解決の取組に向け、幅広い年齢層や様々な立場の住民が参加するワークショップ等を通じ、広く住民の声を反映した「地域ビジョン」を策定する。
- 単位自治組織が行う諸事業へのサポートを行う。
- 自主防災活動等の単位自治組織と広域コミュニティ組織の機能補完・役割分担を共有する。

【背景・課題】

鶴岡地域では、これまで30年余に渡り単位自治組織と広域コミュニティ組織が共存し、活発な地域コミュニティ活動が展開されてきました。しかし、昨今の社会情勢の変化により、単位自治組織が抱える地域課題は多様化し、また、機能維持は難しくなっており、広域コミュニティ組織による機能補完と事業等へのサポートが必要です。

今後、特に必要性が高まる地域の安全・安心の確保をはじめとした地域課題の解決を図るため、単位自治組織と広域コミュニティ組織が、一層の連携・協力のもと、機能や役割を分担しながら取り組むことが必要です。

項目2. 将来を見据えた持続可能な組織づくり、魅力的な事業づくりに積極的に取組む

★取組の具体的事例

- 各種団体の事務局や機能を広域コミュニティ組織に集約する、あるいは取り込んだ機能を見直す等、地区の現状に応じた組織の再構築を図る。
- 住民の声を反映した活動の優先順位付けや事業内容の見直しを図る。
- 広域コミュニティ組織職員を対象とした各種研修会へ参加する。

【背景・課題】

事業が多く事務局の負担が増加していることや、役員が一斉に交代するところ等もあり、地域課題の解決に積極的に動けない状況が伺えることから、組織の機能や役割、既存事業の内容等を見直す等、持続可能な組織づくりが必要です。

また、事業においては、マンネリ化や参加者の固定化、担い手不足が問題となっており、若者等を惹きつける魅力的な事業企画・運営が必要です。

項目 3. 地域の課題解決やコミュニティ活動の輪を広げるための取組を行う

★取組の具体的事例

- 地域の困りごと相談とその課題解決に向けたコーディネートを行う。
- 各種団体組織による組織連携に向けた情報交換会を開催する。
- 住民活動の場を広げるコーディネートを行う。
- コミュニティ広報紙の内容の充実による情報発信力の強化を図る。
- 地域で活躍できる人材育成のための研修へ参加する。

【背景・課題】

住民等における課題解決に向けた取組を、地域資源（組織・団体、人材等含む）や行政とつなぎ支援していく役割が必要です。また、コミュニティセンター等を起点に、人材を育成・発掘するとともに、情報発信力を強化しながら、団体相互の交流や団体等の新たな地域活動への関わりを設ける等、地域コミュニティ活動の輪を広げる役割が必要です。

項目 4. 地域課題解決の手法として地域資源を活かしたコミュニティビジネスの検討を行う

★取組の具体的事例

- コミュニティビジネスの取組に向けた検討を行う。

【背景・課題】

豊かな地域資源の有効活用や高齢者生活ニーズへの対応等、地域課題解決の手法として、持続性や経済性の観点から、コミュニティビジネスの取組に向けた検討が必要です。

項目 5. 地域の魅力を再発見し地域の子どもの郷土愛を育む環境づくりに取組む

★取組の具体的事例

- 放課後子ども教室等を活用し、子ども達の郷土愛を育む地域教育活動を実践する。

【背景・課題】

地域への無関心層が拡大しています。また、郊外地では小学校の再編が進み、学校と地域が協力して取り組んできた事業がなくなる等、地域と子どものつながりが薄れることによる地域活力の低下等が懸念されています。地域と子どものつながりを深めながら、地域や地域に住む人の魅力を再発見できる機会を提供する等、地域の子どもの郷土愛を育む取組が必要です。

回答票

【広域コミュニティ組織】

地区 _____

役職 _____

名前 _____

ファクス提出の場合 FAX:25-2997 市役所コミュニティ推進課行

【提出期限 令和2年6月15日(月曜日)】

現状のコミュニティ活動について

問1. 貴地区のコミュニティ活動の良いところ(特徴、魅力など)はどのようなところだと思いますか

自由記述

問2. 貴地区のコミュニティ活動の足りないところ(課題、問題点など)はどのようなところだと思いますか。

自由記述

これからのコミュニティ活動について

問3. 参考資料をご覧ください。項目1～5のうち、今後力を入れていきたい項目を教えてください
あてはまるもの1つに☑

項目1 項目2 項目3 項目4 項目5 その他()

また、具体的に考えている事業や取り組んでみたい事業がありましたら、記入ください。

自由記述

問4. 貴地区の住民が安心して、楽しく暮らすために、どのような取組(事業など)が必要だと思いますか

自由記述

自由意見など

問5. その他、地域コミュニティに関してご意見がございましたらご記入ください。

自由記述

ご協力ありがとうございました。